

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(27)

道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

なかぞの いせき
中園A・B遺跡

2016年3月

鹿児島県西之表市教育委員会



柱穴内出土遺物(1)



柱穴内出土遺物(2)



柱穴内出土遺物(3)

序 文

本報告書は、道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴い発掘調査を実施した中園A・B遺跡の報告書であります。

中園A・B遺跡の所在する種子島は、黒潮海流の中に位置し、なだらかな大地と数多くの小川があり、緑豊かな照葉樹林が繁茂し、古くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあることから、これまでに島の各所から数多くの遺跡が発見されています。

この中園A・B遺跡からは、縄文時代早期の土器や石器類が多数出土し、建物跡と思われる遺構なども多数検出され、質・量ともに充実した資料を提示してくれたことにより、今後の郷土の歴史を理解する上で意義深い調査となりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護意識高揚の一助となることを念じる次第であります。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、発掘調査に際して全面的にご協力をいただきました鹿児島県熊毛支庁建設課・鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、立山地区の関係者、さらに貴重なご助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

西之表市教育委員会教育長 立石 望

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかぞのA・Bいせき							
書名	中国A・B遺跡							
副書名	道路整備(交付金)事業(安城工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	27							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2016年3月17日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中国A・B 遺跡	鹿児島県	462136	中国A遺跡 112	30°	131°	20110209	55 m ²	道路整備 事業
	西之表市		中国B遺跡 113	36'	02'	20110307	2,000 m ²	
	立山立山			44"	52"	緊急調査 20111017 20120305		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中国A・B 遺跡	散布地	縄文時代早期 近世相当	集石 1基 配石 7基 柱穴 75基	貝殻文系土器 土器片類・陶磁器 石器類 石鏃・石斧・剥片・ 砥石・スクレパー・ 磨石・砥石・石皿等				

例 言

1. 本書は、道路整備（交付金）事業（安城工区）に伴う中国A・B遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、鹿児島県熊毛支庁（熊毛支庁建設課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、熊毛支庁建設課が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は沖田純一郎と上畑花が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行い、遺物の復元・拓本・実測及び図面の浄書は主に古元真知子・藤本まゆみ・上畑花、他整理事業員が行った。石鏃・石斧など石器類の一部は（株）九州文化財研究所等に実測・浄書を委託し、他の石器類については上記の者が実測・浄書を行った。
7. 写真図版の遺物撮影・レイアウトは沖田純一郎及び菊池一文氏が行った。
8. 発掘調査及び整理事業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・熊本大学文学部・鹿児島大学埋蔵文化財調査室等の指導・協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会（西之表市埋蔵文化財調査室）で保管し、展示・活用する。

目 次

巻頭カラー図版 1

巻頭カラー図版 2

巻頭カラー図版 3

序文

報告書抄録

例言

第1章 調査の経過	1	第2節 層位	12
第1節 調査に至る経緯	1	第3節 遺構	12
第2節 調査の組織	3	第4節 遺物	36
第3節 調査の経過	5	(1) 土器	36
第II章 遺跡の位置と環境	6	(2) 石器	37
第1節 自然環境、第2節 歴史的環境	6	第IV章 調査のまとめ	117
第3節 遺跡の環境	7	第1節 調査結果	117
第III章 発掘調査の概要	9	第2節 調査のまとめ	117
第1節 調査の概要	9		

挿図目次

第1図 調査地位位置図	2	第14図 4号・5号配石	23
第2図 中園A・B遺跡と周辺遺跡区	8	第15図 6号・7号配石	24
第3図 中園A・B遺跡 発掘調査地	10	第16図 遺物出土状況実測図	25
第4図 包含層残存地	11	第17図 中園B遺跡 柱穴配置図	27
第5図 中園A遺跡 西側土層断面	14	第18図 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(1)	28
第6図 中園B遺跡 S区東側土層断面(1)	15	第19図 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(2)	29
第7図 中園B遺跡 S区東側土層断面(2)	16	第20図 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(3)	30
第8図 中園B遺跡 S区南側土層断面	17	第21図 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(4)	31
第9図 中園B遺跡 S区西側土層断面	18	第22図 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(5)	32
第10図 中園B遺跡 S-b区東側・北側土層断面	19	第23図 中園B遺跡 柱穴内出土遺物	33
第11図 中園B遺跡 S区遺構配置図	20	第24図 中園A遺跡 全遺物出土状況	38
第12図 1号集石・1号配石	21	第25図 中園A遺跡 土器出土状況	39
第13図 2号・3号配石	22	第26図 中園A遺跡 石器出土状況	40

第27圖	中國B遺跡 全遺物出土狀況	41	第60圖	出土石器(8)	75
第28圖	中國B遺跡 全石器出土狀況	42	第61圖	出土石器(9)	76
第29圖	中國B遺跡 口緣部出土狀況	43	第62圖	出土石器(10)	77
第30圖	中國B遺跡 胴部出土狀況	44	第63圖	出土石器(11)	78
第31圖	中國B遺跡 底部出土狀況	45	第64圖	出土石器(12)	79
第32圖	中國B遺跡 全石器出土狀況	47	第65圖	出土石器(13)	80
第33圖	中國B遺跡 石器類出土狀況	48	第66圖	出土石器(14)	81
第34圖	中國B遺跡 磨石・戴石・台石・石重槌出土狀況	49	第67圖	出土石器(15)	82
第35圖	出土石器(1)	50	第68圖	出土石器(16)	83
第36圖	出土石器(2)	51	第69圖	出土石器(17)	84
第37圖	出土石器(3)	52	第70圖	出土石器(18)	85
第38圖	出土石器(4)	53	第71圖	出土石器(19)	86
第39圖	出土石器(5)	54	第72圖	出土石器(20)	87
第40圖	出土石器(6)	55	第73圖	出土石器(21)	88
第41圖	出土石器(7)	56	第74圖	出土石器(22)	89
第42圖	出土石器(8)	57	第75圖	出土石器(23)	90
第43圖	出土石器(9)	58	第76圖	出土石器(24)	91
第44圖	出土石器(10)	59	第77圖	出土石器(25)	92
第45圖	出土石器(11)	60	第78圖	出土石器(26)	93
第46圖	出土石器(12)	61	第79圖	出土石器(27)	94
第47圖	出土石器(13)	62	第80圖	出土石器(28)	95
第48圖	出土石器(14)	63	第81圖	出土石器(29)	96
第49圖	出土石器(15)	64	第82圖	出土石器(30)	97
第50圖	出土石器(16)	65	第83圖	出土石器(31)	98
第51圖	出土石器(17)	66	第84圖	出土石器(32)	99
第52圖	出土石器(18)	67	第85圖	出土石器(33)	100
第53圖	出土石器(1)	68	第86圖	出土石器(34)	101
第54圖	出土石器(2)	69	第87圖	出土石器(35)	102
第55圖	出土石器(3)	70	第88圖	出土石器(36)	103
第56圖	出土石器(4)	71	第89圖	出土石器(37)	104
第57圖	出土石器(5)	72	第90圖	出土石器(38)	105
第58圖	出土石器(6)	73	第91圖	柱穴內出土遺物(1)	106
第59圖	出土石器(7)	74	第92圖	柱穴內出土遺物(2)	107

表目次

第 1 表	中國 A・B 遺跡周辺遺跡地名表	7	第 7 表	石器觀察表(1)	111
第 2 表	柱穴觀察表(1)	34	第 8 表	石器觀察表(2)	112
第 3 表	柱穴觀察表(2)	35	第 9 表	石器觀察表(3)	113
第 4 表	土器觀察表(1)	108	第 10 表	石器觀察表(4)	114
第 5 表	土器觀察表(2)	109	第 11 表	石器觀察表(5)	115
第 6 表	土器觀察表(3)	110	第 12 表	柱穴内出土遺物	116

写真図版

図版 1	発掘調査状況	119	図版 22	出土石器	140
図版 2	発掘調査状況	120	図版 23	出土石器	141
図版 3	遺物出土状況	121	図版 24	出土石器	142
図版 4	発掘調査状況	122	図版 25	出土石器	143
図版 5	発掘調査状況	123	図版 26	出土石器	144
図版 6	発掘調査状況	124	図版 27	出土石器	145
図版 7	発掘調査状況	125	図版 28	出土石器	146
図版 8	集石・配石遺構	126	図版 29	出土石器	147
図版 9	配石遺構及C形遺構内出土遺物	127	図版 30	出土石器	148
図版 10	遺物出土状況	128	図版 31	出土石器	149
図版 11	遺物出土状況	129	図版 32	出土石器	150
図版 12	遺物出土状況	130	図版 33	出土石器	151
図版 13	柱穴「掘立柱建物跡」検出状況	131	図版 34	出土石器	152
図版 14	柱穴検出状況	132	図版 35	出土石器	153
図版 15	出土石器	133	図版 36	出土石器	154
図版 16	出土石器	134	図版 37	出土石器	155
図版 17	出土石器	135	図版 38	出土石器	156
図版 18	出土石器	136	図版 39	出土石器	157
図版 19	出土石器	137	図版 40	柱穴内出土遺物	158
図版 20	出土石器	138	図版 41	発掘調査作業員	159
図版 21	出土石器	139			

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至る経緯

鹿兒島県土木部道路建設課（熊毛支庁土木課・現熊毛支庁建設課）は、西之表市安城・立山地区内において県道（西之表南種子線）改築事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿兒島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これをうけて、県文化財課が平成 13 年 3 月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に 10 箇所の遺跡が所在することが判明した。

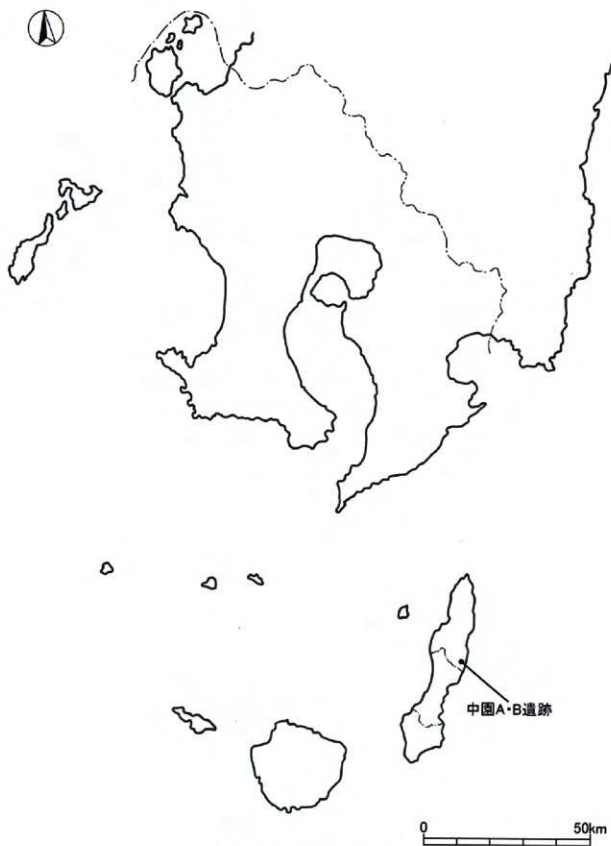
分布調査の結果をもとに熊毛支庁土木課・県文化財課・西之表市教育委員会文化課（平成 15 年度より社会教育課となる）は、遺跡の取り扱いについて協議を行い、工事年度等を考慮しながら、年次的に遺跡の有無・範囲・内容等を把握するため、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

中圖 A・B 遺跡の確認調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成 23 年 2 月から 3 月にかけて実施した。調査の結果、土器・石器などの遺物が出土し遺物包含層が確認された。時期区分では縄文時代早期のもので、工事対象地内の一部に遺跡は広がっていることが確認された。

確認調査の結果に基づき、西之表市教育委員会と熊毛支庁建設課、県文化財課で遺跡の取り扱いについて協議した結果、工事対象地内において遺跡の現状保存は不可能であり、緊急発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

中圖 A・B 遺跡の緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成 23 年 10 月から開始した。調査の結果、縄文時代早期の遺構・遺物が出土し、特に大量の石器類が出土した点が特筆される。また当初想定していなかった多数の柱穴が検出されたため、検出作業・実測・写真撮影・柱穴内の遺物取り上げなど、柱穴の記録保存作業にかなりの時間を割くこととなった。調査終了後の一部埋め戻しや機材・プレハブ等の撤去など発掘調査に関わる業務が終了したのは平成 24 年 3 月であった。

整理作業・報告書作成作業は平成 24 年度から平成 27 年度にかけて行った。すでに調査を終えていた三本松遺跡の整理・報告書作成作業と同時に進行しなければならなかった点や、大量の石器類及び柱穴出土の遺物類の整理作業等に時間をとられる事、石器類も大型のものが多く、実測作業にも通常より時間がかかる事、柱穴の図面精査・図化作業等においても柱穴の検出数が多量である事など、出土した遺物・遺構の性格等を総合的に判断した結果、整理・報告書作成作業が複数年度に及ぶことになることが想定されたが、事業主体者である熊毛支庁の協力をいただき、実施することとなった。



第1圖 調査地位置図

第2節 調査の組織

発掘調査組織

確認調査（平成22年度）

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	有島 正之
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
調査庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主査	日高 成子
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
調査指導	鹿児島県教育庁文化財課		
発掘調査作業員	鯨島新吉 武田芳秀 宮野幸二 平石かつえ 荒井美佳子 藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花 中目はるか		

緊急発掘調査（平成23年度）

調査主体	西之表市教育委員会		
調査責任者	西之表市教育委員会	教育長	有島 正之 (平成23年10月24日まで) 教育長 立石 望 (平成23年10月25日～)
調査企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
調査庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主査	日高 成子
調査担当	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
調査指導	鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島大学・熊本大学		
発掘調査作業員	鯨島新吉 田上友治 武田芳秀 中村和弘 深野木喜郎 和田正俊 宮野幸二 平石かつえ 小倉みよ子 武田美津子 中村波子 藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花 中目はるか		

整理・報告書作成作業組織

（平成24年度）

作業主体者	西之表市教育委員会		
作業責任者	西之表市教育委員会	教育長	立石 望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課長	奥村 学
	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主査	日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	文化係長	沖田純一郎

整理作業協力	熊本大学・鹿児島大学・鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・九州国立博物館・福岡市埋蔵文化財センター	
整理作業員 (平成25年度)	藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花	
作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 立石 望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 中村 章二
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
整理作業協力	鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・鹿児島大学・鹿児島大学総合研究博物館・国立歴史民俗資料館・九州文化財研究所	
整理作業員 (平成26年度)	藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花	
作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 立石 望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 中村 章二
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 査 日高 成子
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
整理作業協力	鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・鹿児島大学・鹿児島大学総合研究博物館・九州文化財研究所	
整理作業員 (平成27年度)	藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花	
作業主体者	西之表市教育委員会	
作業責任者	西之表市教育委員会	教 育 長 立石 望
作業企画	西之表市教育委員会社会教育課	課 長 松下 成悟
	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
作業庶務担当	西之表市教育委員会社会教育課	主 事 荒河 翼
整理作業担当	西之表市教育委員会社会教育課	課長補佐兼文化係長 沖田純一郎
整理作業協力	鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県歴史資料センター黎明館・鹿児島県立博物館・鹿児島大学・鹿児島大学総合研究博物館・九州国立博物館・熊本大学	
整理作業員	藤本まゆみ 古元真知子 上畑 花	

第3節 調査の経過

緊急発掘調査は、平成 23 年度に実施した。工事計画図面をもとに、調査対象地に 5m グリッドを設置し、重機により無遺物層までを除去した後、人力により掘り下げを行い、調査を進めていった。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

「平成 23 年度 緊急発掘調査」

10 月	10 月 17 日から調査開始。北区、南区掘り下げ作業。南側表土剥ぎ。北側土器片数点出土。(塞ノ神式土器) 東西壁面清掃作業。写真撮影。土層断面分層、土層断面実測作業。平板・レベル遺物取り上げ。排土処理作業。 立山小学校教諭、児童来跡。奥村課長来跡。
11 月	S 区掘り下げ。礫、土器片多量出土。S 区平板・レベル遺物取り上げ。石礫 1 点・土器片・石器類出土。排土処理。写真撮影。配石検出。S 区東西掘り下げ。貝殻刺突文土器点出土。遺構検出。平板・レベル遺物取り上げ。遺物洗浄。写真撮影。表土剥ぎ。立山小学校 5 名、校長、教員計 8 名発掘体験。熊毛支庁建設課県道担当 2 名、小倉良光氏 (立山校区長) 来跡。
12 月	S 区平板・レベル土器取り上げ。S-a 区、S-b 区掘り下げ東側曾畑式土器 1 点出土。石器出土状況実測開始。S 区掘り下げ、黒い柱穴検出。S-b 区清掃、遺物洗浄、壁面清掃、写真撮影。平板・レベル遺物取り上げ。表土剥ぎ、排土処理。遺構平面・断面実測。 新東氏 (南九州縄文研究会代表)、小畑氏 (熊本大学)、杉山氏 (古環境研究所所長)、山元氏 (中種子教委)、現場案内・視察・指導。教育長、奥村課長、熊毛支庁 2 名来跡。
平成 24 年 1 月	S-b 区北側掘り下げ。柱穴半截掘り下げ、写真撮影。集石平面実測。S 区土層断面作成。柱穴平面・断面実測。柱穴清掃、床面掘り下げ。柱穴内青磁碗出土。熊毛支庁 2 名、職場体験種子島中学校 2 名。 曾木氏、川口氏 (鹿児島県教育庁文化財課)、橋元氏 (市教委)、神崎課長 (市民生活課) 来跡。
2 月	柱穴平面・断面実測、掘り下げ。写真撮影。平板・レベル遺物取り上げ。
3 月	柱穴掘り下げ。柱穴断面実測。 調査地内清掃・写真撮影。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 自然環境

中圖A・B遺跡の所在する種子島は、大隅半島最南端の佐多岬から南東約40kmの洋上に位置する。面積447.0㎡、延長52km、幅12kmで中種子町野間の地峡部では約6kmに過ぎない。最高海拔は、282.3mの比較的平で、九州最高峰の宮之浦岳（標高1935m）を有する屋久島とは地形的に対照的な島である。島の長軸は、北北東から南南西に細長く伸びており、九州本土や琉球列島の配列にほぼ近い。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

地質構造は、島全体に海岸段丘がよく発達しており、種子島北部の国上丘陵地域では高度60m、中部の中種子町中山から油久にかけては高度80m、南部の南種子町門倉付近では高度100mにも達する。この海岸段丘は西之表市の東西海岸、中種子町全域、南種子町の西側に見られ、極めて特徴的である。西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。

第2節 歴史的環境

これまでの考古学的調査により、種子島は南島北部文化課園（本土南九州の影響を受けた南九州文化圏）に属すると考えられている。この南九州文化圏に包括される種子島の遺跡を概観してみると、平成4年に発掘調査が行われた横峯C遺跡で礫群が検出され、約4万年前の後期旧石器時代の年代値が測定され、種子島で初めて旧石器時代の遺跡の存在が明らかとなった。その後の調査で、旧石器時代の遺跡が続々と発見され、立切遺跡（中種子町）や、同時期の国内最古級の落とし穴が多数発見された大津保畑遺跡（中種子町）などがあり、旧石器時代の様相を考えるうえで全国的に注目されている。それ以後のナイフ形石器の文化層は現在種子島では確認されていないが、いわゆる旧石器時代終末期とされている細石刃核・細石刃が確認された遺跡は湊遺跡・大中峯遺跡・葉山遺跡（西之表市）・立切遺跡（中種子町）・銭亀遺跡（南種子町）などがある。湊・大中峯遺跡は表面採集資料ではあるが、細石刃核、細石刃、剥片、碎片が採集されている。

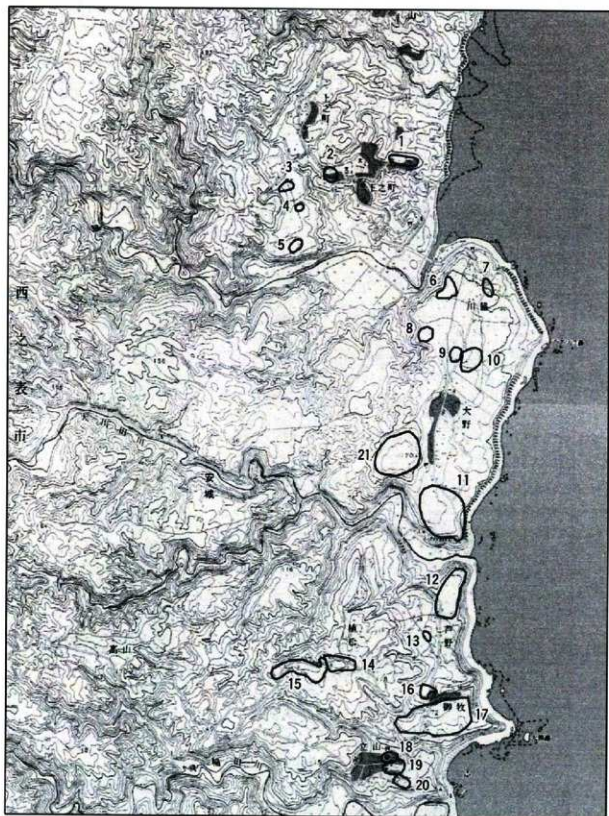
縄文時代では、近年の調査で縄文時代草創期の良好な資料・遺構が相次いで発見されている。奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査で縄文時代草創期の遺跡が本土以南で初めて確認され、その後三角山遺跡（中種子町）・鬼ヶ野遺跡（西之表市）・横峯C・D遺跡の調査で隆帯土器片や石器類、多数の遺構が発見されている。その後の縄文時代早期では前平式・吉田式・塞ノ神式・平裕式などが出土した遺跡の報告例が多数あり、良好な資料が増加している。近年の調査ではこれまで報告例が少なかった押型土器・手向山式土器の出土報告例もみられるようになっていいる。平成15年度から平成23年度にわたり、西之表市東南部地区（安城・立山地区）において県道整備事業に伴う発掘調査が西之表市教育委員会により実施され、縄文時代早期の資料数が増加してきている。また、遺跡や出土遺物が国の重要文化財に指定された「廣田遺跡（南種子町）」など、極めて重要な遺跡がこれまでに島内で発見、報告されていることも特筆される。

第3節 遺跡の環境

中國A・B遺跡は西之表市の東南部、立山地区の台地上に位置する。遺跡の周囲には縄文時代草創期・早期の遺跡が多数所在する。多数の遺跡がこの地に所在する理由として、食料の確保が容易にできる環境化にあり（豊富な植物性食料・照葉樹林の発達）、海岸部までの距離がそれほど遠くないことなどが挙げられる。また各遺跡周辺には名前が付かないような小川や水源地がいたるところにあり、水の確保も十分であったと思われる。石器の石材を、周辺の河原や海岸部から持ち込んでいることなどを見ると、石材の採取も容易であったことが伺える。

第1表 中國A・B遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	仮堅園	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成10年農政分布調査
2	通利山	西之表市安城上之町	縄文時代	平成13年県道分布調査 平成15年試掘調査
3	鬼ヶ野A	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
4	鬼ヶ野B	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
5	鬼ヶ野	西之表市安城上之町	縄文時代草創期	平成13年発掘調査
6	日守C	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
7	三本松	西之表市安城川脇	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査
8	日守B	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
9	日守	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成7・8年発掘調査
10	長迫	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成13年県道分布調査 平成13年試掘調査
11	東前平	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成14・15年発掘調査
12	芦野	西之表市立山芦野	縄文時代早期	平成16年度発掘調査 本報告書
13	九郎三エ門	西之表市立山芦野	縄文時代	平成3年農政分布調査
14	奥嵐	西之表市立山植松	縄文時代早期	平成5年発掘調査
15	奥ノ仁田	西之表市立山植松	縄文時代草創期 早期	平成5年発掘調査 出土品は県文化財に指定
16	尾呂ノ平	西之表市立山御牧	縄文時代	平成13年県道分布調査
17	長崎	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
18	中國A	西之表市立山	縄文時代	平成23年発掘調査
19	中國B	西之表市立山	縄文時代	平成23年発掘調査
20	下ノ平	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
21	銀ノ刃	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査



第2図 中園A・B遺跡と周辺遺跡図

第三章 発掘調査の概要

第1節 調査の概要

平成23年度に中国A・B遺跡の緊急発掘調査を行った。調査は北側にあたるA遺跡から行い、A遺跡の調査が終了後、南側にあたるB遺跡の調査を行った。調査面積はA・B遺跡あわせて2,000㎡であり、出土した遺物はパンケース約150箱分であった。便宜上、A遺跡をN区、B遺跡をS区として図面等は作成した。以下、A遺跡・B遺跡ごとに調査の概要を述べる。

中国A遺跡の調査

発掘調査は、表土を除去後、人力で掘り下げながら、遺物・遺構の検出を行った。遺物は第Ⅲ層から出土し、縄文時代早期の塞ノ神式の土器類や同時期の石器類の出土があった。北側部分に遺物は集中して出土する傾向が見られた。遺構等は検出されず、遺物包含層が一部削平されている部分も見られた。

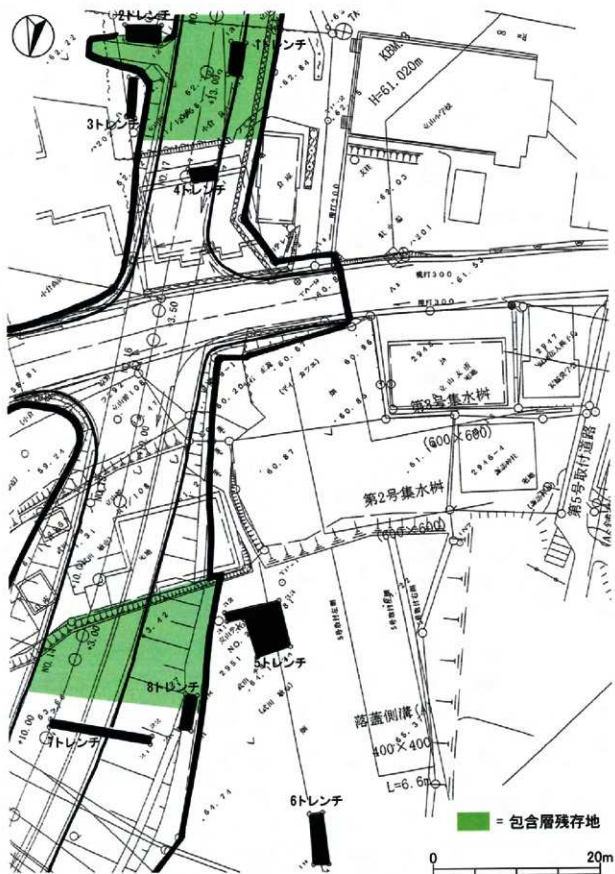
中国B遺跡の調査

本調査の主体となる部分である中国B遺跡の発掘調査は、調査地の表土を重機で取り除いた後、5mグリッドを設置し、人力で掘り下げながら、遺物及び遺構の検出を行った。A遺跡に比べ遺物の出土分布が非常に密であり、遺物の平板実測・レベル測定作業にかなりの時間を割いた。調査地の土層断面及び検出された全ての遺構、土器集中出土地においては実測作業を行い、遺構の検出状況・遺物出土状況・土層断面・作業状況などは写真撮影で記録を行った。

B遺跡は、縄文時代早期及び近世の遺構が検出された。縄文時代早期のものとして、集石遺構が1基・配石遺構が7基検出された。検出面は第Ⅲ層であった。近世のものとしては、柱穴が75基検出され、柱穴の配置から4棟の掘立柱建物跡になることが確認された。柱穴の検出面は第Ⅰ層下位であった。遺物は、縄文時代早期相当の土器類及び石器類、及び柱穴内から出土したものである。遺物の出土は、特に南側に集中して出土する傾向が見られた。縄文時代早期相当の土器は、文様からは大きく2つに分類することができ、2時期に分かれることが確認され、出土地も異なることが分かり、時間差があることが推測される。石器類は石鏃、剥片類、石斧、磨石・敲石、台石・石皿類などが出土している。石器の主体となるものは、すり石・敲石類であり、調査面積に対してその出土量が膨大であることが特筆される。柱穴は75基検出されたが、根石と思われる拳大〜人頭大相当の礫が入っているものもあり、また柱跡の痕跡を確認できるものもあった。柱穴の配置から、4棟の掘立柱建物の存在が確認された。



第3圖 中國A・B遺跡 発掘調査地



第4図 包含層残存地

第2節 層位

土層は場所によって一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。土層の堆積状況は全体的に良好であった。

- | | | |
|------|-----------|---|
| I層 | 表土 | 場所によって、表土(灰黒色土)・旧表土(真黒色土)と2層に分層可能である。 |
| II層 | 黄橙色火山灰土層 | (アカホヤ火山灰層, 約6,400年前の鬼界カルデラ噴出堆積物)
場所によっては1次堆積物, 2次堆積物に分層可能である。 |
| III層 | ベージュ色粘質土層 | 遺物包含層(縄文時代早期) |
| IV層 | 黒褐色土層 | 上位は遺物包含層(縄文時代早期)中位で一部に小指大以下の細かいミスマがみられる。サツマ火山灰であり約11,000年前の桜島起源の噴出物である。 |

第3節 遺構

遺構全て、B遺跡から検出されたものである。縄文時代早期相当のものとして集石遺構1基、配石遺構7基が検出され、土器器集中出土地の1ヶ所を図化した。検出地は、全て調査地の南側部分に集中する傾向が見られた。近世のものとして、柱穴が75基検出された。検出地は調査区の北側・南側に集中し、中央部では検出されなかった。柱穴には上面に大型の礫を配置し、かつ掘り込み内に根石と思われる拳大から人頭大相当の礫が入っていることが大きな特徴であり、柱の痕跡が確認できるものもあった。柱穴の配置から、4棟の掘立柱建物の存在が確認された。検出面が表層下位部分であったため、時期区分がはっきりしなかったが、柱穴内から古銭である寛永通宝が出土したことから、柱穴の時期を近世と判断した。

(1) 縄文時代の遺構 (第11図～第16図)

1号集石遺構 (第12図)

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 65cm×75cmの範囲内に、礫が12点まとまった形である。礫は全て砂岩であり炎熱を受け赤化しているものもある。この集石の周辺ではすり石が出土している。下面には、掘り込み等は見られなかった。

1号配石遺構 (第12図)

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 53cm×67cmの範囲内に、礫4点・土器片1点で構成されている。礫の中では2

点石器であるすり石が含まれている。礫には炎熱を受け赤化しているものがなかったため、配石と判断したが、集石遺構を構成するために集められたものとも考えられたが、配石と判断した。

2号配石遺構（第13図）

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 127 cm×81 cmの範囲内に、礫6点・土器片3点から構成されている。大型の礫2点が配置され、その周辺部にすり石等の石器類が散在している状態である。礫には炎熱を受け赤化しているものが見られなかったため、配石と判断した。

3号配石遺構（第13図）

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 241 cm×203 cmの広範囲内に、礫13点・土器片9点で構成されている。礫は非常に大きいものが含まれており、石皿・台石類として使用した痕跡が見られるものもある。礫には炎熱を受け赤化しているものが見られなかったため、配石と判断した。

4号配石遺構（第14図）

検出状況 B遺跡南側部分で、礫がばらけた感じでの状態で検出された。

形状と規模 200 cm×106 cmの広範囲内に、礫13点・土器片4点から構成される。礫については使用痕が確認され、石器として利用されていたものもあった。礫には炎熱を受け赤化しているものが見られなかったため、配石と判断した。

5号配石遺構（第14図）

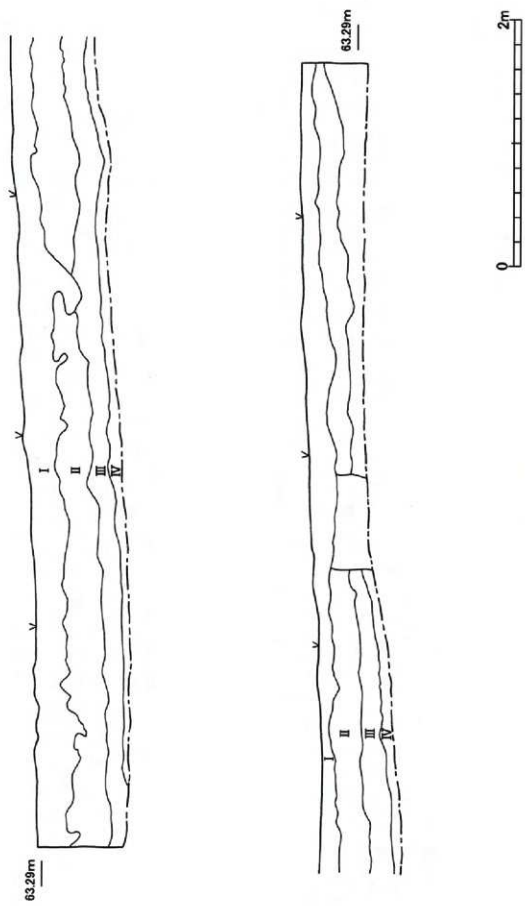
検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 131 cm×141 cmの範囲内で、礫11点・土器片1点により構成されている。特に中心部の礫は全て使用痕が確認できた。全体としてばらけた感じである。礫には炎熱を受け赤化しているものが見られなかったため、配石と判断した。

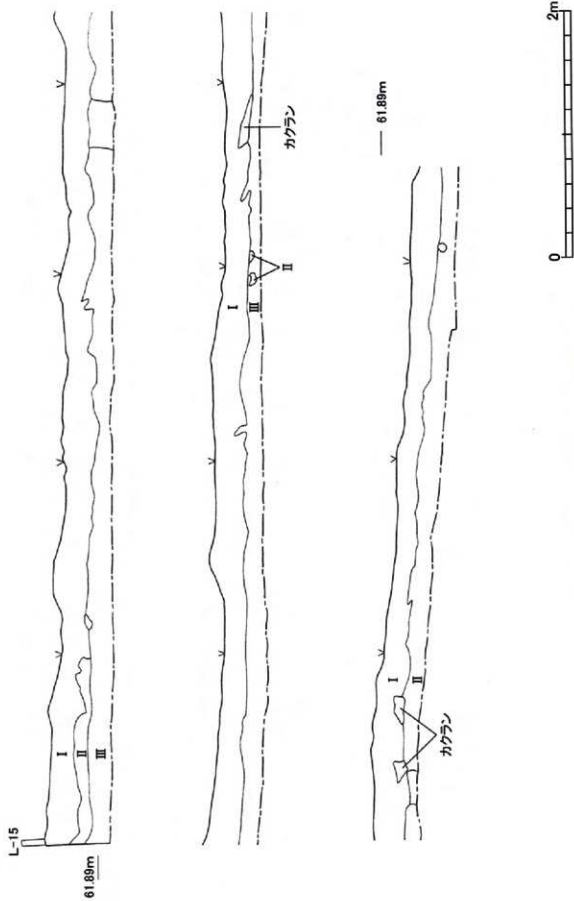
6号配石遺構（第15図）

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

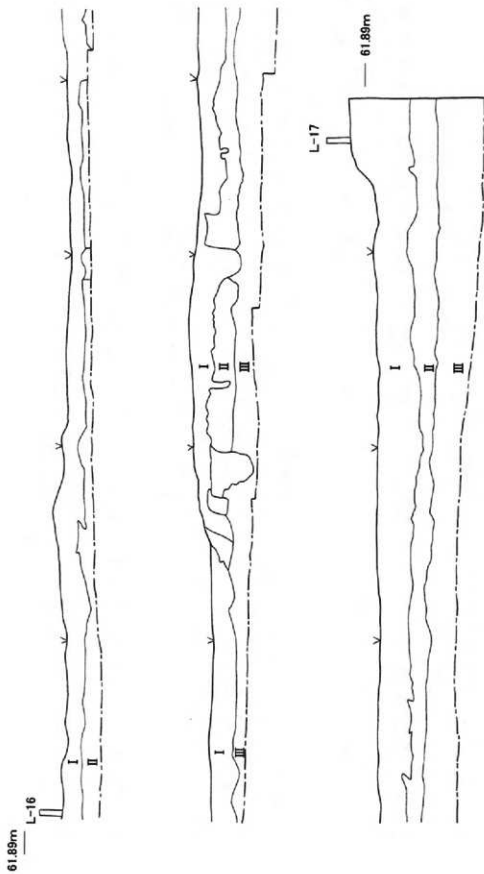
形状と規模 95 cm×74 cmの範囲内に、礫10点・土器片1点で構成されている。礫は70 cmを超える大きなものも含まれ、全ての礫から使用痕が確認された。礫には炎熱を受け赤化しているものが見られなかったため、配石と判断したが、礫が全て石器であり、その用途が調理道具である台石・石皿類及びすり石であるため、いわゆる調理のための作業場としての捉え方もできる。



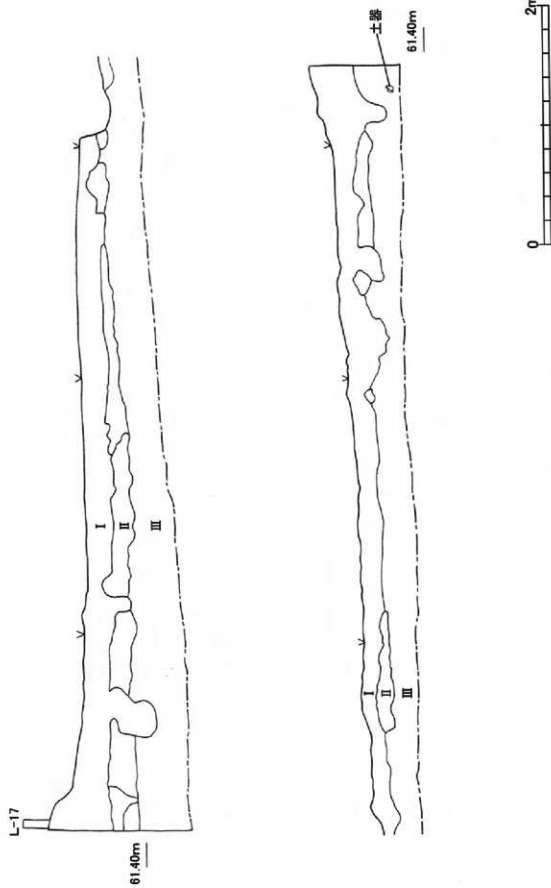
第5圖 中國A遺跡 西側土層剖面



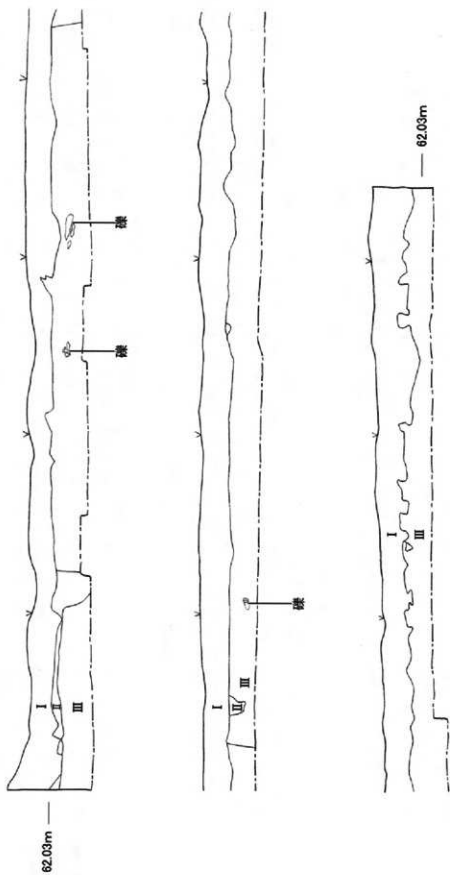
第6図 中國白遺跡 S区東側土層断面(1)



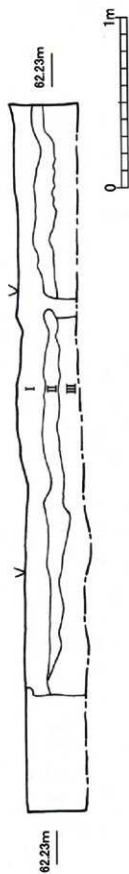
第7圖 中國B遺跡 S区東側土層断面(2)



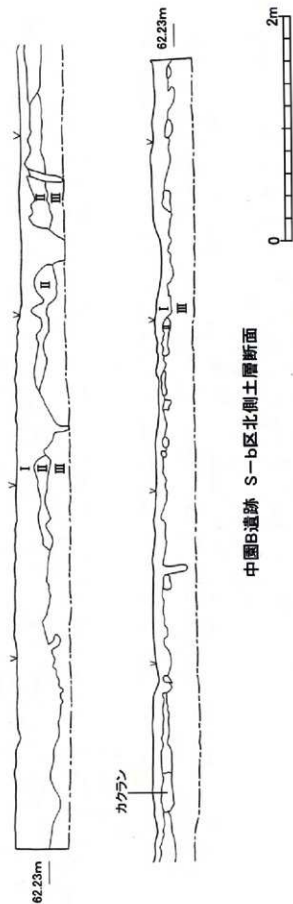
第8図 中國B遺跡 S区南側土層断面



第9圖 中國B遺跡 S区西側土層断面

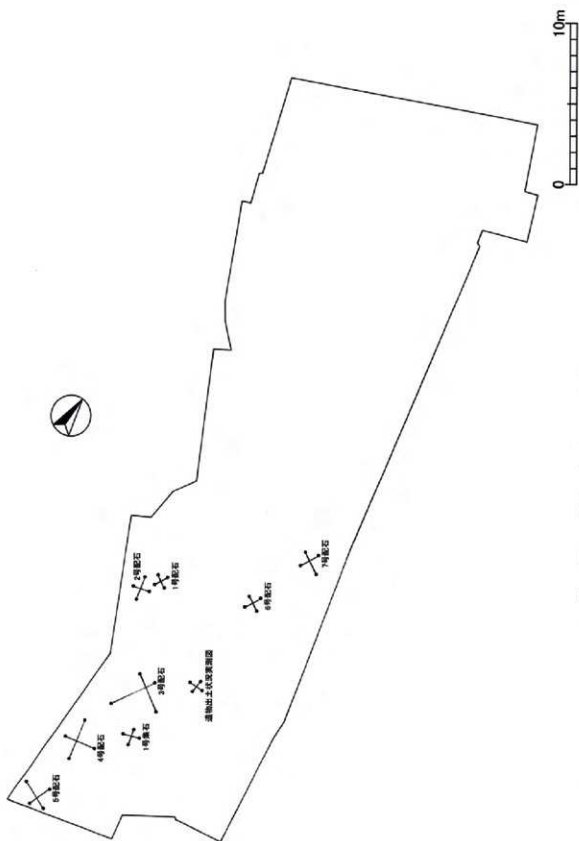


中国B遺跡 S-b区東側土層断面

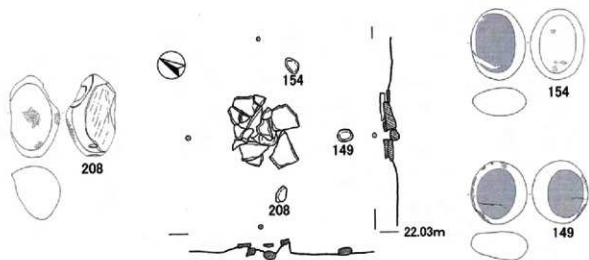


中国B遺跡 S-b区北側土層断面

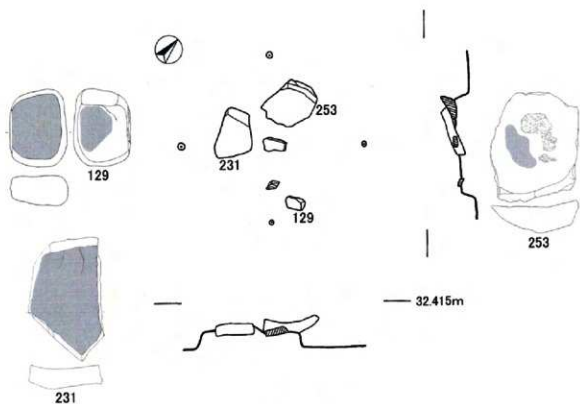
第10図 中国B遺跡 S-b区東側・北側土層断面



第11图 中国B遺跡 S区遺構配置図

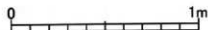


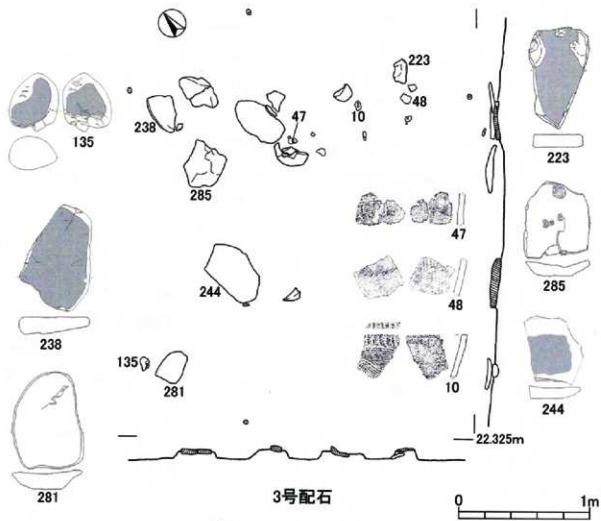
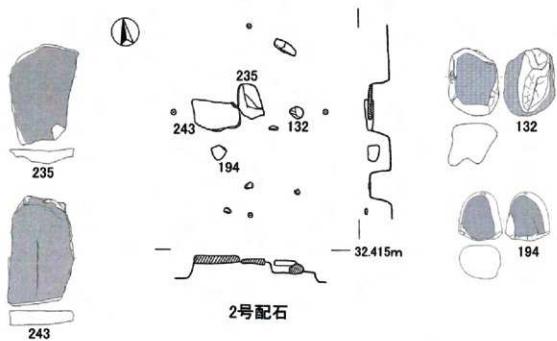
1号集石



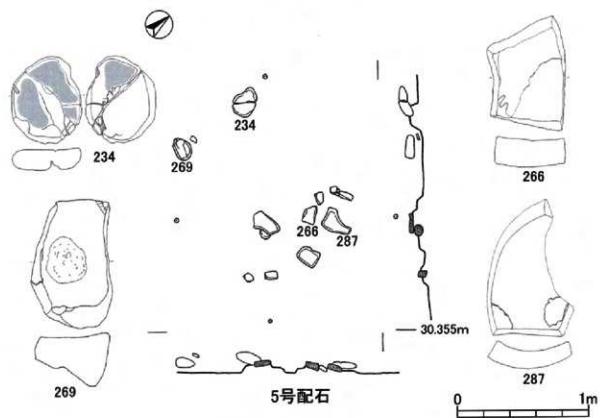
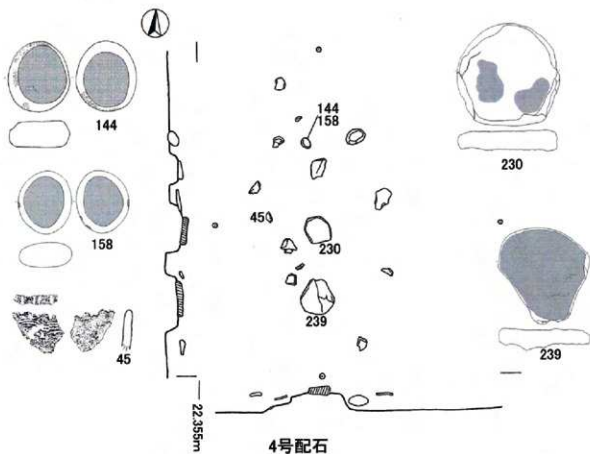
1号配石

第12图 1号集石·1号配石

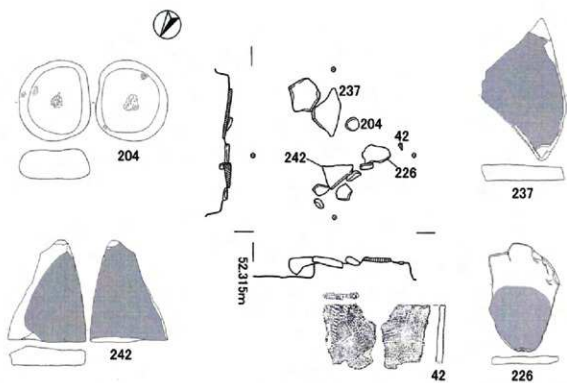




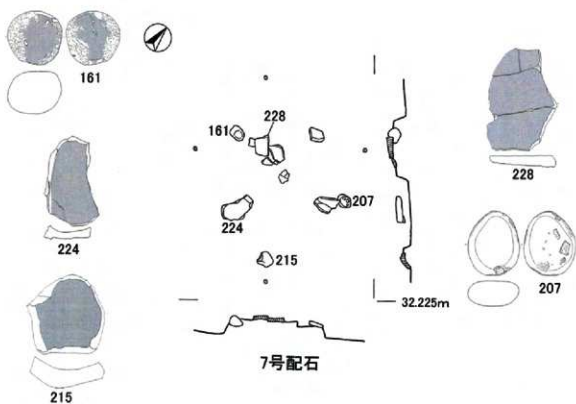
第13图 2号-3号配石



第14图 4号·5号陪石

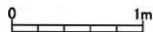


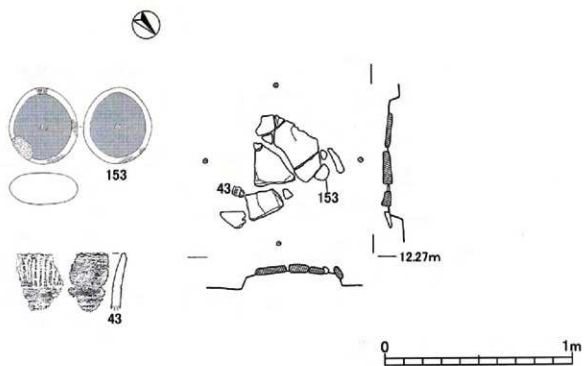
6号配石



7号配石

第15图 6号·7号配石





第16図 遺物出土状況実測図

7号配石遺構 (第15図)

検出状況 B遺跡南側部分で検出された。

形状と規模 95cm×103cmの範囲内に、礫7点・土器片2点から構成されている。礫がやや散在した感が強い。礫には台石・石皿類及びすり石などの石器類が含まれている。礫には炎熱を受け赤化しているものは見られなかったため、配石と判断した。

遺物出土状況実測図 (第16図)

検出状況 B遺跡南側部分で出土した。

形状と規模 58cm×65cmの範囲内に、中心部に大型礫が破砕した状態で、その周辺部に土器片が確認された。この大型の礫には使用痕が確認され、またこの礫の下位にはすり石があり、いわゆる調理具である、台石・石皿類とすり石がセットになっているものであり、当時の人々の暮らしの一部を垣間見ることのできるものである。礫には炎熱を受け赤化しているものは見られなかった。

縄文時代早期の遺構は、遺構内から出土した土器片より、時期区分は縄文時代早期前葉に構成されたものであると判断した。

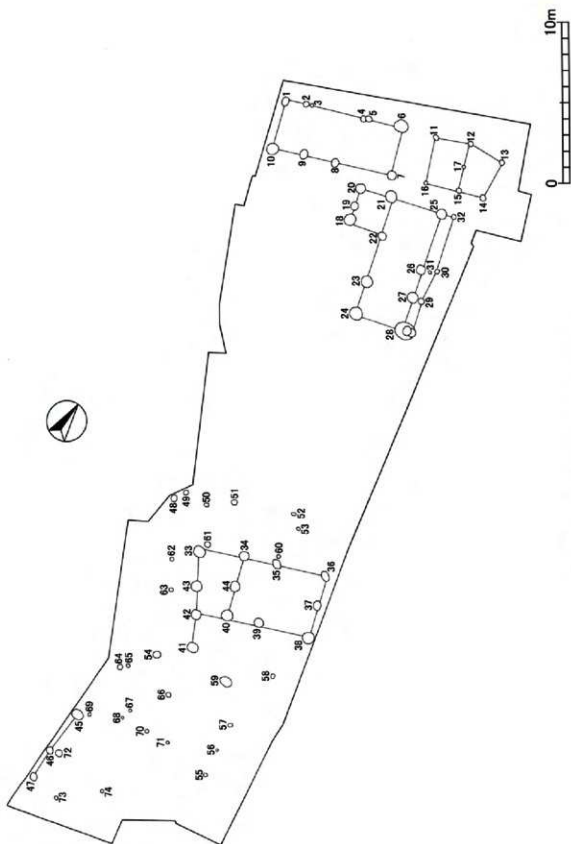
(2) 近世の遺構 (第17図～第23図)

掘立柱建物跡及び柱穴 (第17図～23図)

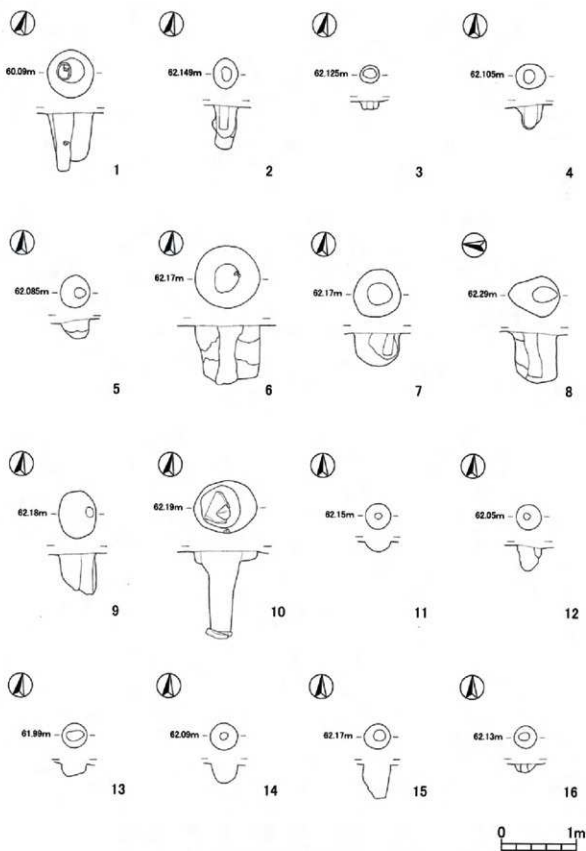
検出状況 B遺跡北側部分及び南側部分から、柱穴75基を検出し、柱穴の配置から4棟の掘立柱建物跡が確認された。柱内からは遺物が確認されたが、古銭である寛永通宝が出土したことにより、構築された時期区分は、全て近世と判断した。

掘立柱建物跡の形状は、全て方形を呈し、庇と思われる柱穴が認められるものもある。柱穴は整然としており、個別の配置は、ほぼ2間×2間であり、総建物である。建物のほとんどの柱穴には根石と思われる拳大から人等大相当の礫が入っていることが大きな特徴であり、中には柱の痕跡が確認できるものもあった。また根石をもたないものについては、上面に大型の礫を配しているものが見受けられた。柱穴からは礫の他に、遺物が(古銭・陶磁器類など)確認できるものもあった。

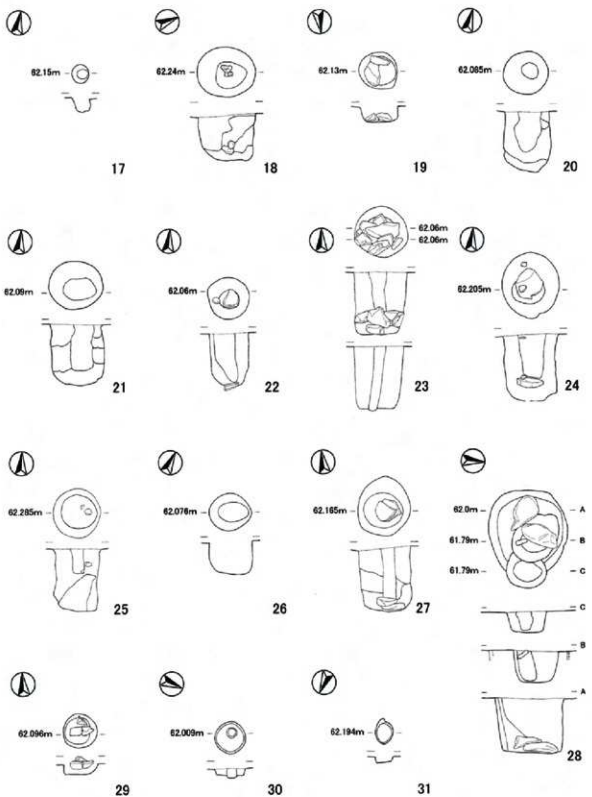
掘立柱建物としての柱穴に該当しない柱穴についても、その配置から建物のための柱穴として構築された可能性がある。45から47は建物跡のための柱穴として十分考えられ、調査対象外の西側に建物跡としての柱穴の存在が推測される。また、51には柱跡の痕跡が確認されている。種子島の発掘調査において、近世の掘立柱建物跡に伴う柱穴が大量に検出されたことは今回の発掘調査が初めてであり、極めて類例が少ないため、今後資料が増加するのを待ちながら、再度の検証作業が必要である。



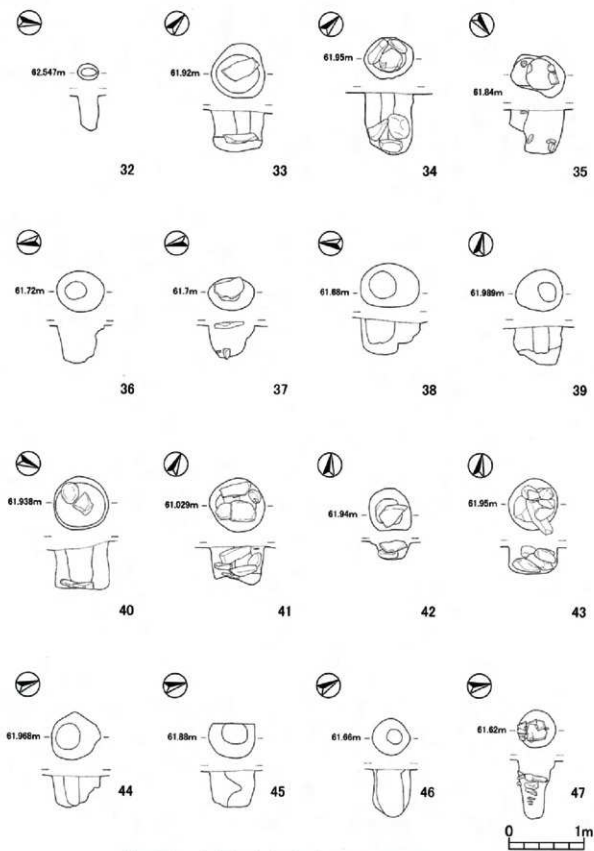
第17圖 中國B遺跡 柱穴配置圖



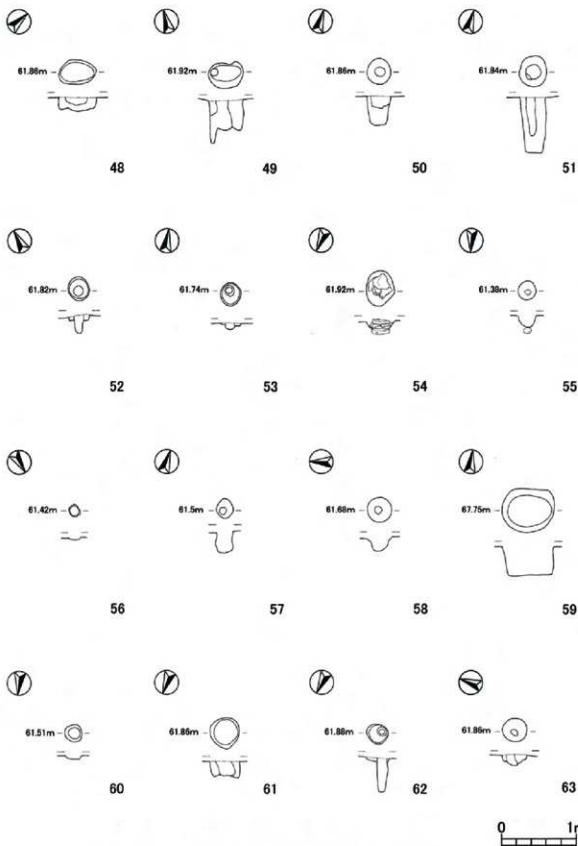
第18圖 中國B遺跡 柱穴・平面・断面圖(1)



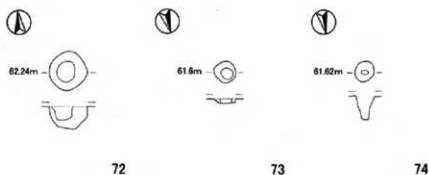
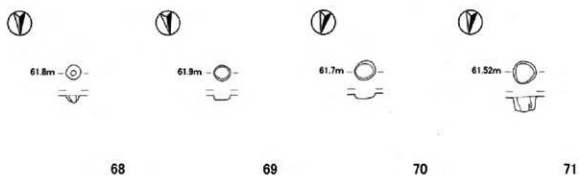
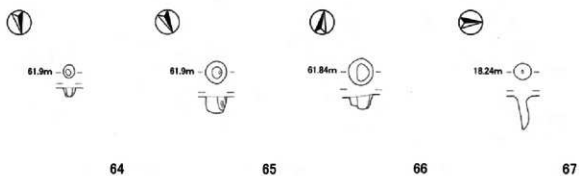
第19圖 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(2)



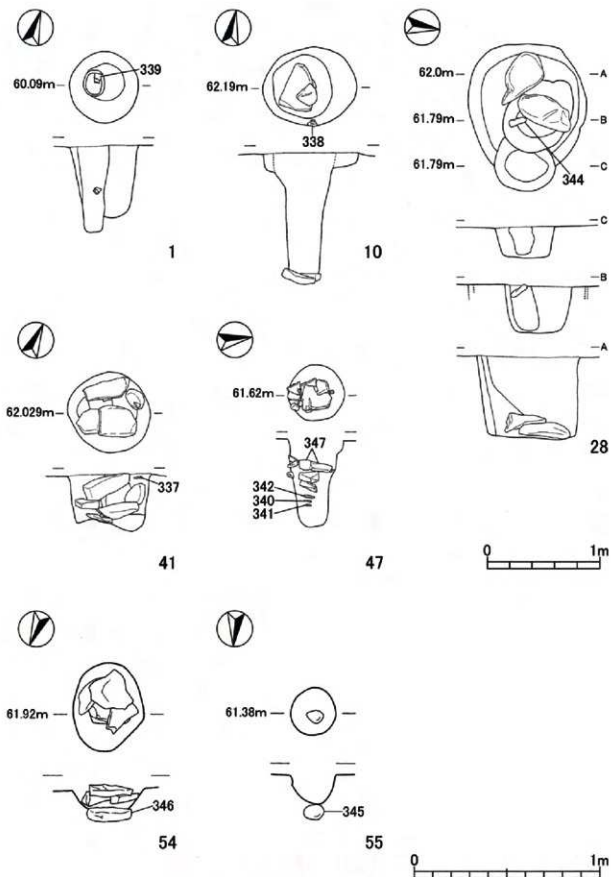
第20圖 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(3)



第21圖 中園B遺跡 柱穴・平面・断面図(4)



第22圖 中國B遺跡 柱穴・平面・断面圖(5)



第23圖 中國B遺跡 柱穴內出土遺物

第2表 柱穴観察表(1)

柱穴番号	大きさ(cm) 縦×横	深さ (cm)	埋土内遺物	土層分層	完掘	柱穴痕
1	61×63	73	土器1点	柱:真黒 赤おや・黒 まじり粘土 赤おやまじり黒		1本
2	40×32	57	無	柱:真黒(粒子が細かい、ふかふか) 黒 粘土 粘土まじり薄黒		1本
3	24×25	13	無	柱:真黒(ふかふかしている) 黒	○	1本
4	32×39	32	無	柱:真黒 粘土まじり黒		1本
5	43×39	22	無	粘土 黒まじり粘土		無
6	81×85	72	陶磁器2点	柱:真黒 粘土まじり黒 粘土		1本
7	62×61	44	無	柱:真黒 粘土まじり黒 粘土		2本
8	47×53	67	無	柱:真黒 粘土 うすグレー粘土 赤おやまじり粘土	○	1本
9	62×49	53	無	柱:真黒 粘土まじり黒		1本
10	70×83	170	石3点・青磁碗1点	柱:黒(ものすごくやわらかい、ふかふか) 黒まじり粘土		1本
11	34×34	13	無	真黒		無
12	33×32	33	無	柱:真黒 粘土		1本
13	32×33	16	無	真黒		無
14	35×36	25	無	真黒		無
15	33×35	44	無	真黒		無
16	30×30	12	無	柱:真黒 小片ハミス 赤おやまじり黒		1本
17	25×23	19	無	真黒	○	無
18	65×75	61	石1点		○	
19	49×51	20	石2点	粘土まじり黒	○	無
20	56×59	80	無	柱:黒 粘土まじり黒 黒(粒子が細かいやわらかい)粘土	○	1本
21	63×71	80	無		○	1本
22	54×53	67	石2点	柱:粘土まじり黒 ハミスまじり黒	○	1本
23	67×69	80	石9点・陶磁器1点	柱:真黒 粘土 赤おやまじり黒	○	1本
24	87×74	87	石2点・木1点	柱:真黒 粘土混じり黒	○	1本
25	65×62	83	石1点・陶磁器1点	柱:赤おやまじり黒 赤おや粘土まじり黒 黒	○	1本
26	50×55	43	無	真黒	○	無
27	78×69	86	石2点	柱:真黒(やわらかい) 赤おや黒まじり粘土 粘土まじり黒(硬く締まっている) 粘土 黒	○	1本
28-A	104×129	84	石2点	カクラン粘土まじり黒 カクラン黒 赤おやまじり黒 赤おやまじり粘土 うすい黒		無
28-B	×	40	石1点	柱:真黒 赤おや粘土まじり黒	○	1本
28-C	×	26	無	柱:真黒 赤おやまじり黒	○	1本
29	46×45	13	石3点(赤化してやけている)	赤おやまじり黒	○	無
30	41×42	12	無	柱:真黒 うすグレー粘土		1本
31	33×24	7	無	真黒		無
32	28×21	44	無	真黒(やわらかい)	○	無
33	72×71	54	石1点	柱:赤おやまじり黒 粘土 赤おやまじり黒 粘土	○	1本
34	53×64	81	石3点	柱:真黒 赤おや 粘土まじり黒	○	1本
35	51×70	58	石4点・寛永通宝1点	柱:粘土・赤おや まじり黒(やややわらかい) 真黒(やや硬い)	○	1本
36	62×53	48	無	粘土まじり黒		無
37	60×42	42	石3点	赤おやまじり黒	○	無
38	71×32	43	無	柱:粘土まじり黒 赤おやまじり黒		1本
39	62×55	50	無	柱:真黒 粘土まじり黒(粒子が粗い) 粘土まじり黒(粒子が細かい)	○	1本
40	72×72	63	石2点	柱:真黒 粘土まじり黒	○	1本

第3表 柱穴観察表(2)

柱穴 番号	大きさ(cm) 縦×横	深さ (cm)	埋土内遺物	土層分層	完掘	柱穴痕
41	71×73	50	石9点	柱:真黒(ふかふか) 真黒(硬い)黒まじり粘土	○	1本
42	54×53	24	石2点	真黒	○	無
43	67×65	35	石8点	粘土まじり黒(やわらかい)	○	無
44	64×62	41	無	柱:真黒 赤ホヤまじり黒	○	1本
45	43×61	47	無	柱:赤ホヤ 粘土まじり黒 黒まじり粘土		1本
46	48×50	63	無	柱:真黒 粘土まじり黒		1本
47	49×50	72	石8点・陶磁器2点	真黒(ものすごくやわらかい)		無
48	49×32	12	無	柱:黒まじり粘土 粘土		1本
49	41×33	56	無	柱:真黒(ふかふか) 粘土		1本
50	34×31	38	無	柱:真黒(ふかふか) 黒まじり粘土(硬く縮まっている)		1本
51	40×39	72	石1点	柱:真黒(ふかふか) 粘土まじり黒(硬く縮まっている)		1本
52	32×28	22	無	粘土まじり黒		無
53	30×26	9	無	粘土まじり黒(やわらかい)		無
54		12	石4点	真黒	○	無
55	25×24	16	石1点	粘土まじり黒	○	無
56	15×14	3	無	粘土	○	無
57	26×22	29	無	真黒		無
58	32×32	19	無	粘土まじり黒	○	無
59	56×69	38	無	真黒	○	無
60	22×22	4	無		○	無
61	40×38	21	無	柱:真黒 粘土まじり黒	○	1本
62	26×28	44	無	柱:真黒(ふかふか) 粘土		1本(樹根)
63	32×30	13	無	柱:黒まじり粘土 うすグレー粘土		1本
64	17×15	12	無	柱:粘土まじり黒 粘土	○	1本
65	29×27	21	木(炭化)1点	柱:粘土まじり黒 粘土		1本
66	34×32	19	無	柱:真黒 黒まじり茶褐色粘土		1本
67	24×22	44	無	茶褐色	○	1本(樹根)
68	20×21	9	無	柱:真黒 黒まじり粘土		1本
69	20×22	7	無	黒まじり粘土		無
70	25×28	7	無	柱:真黒 黒まじり粘土		1本
71	29×31	19	無	柱:粘土 赤褐色		1本
72	50×51	30	無	柱:真黒 粘土まじり黒		1本
73	29×29	6	無	柱:黒まじり粘土 粘土	○	1本
74	26×25	30	無	粘土まじり 茶褐色	○	無

第4節 遺物

遺物は縄文時代早期相当の土器片・石器類が全てアカホヤ火山灰層下位の、第Ⅲ層から出土した。また、近世の掘立柱建物跡に伴う柱穴内からも遺物は出土した。

(1) 土器

土器は縄文時代早期該当層である第Ⅲ層からの出土である。これらを諸特徴から大きく二つに分類することができ、分類は文様のあり方及び器形を総合的に判断して行った。

①第1類土器 (第35図～第44図)

主にB遺跡から南側部分から出土したものである。口縁部は直行し、口唇部は平坦となる。口縁部には貝殻腹縁による横位・縦位の刺突及び重線文とその下位には弧状の重線文を施文するものである。いわゆる、水迫式土器と呼ばれるものに類似しており、時期区分では縄文時代前葉の吉田式土器より一段階古いグループ(約10,000年前)と考えられているが、種子島で出土報告例がある、種子島オリジナルの土器である苦浜式土器(約7,000年前)に類似する点も見られるが、総合的に判断して、水迫式土器に近いものであると思われる。種子島にて、この土器がまとまって出土したことは初めてのことである。

②第2類土器 (第45図～第52図)

外面に斜位や横位の貝殻刺突文・貝殻条痕文、条線・沈線文を施すものである。器形は口縁部がラッパ状に大きく開く形態で、胴部は円筒形を呈する。中には口縁部が外反せず、口縁部に向かって若干内湾し、円筒形になるものもある。A遺跡及びB遺跡北側に集中して出土している。縄文時代早期の塞ノ神式土器の範疇に入るものである。塞ノ神式土器は初期の段階から九州全域から出土することが確認されている土器である。

塞ノ神式土器は、その施文及び器形からⅠ～Ⅳ式に研究者により細分化が行われている。主に燃糸文や縄文を無文部と交互に並べるものをⅠ式とし、古段階・中段階・新段階に分けられている。次に沈線区画内を燃糸文・縄文で埋めるものをⅡ式とし、古段階・中段階・新段階としている。燃糸文や縄文の代わりに貝殻条痕文をあてるようになってからをⅢ式としており、これをさらに古段階・中段階・新段階に細分化されている。新たな文様要素として貝殻条痕による波状文・刻み目を持つ短い粘土紐貼り付け文を施すものがⅣ式としてされている。

新東見一氏はさらに塞ノ神式土器を3つのタイプに細分化を図り、塞ノ神Ⅰ式として、主に貝殻で施文を施し、胴部から口縁部までそのまま円筒形を呈する形態、頸部が「く」字形に屈曲して口縁部は大きく外反するものとしている。Ⅱ式は凹線文の区画内に燃糸文を充填する文様帯をもつタイプとし、Ⅲ式は主文様に凹線文と燃糸文を組み合わせたもので、主に幾何学文を施すものとしている。

本遺跡から出土したものは、全て貝殻により施文を施したものであり、口縁部分は大きく外反し、頸部が「く」字形屈曲するものがある(70～82)、また110のように、胴部から口縁部までそのまま円筒形を呈する形態のものも含まれていることから、塞ノ神Ⅰ式の範疇にはいる

ものと考えられ、塞ノ神式のなかでも古いタイプのものである。

③表面採集土器 (第52図 114)

B遺跡より表層から須恵器が出土している、時期区分では8~9世紀のものと思われる。須恵器は種子島では生産されておらず、輸入品である。この時期の島内での須恵器の出土報告例は少ないため、掲載した。須恵器は中央の役人によって持ち込まれたものと考えられており、種子島と中央政権との関わりを考察する上で重要な資料である。また、この立山で採取されたことも非常に興味深い。類例の資料が増加することによって、再検証が必要な遺物である。

(2) 石器

本遺跡の出土石器には、石鏃・石鏃破損品・石鏃未製品・スクレイパー・剥片・石斧・石斧破損品・磨石敲石類・台石石皿類などがある。特に磨石敲石類・台石石皿類が大量に出土したことが特筆される。出土した石器類等は約1,000点に及んだ。石器に関しては、共伴土器から時期区分を分け、時期区分ごとに掲載する。

①第1類土器に伴う石器類 (第53図~81図)

主にB遺跡調査地南側部分より出土したものである。

石鏃 (第53図)

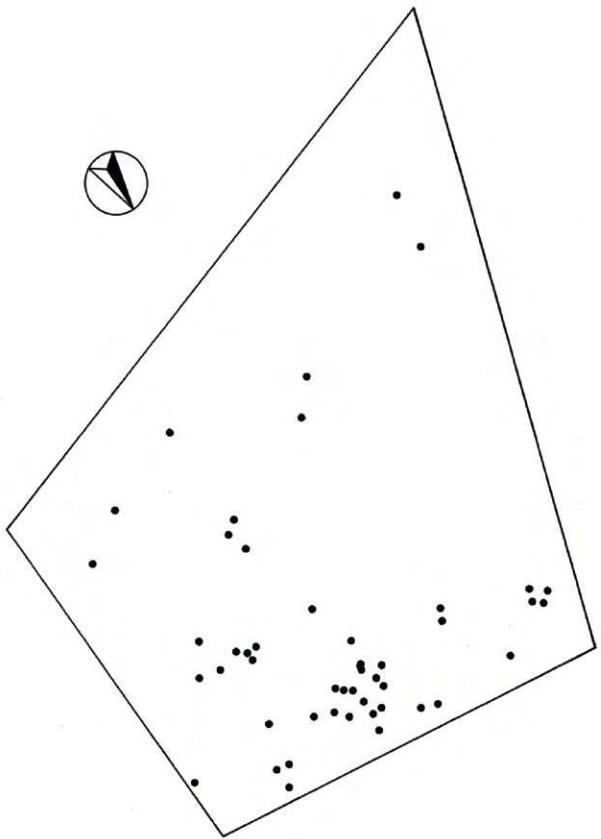
石鏃は、破損品・未成品を含めて3点出土した。115は磨製である。116は打製基部に若干の抉りをもつ、117は破損品である。

剥片石器・石斧 (第53図)

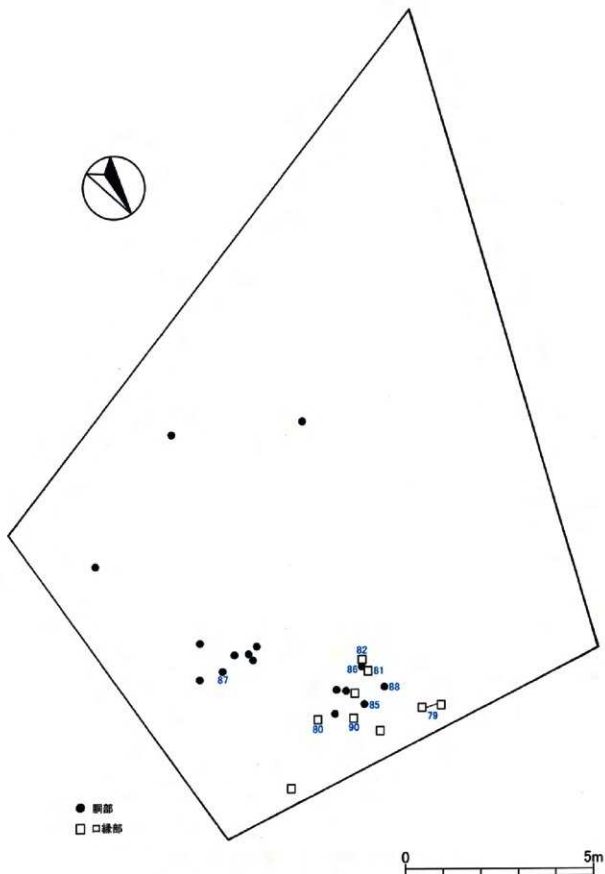
118・119は剥片石器である。118は横長の刃部を施している。119は縦型のものである。118は剥離面に若干の調整を施した程度であるが、119は全体に調整を施し、刃部を形成している。120は磨製石斧である。形状は太身のもので伐採具としての利用が考えられる。楔形石器は5点出土している。石材は安山岩2点・姫島産黒曜石3点である。いずれも島外の石材である。石器製作跡から姫島産黒曜石のチップ・フレイクが集中して出土している点から、この遺跡で製作されたものと考えられる。楔形石器は骨角器用の楔形石器であるとらえられる。削器は1点、スクレイパー5点、RF4点・剥片1点・小型の砥石が1点出土している。石材は石鏃とほぼ同様であるが、スクレイパーの石材としてシルト質凝灰岩が利用されている。

すり石・敲石類 (第54図~67図)

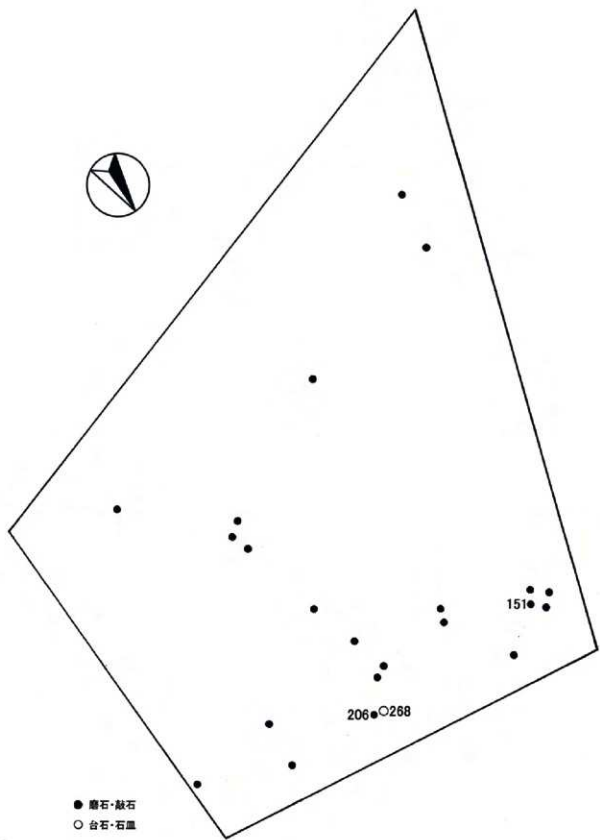
磨石・敲石類は本遺跡出土石器の中で大部分を占めるものである。約130点出土した。全てが砂岩を石材としている。円形のもの、楕円形のもの、不定形のものなどがあり、「磨る」・「磨る+敲くの両方に使われたもの」・「全周が敲打して使用されたもの」・「凹石として使われたもの」などがある。また、自然礫の一端に若干の敲打痕や磨痕がみられるものもある。



第24図 中國A遺跡 全遺物出土狀況



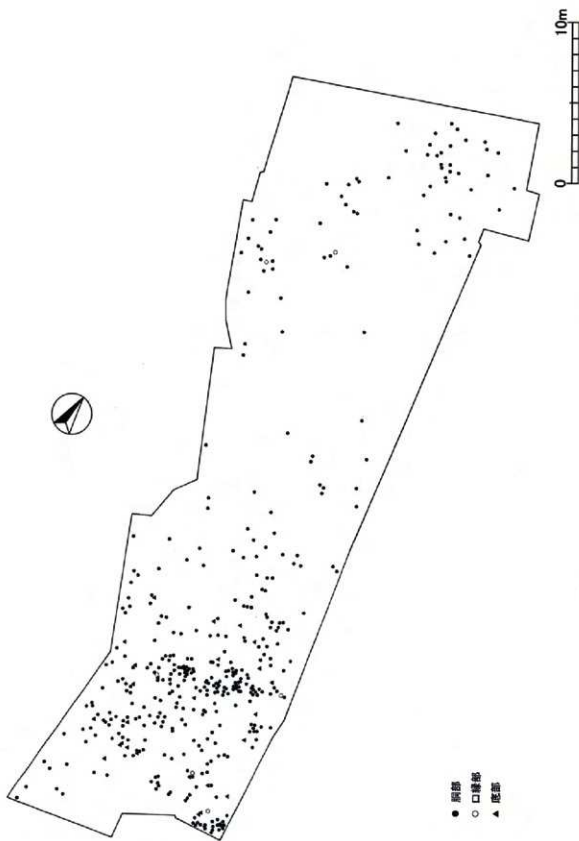
第25図 中園A遺跡 土器出土状況



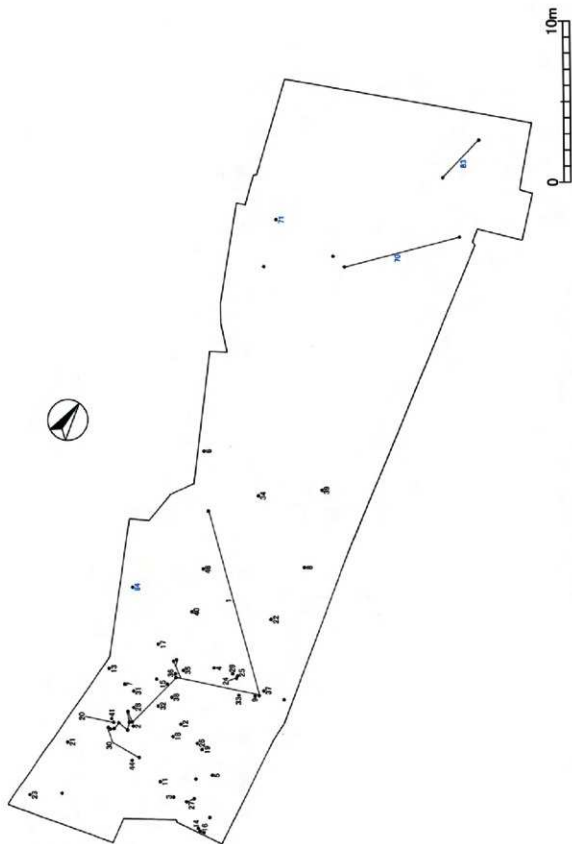
第26圖 中國A遺跡 石器出土狀況



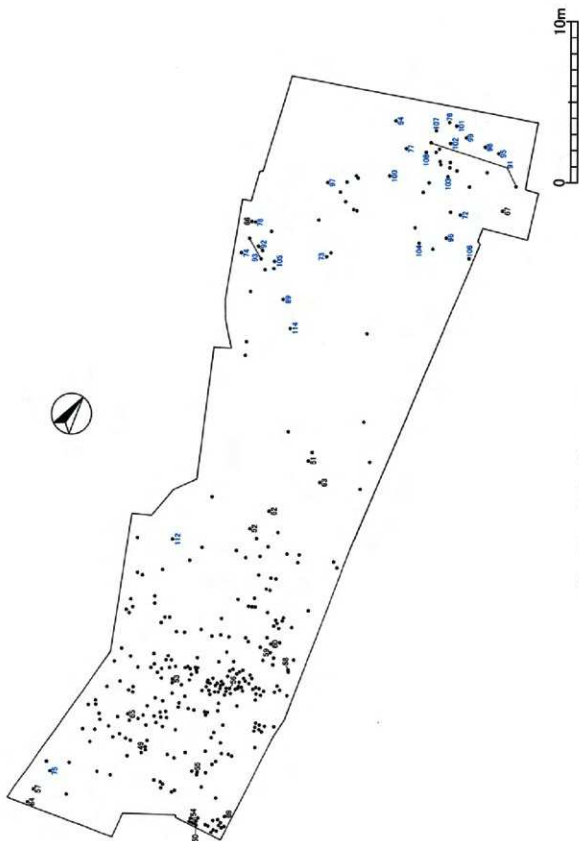
第27図 中國白遺跡 全遺物出土状況



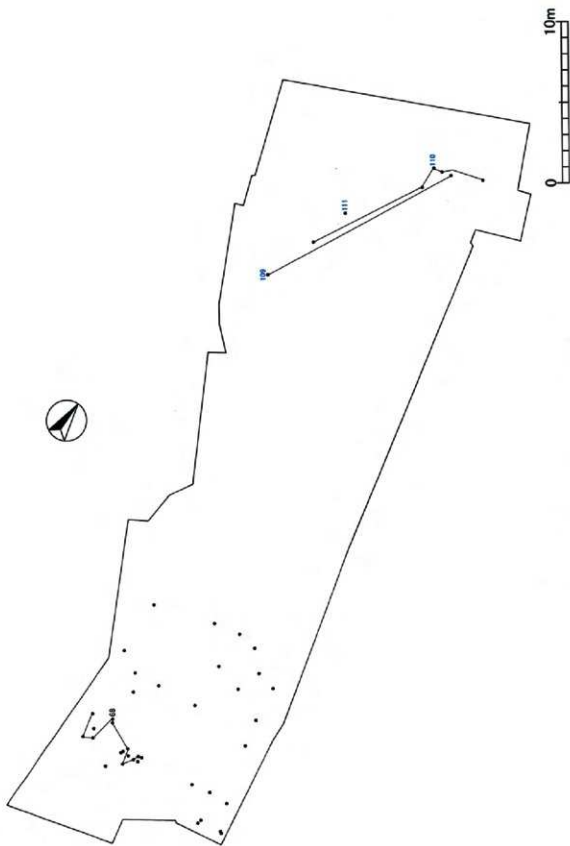
第28図 中國B遺跡 全土器出土状況



第29圖 中國B遺跡 口緣部出土狀況



第30圖 中國B遺跡 胸部出土狀況



第31圖 中國B遺跡 底部出土狀況

台石・石皿類 (第68図～81図)

台石・石皿類も相当数出土した。形状により磨面が凹面を呈するもの、磨面が平坦なもの、凹状の凹部を持つものなどがある。磨面が平坦なものと同部をもつものは石皿としての機能の他に台石としての使用が考えられる。非常に大型のものや小型のものなどがあり、石材は砂岩が主である。

②第2類土器に伴う石器類 (第82図～90図)

主にB遺跡調査地北側及びA遺跡より出土したものである。

石斧・スクレイパー・剥片石器 (第82図～83図)

石斧が3点、スクレイパーが1点、剥片石器が5点出土した。288から290は石斧である。288は打製、289は刃部が磨製である。290は自然の剥離面を加工して陣部を形成している。293はスクレイパーとしての用途が考えられる。291から292、294から296は、剥片の自然剥離面を調整して刃部を形成している剥片石器である。

磨石・敲石類 (第84図～88図)

全てが砂岩を石材としている。円形のもの、楕円形のもの、不定形のものなどがあり、「磨る」・「磨る+敲くの両方に使われたもの」・「全周が敲打して使用されたもの」・「凹石として使われたもの」などがある。また、自然礫の一端に若干の敲打痕や磨痕がみられるものもある。石器類の構成比としては、かなりの割合を占めるが、B遺跡からの出土に比べると少なかった。

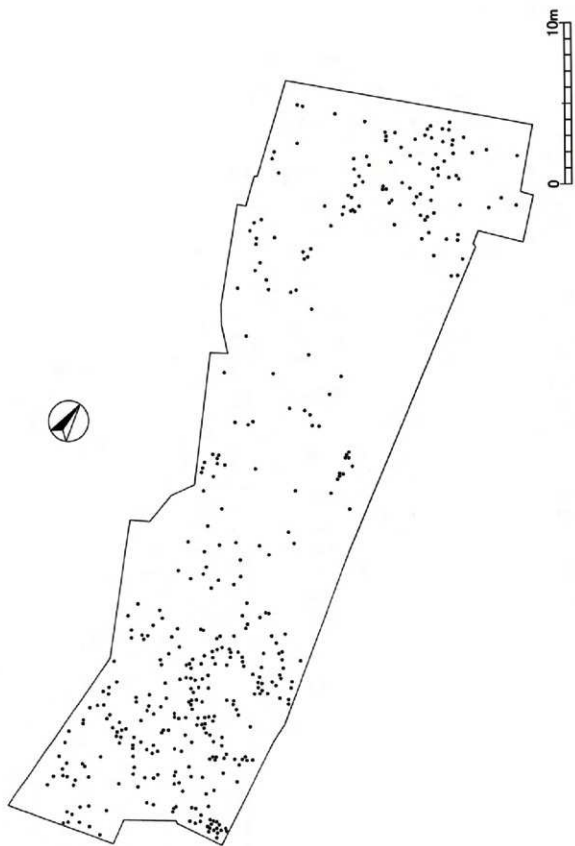
台石・石皿類 (第89図～90図)

形状により磨面が凹面を呈するもの、磨面が平坦なもの、凹状の凹部を持つものなどがある。磨面が平坦なものと同部をもつものは石皿としての機能の他に台石としての使用が考えられる。非常に大型のものや小型のものなどがあり、石材は砂岩が主である。比較的大型のものが目立つ。

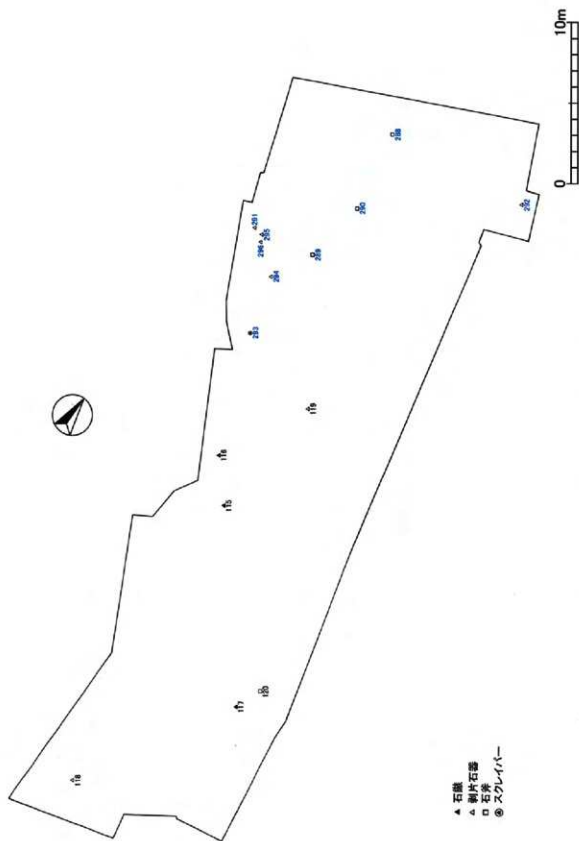
(3) 柱穴内出土遺物 (第91図～92図)

B遺跡で検出された、柱穴内から出土した遺物を掲載している。

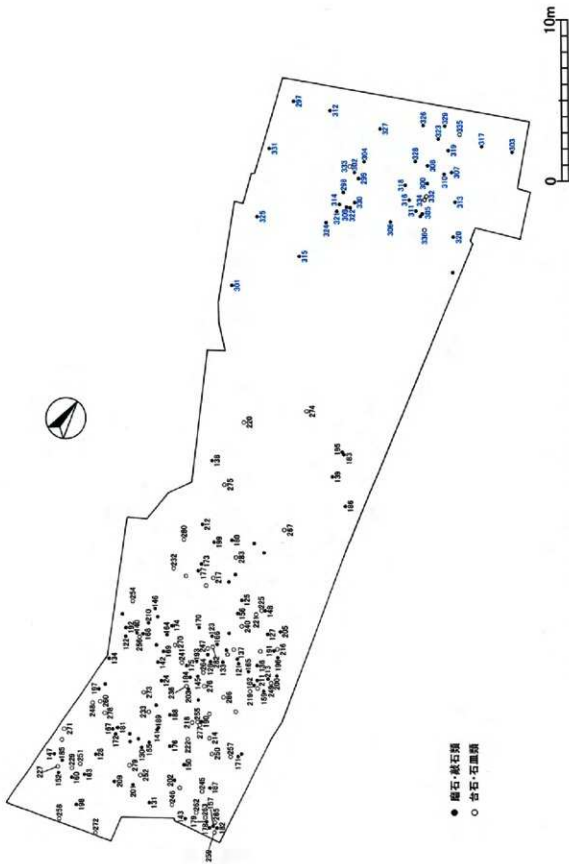
337は合子のふたで、須恵器製である。338は青磁碗の底部でかなり厚みがある。遺物から分かる情報が少ないため、時期を特定することはできなかった。339は瓦器製の火あぶり(火鉢)である。時期は近世と思われる。340から342は鉢であり、同一個体と思われる。343は古銭で寛永通宝である。時期は近世である。344から347は磨石・敲石類、台石類である。石器を柱穴内の根石として、二次利用していたことが伺われる。



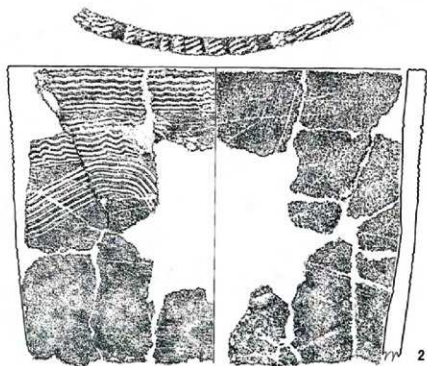
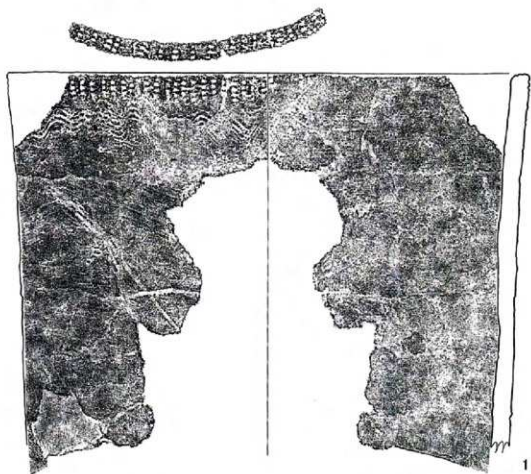
第32図 中國B遺跡 全石器出土状況



第33図 中國B遺跡 石器類(石鏃・スクレイパー・剥片・石斧)出土状況



第34圖 中國B遺跡 磨石·敲石·台石·石皿類出土狀況

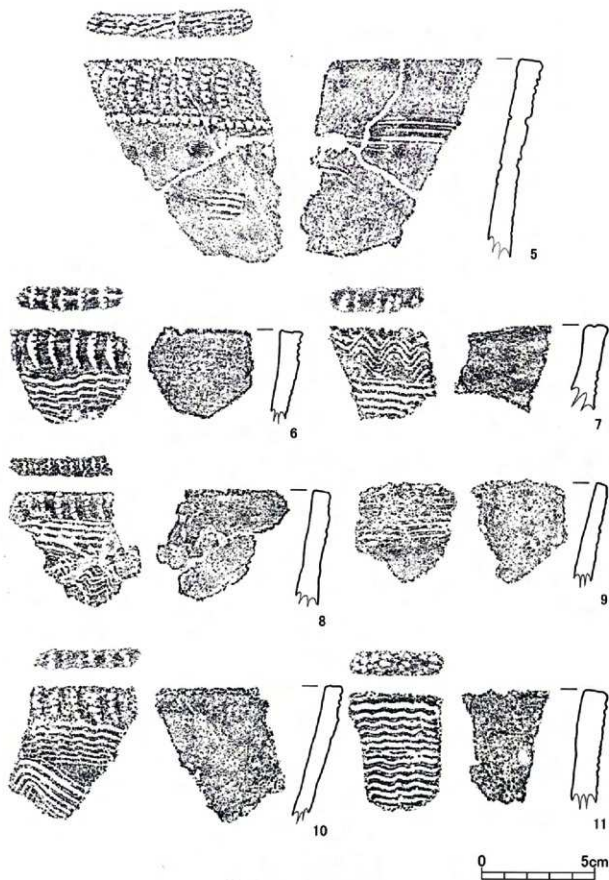


0 10cm

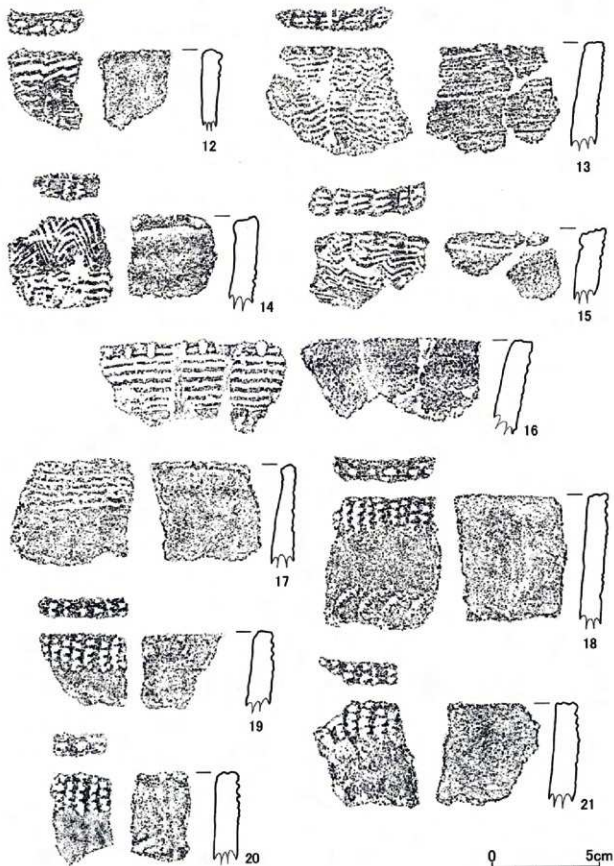
第35図 出土土器(1)



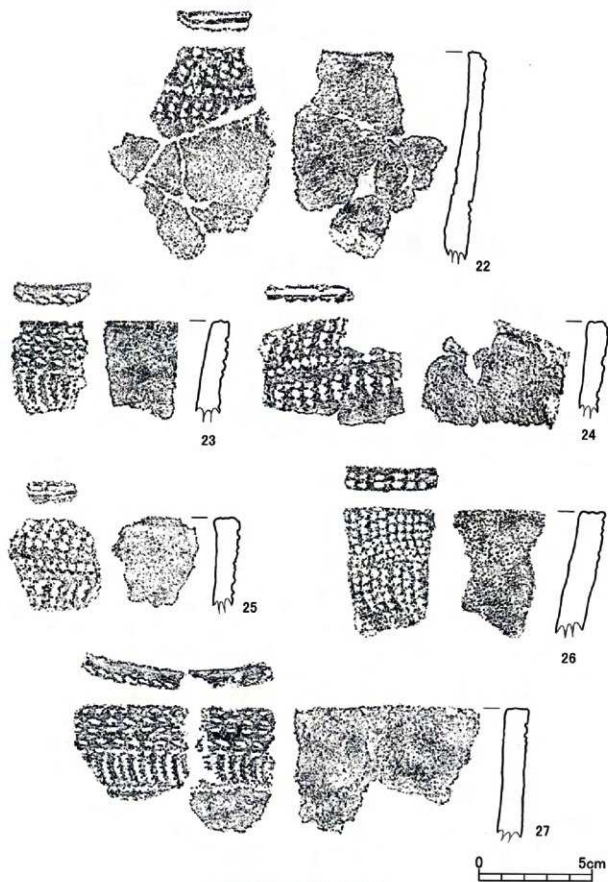
第36图 出土土器(2)



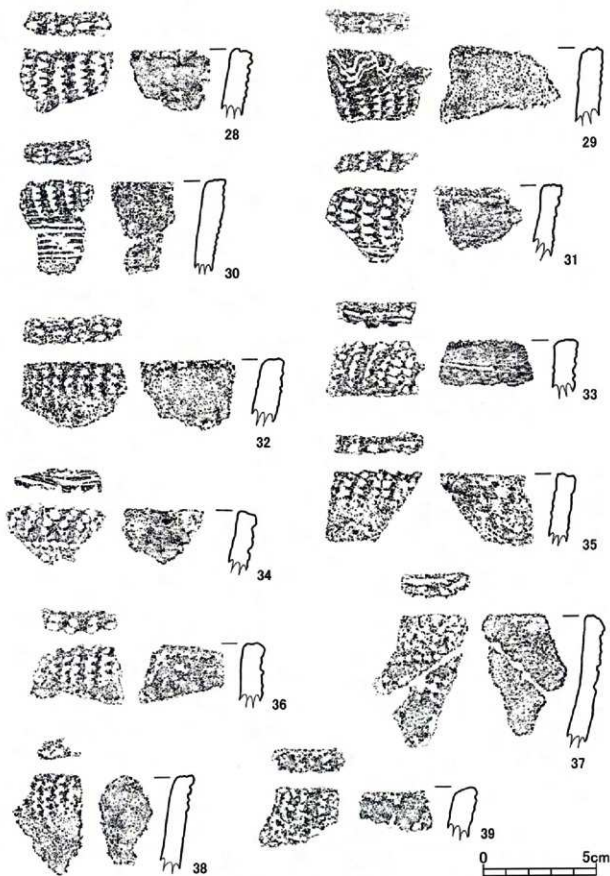
第37图 出土土器(3)



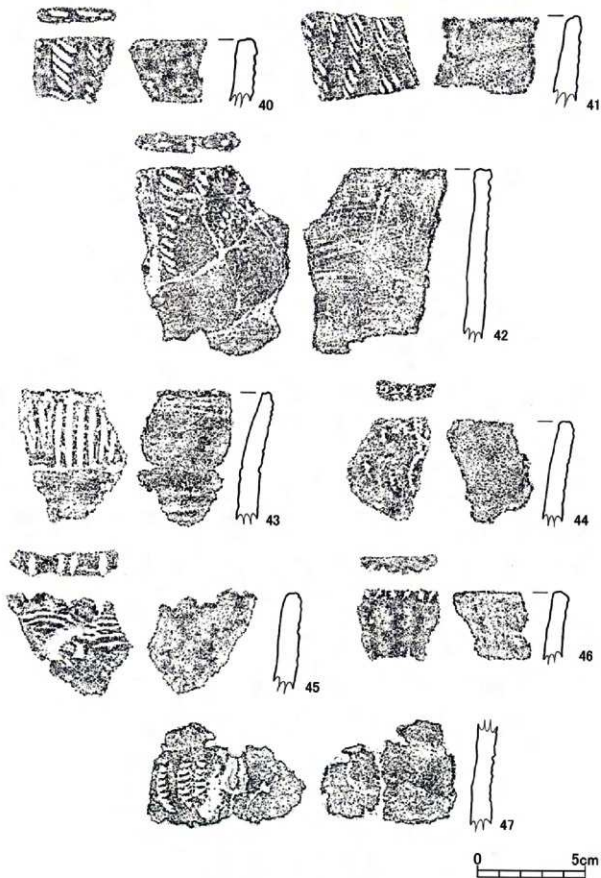
第38圖 出土土器(4)



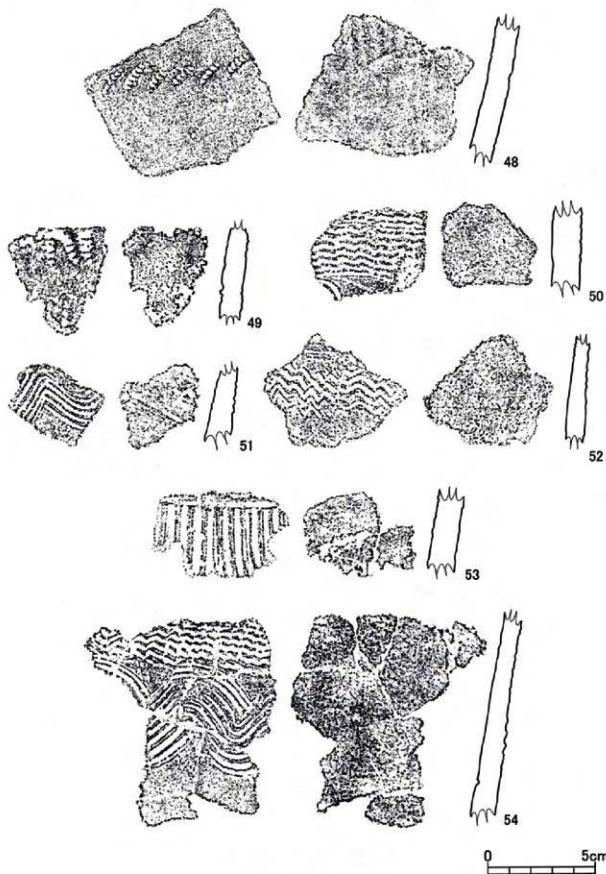
第39図 出土土器(5)



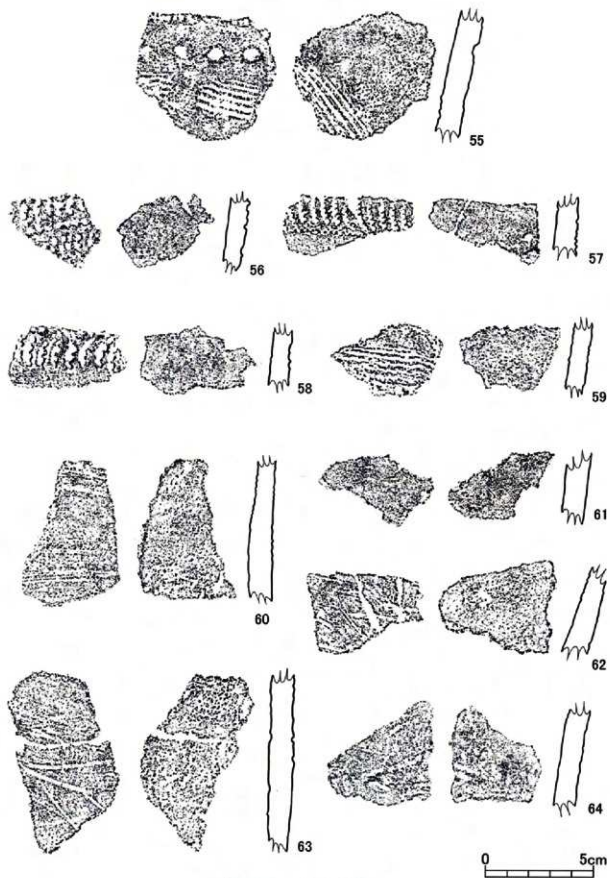
第40圖 出土土器(6)



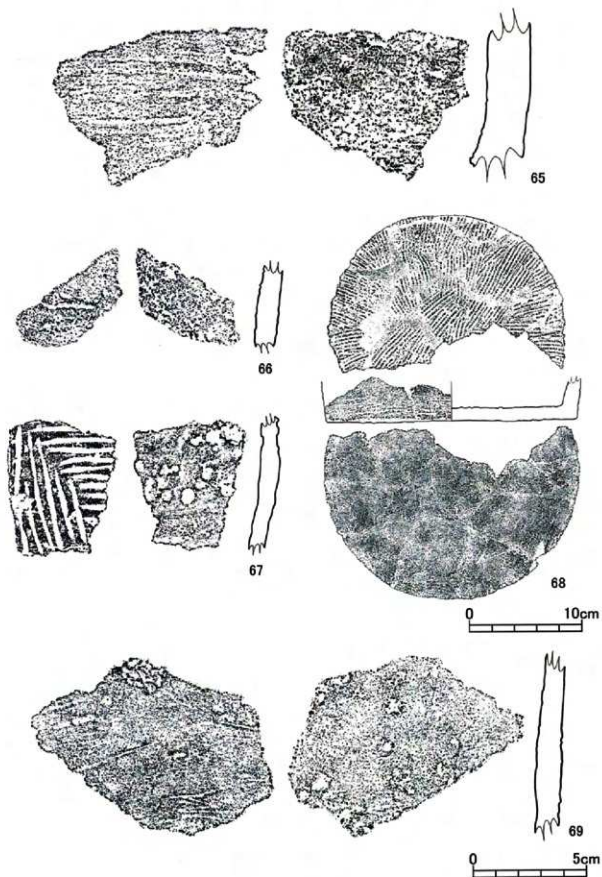
第41図 出土土器(7)



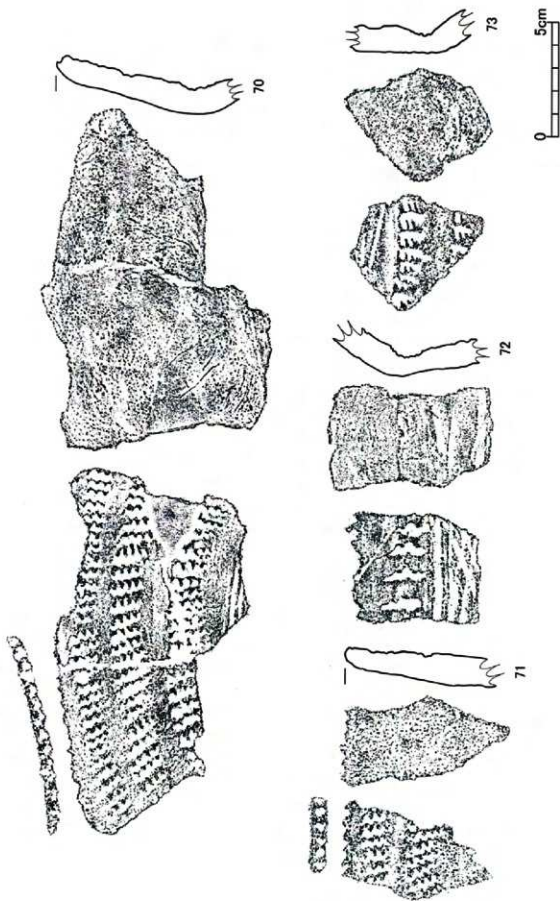
第42图 出土土器(8)



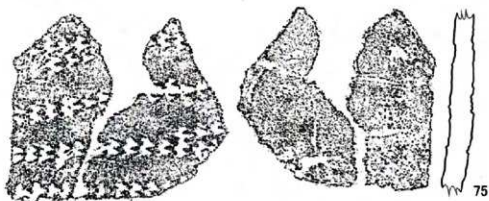
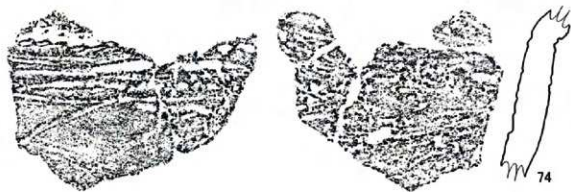
第43图 出土土器(9)



第44图 出土土器(10)

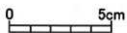
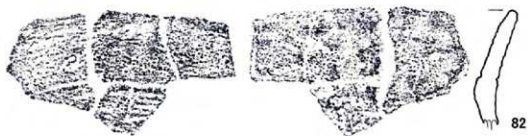
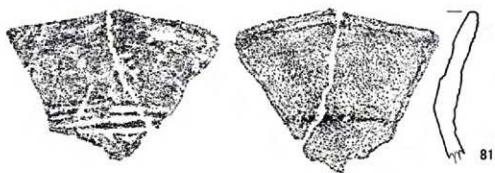
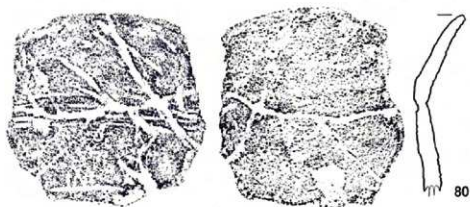
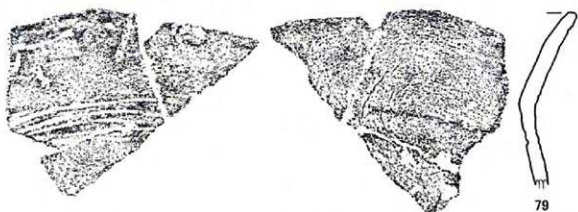


第45图 出土土器(11)

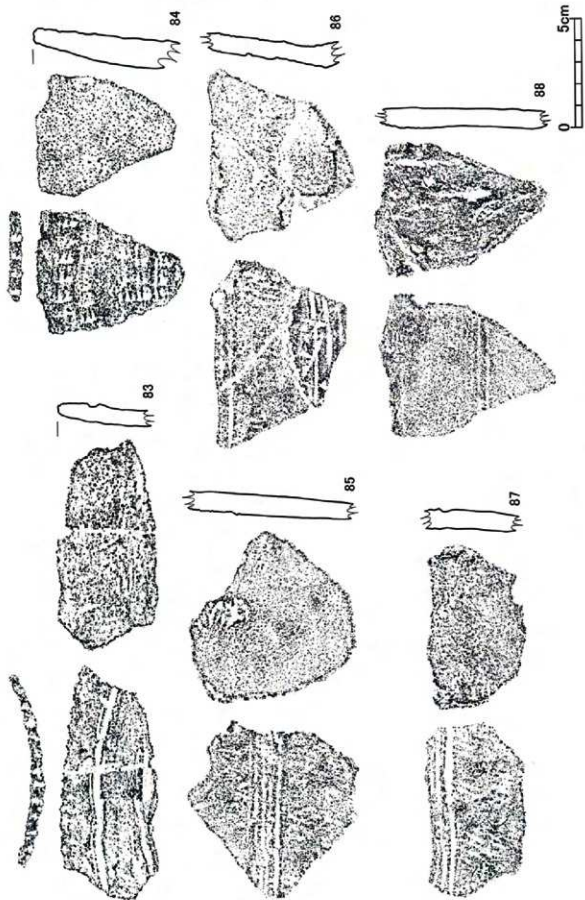


0 5cm

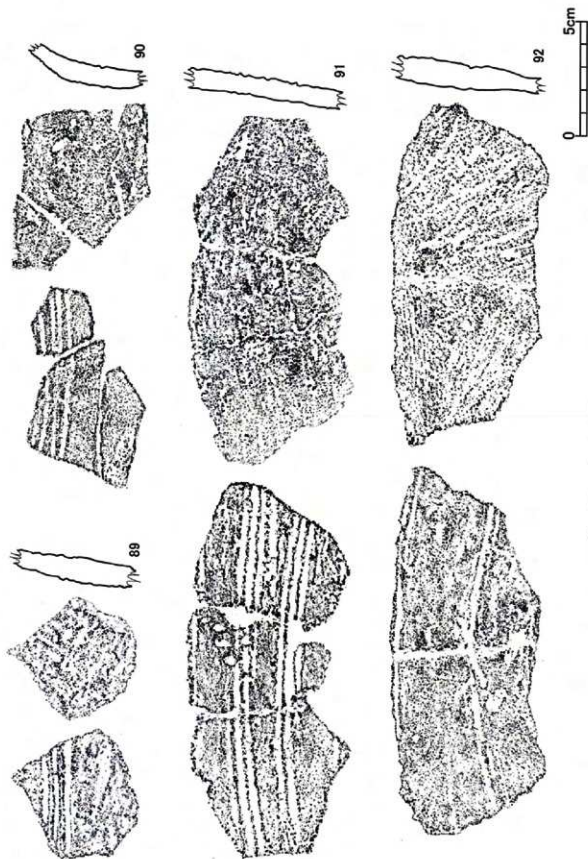
第46图 出土土器(12)



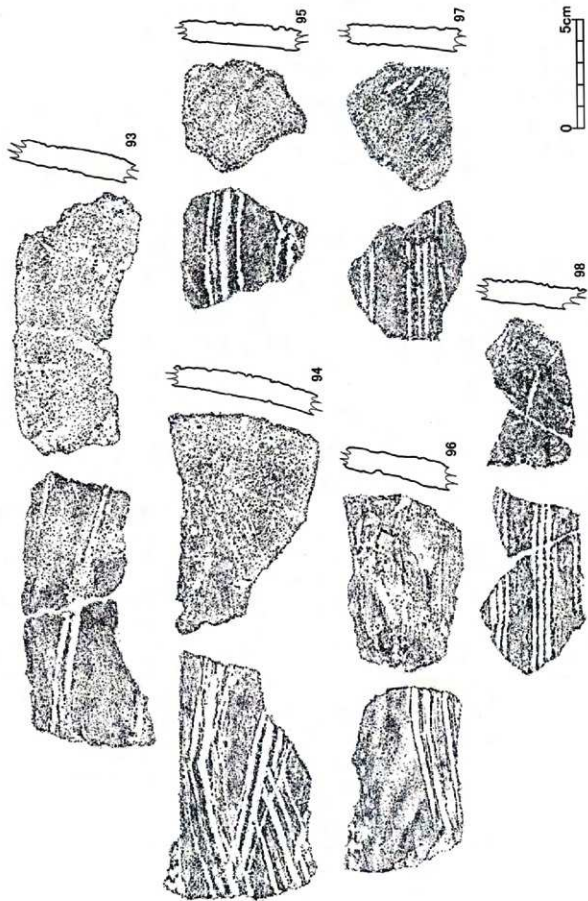
第47図 出土土器(13)



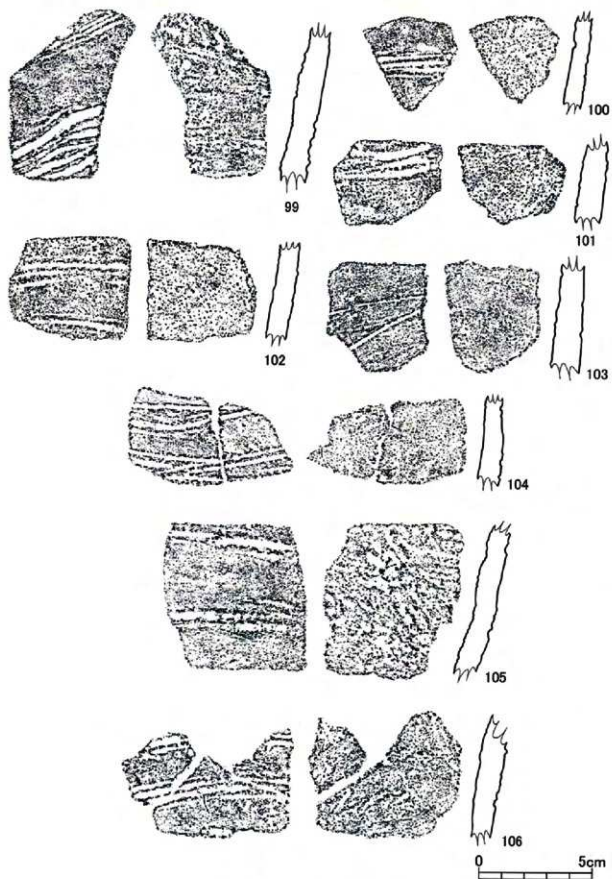
第48图 出土土器(14)



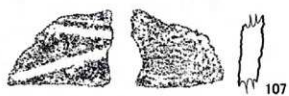
第49图 出土土器(15)



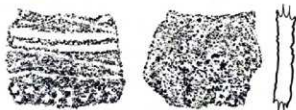
第50圖 出土土器(16)



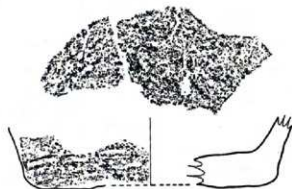
第51图 出土土器(17)



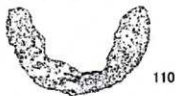
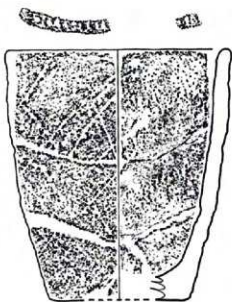
107



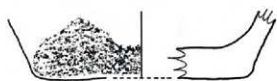
108



109



110



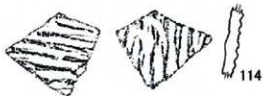
111



113



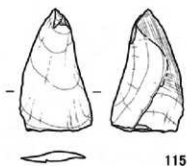
112



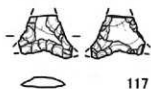
114



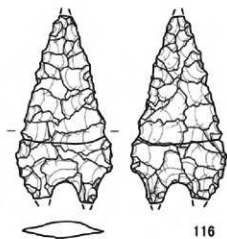
第52图 出土土器(18)



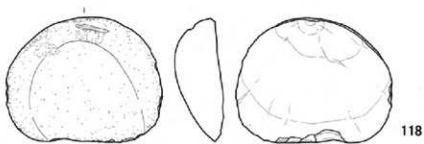
115



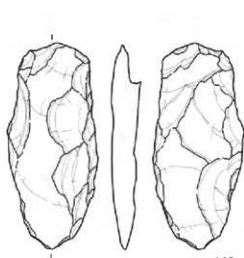
117



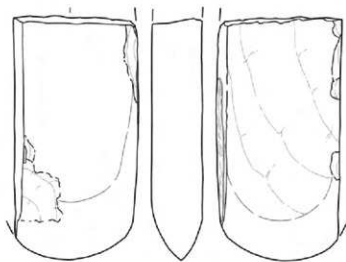
116



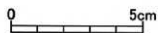
118



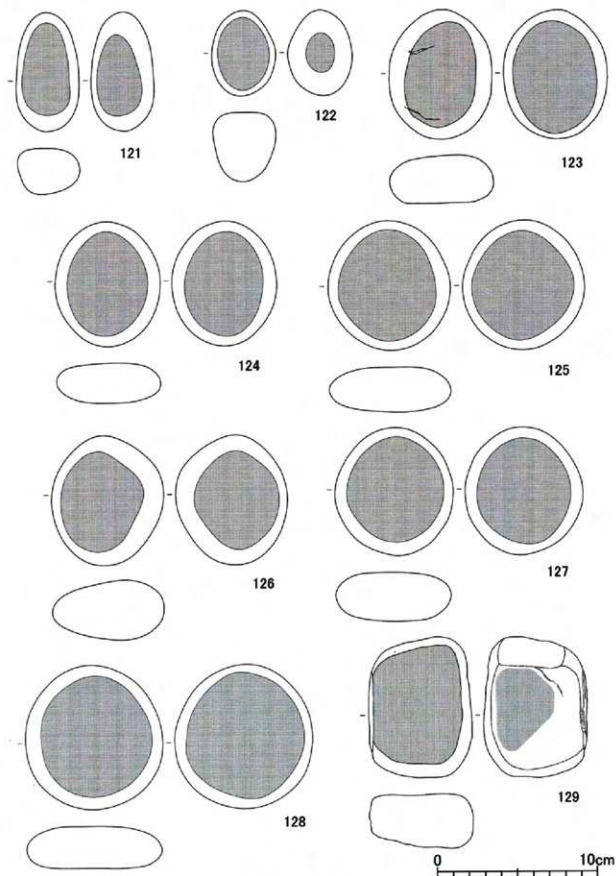
119



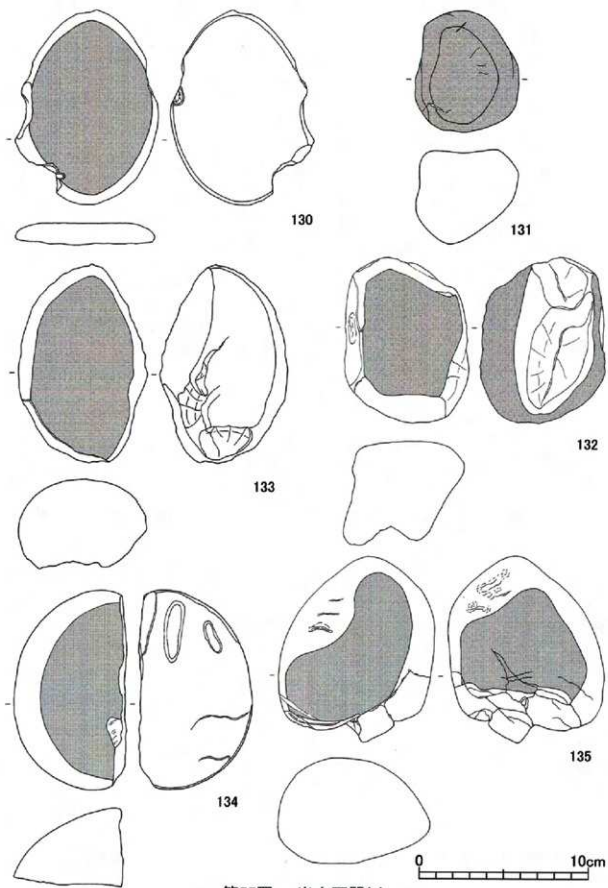
120



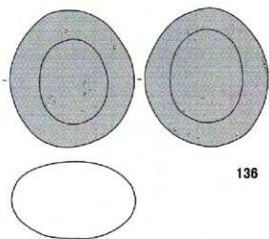
第53图 出土石器(1)



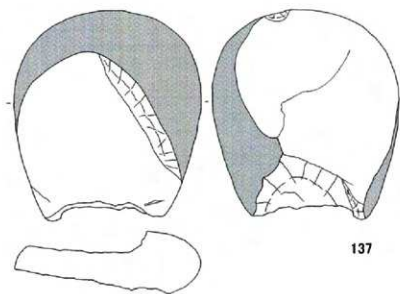
第54图 出土石器(2)



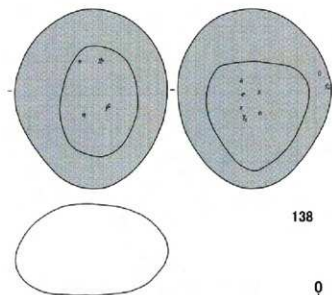
第55图 出土石器(3)



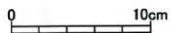
136



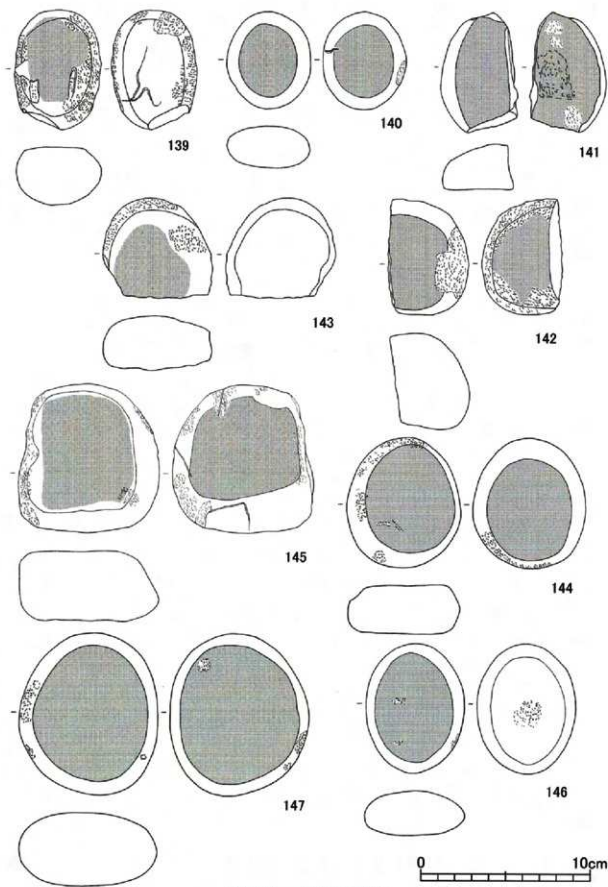
137



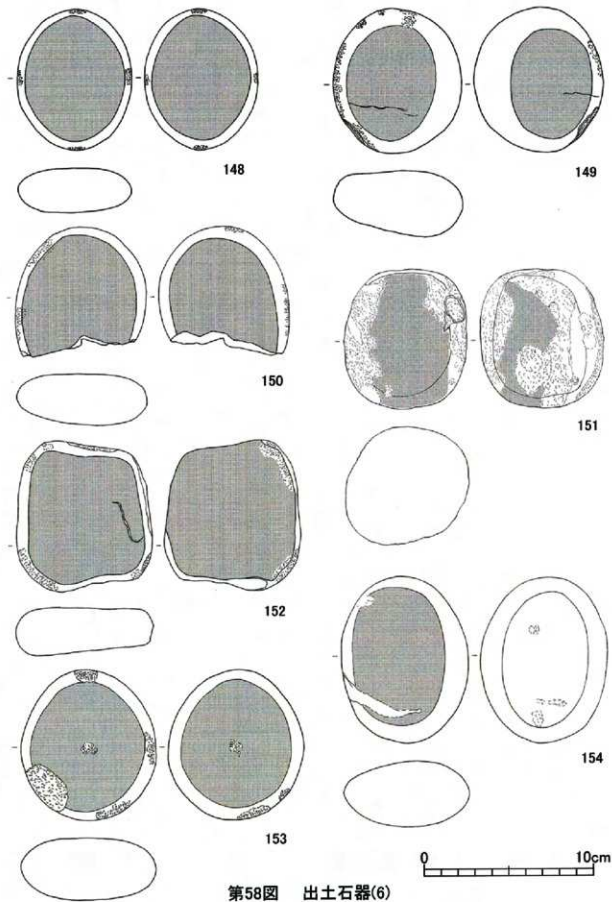
138



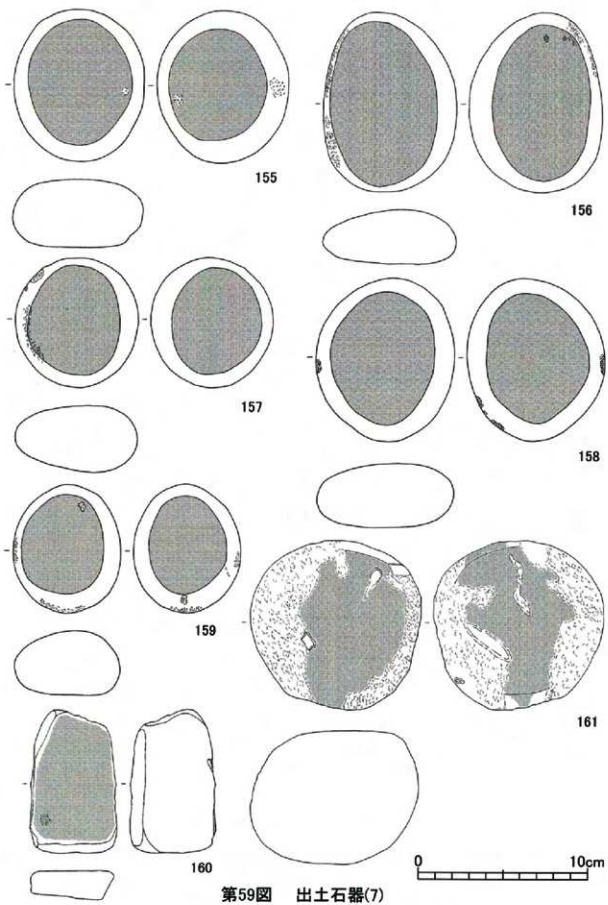
第56圖 出土石器(4)



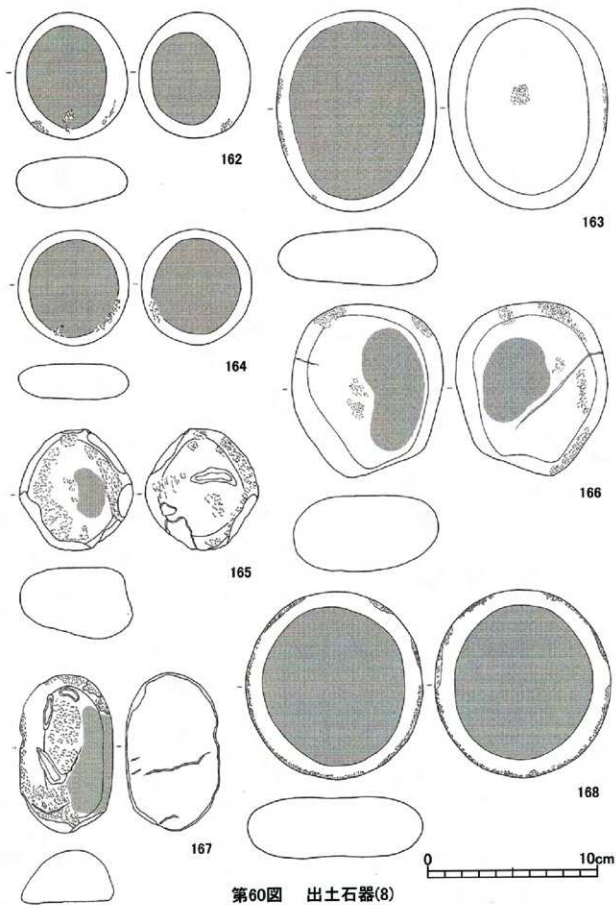
第57図 出土石器(5)



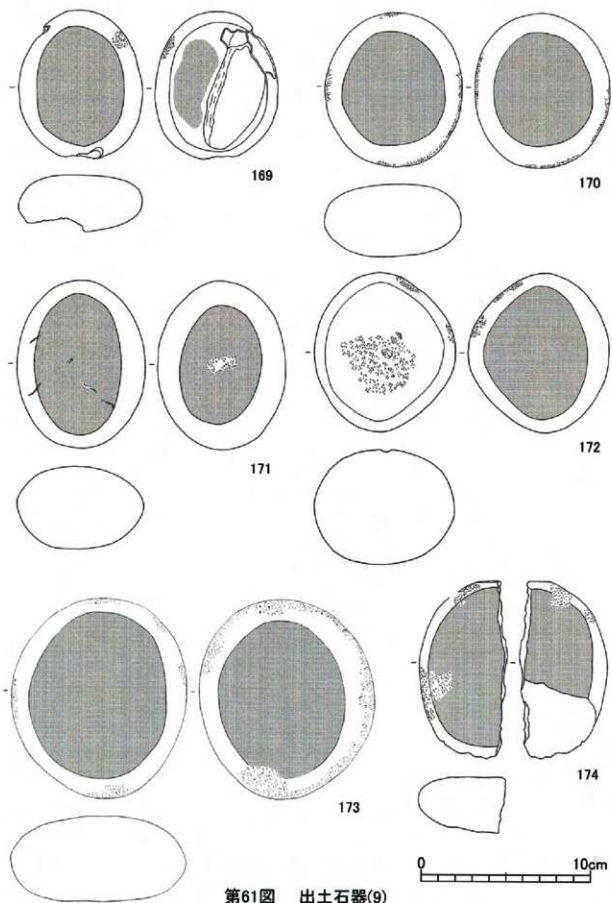
第58图 出土石器(6)



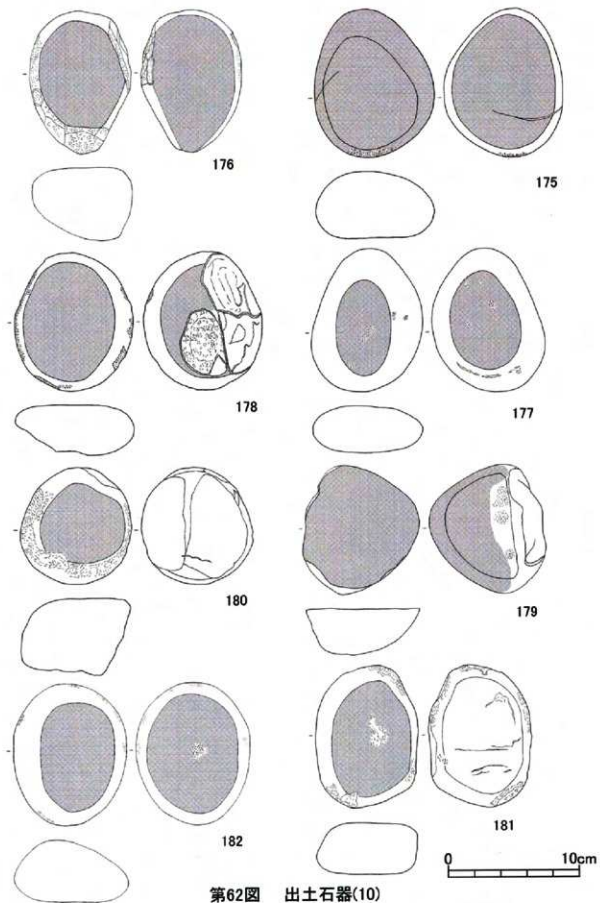
第59図 出土石器(7)



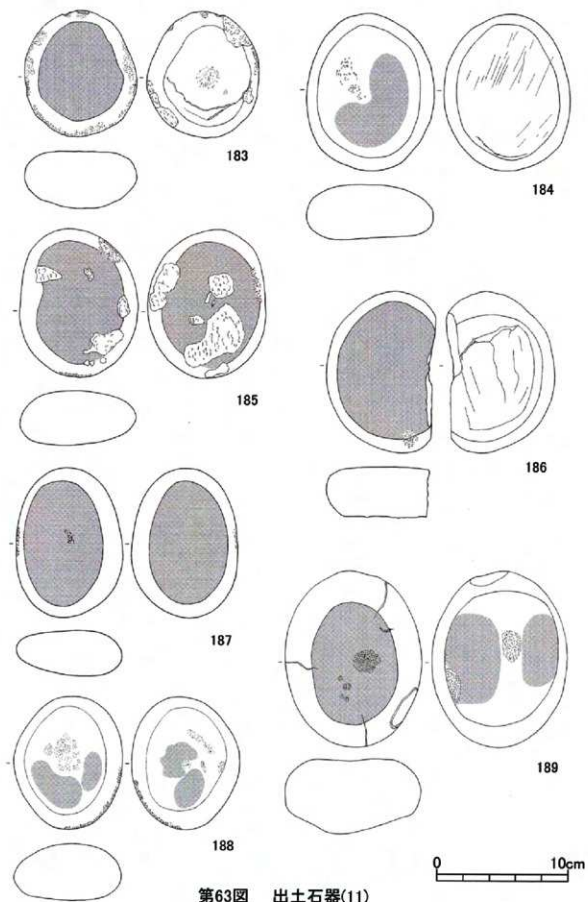
第60圖 出土石器(8)



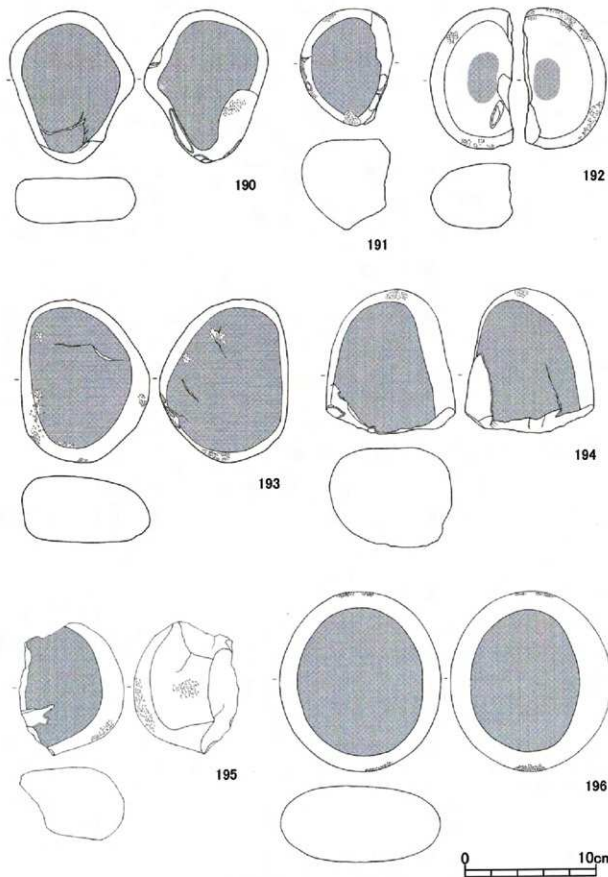
第61图 出土石器(9)



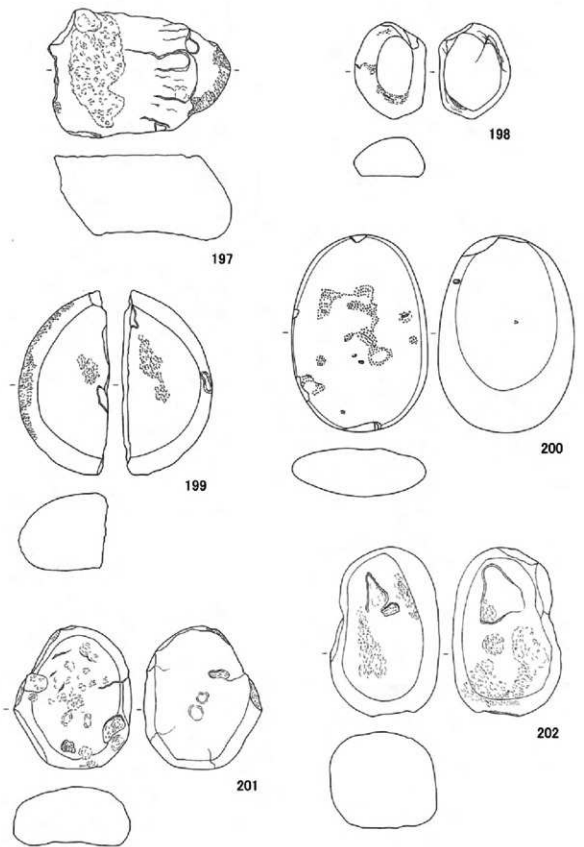
第62图 出土石器(10)



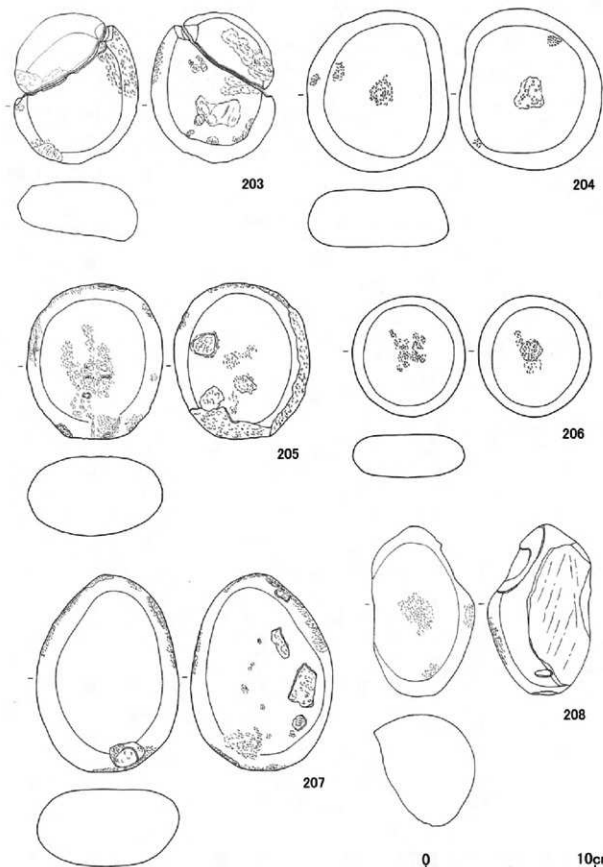
第63图 出土石器(11)



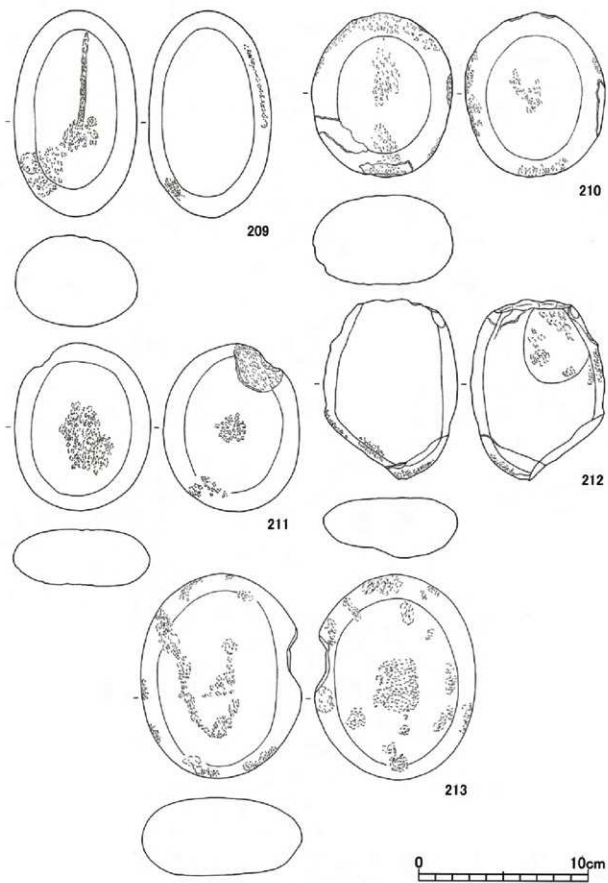
第64図 出土石器(12)



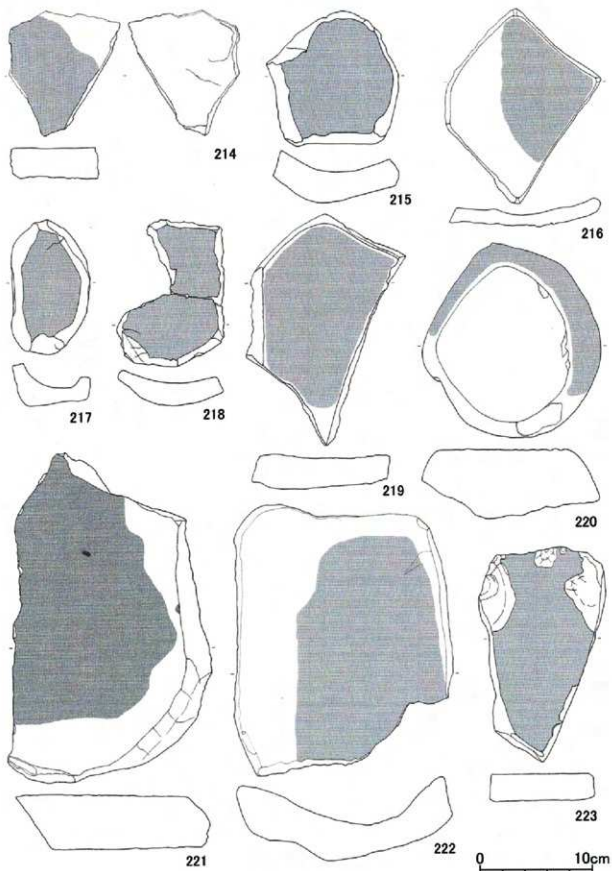
第65圖 出土石器(13)



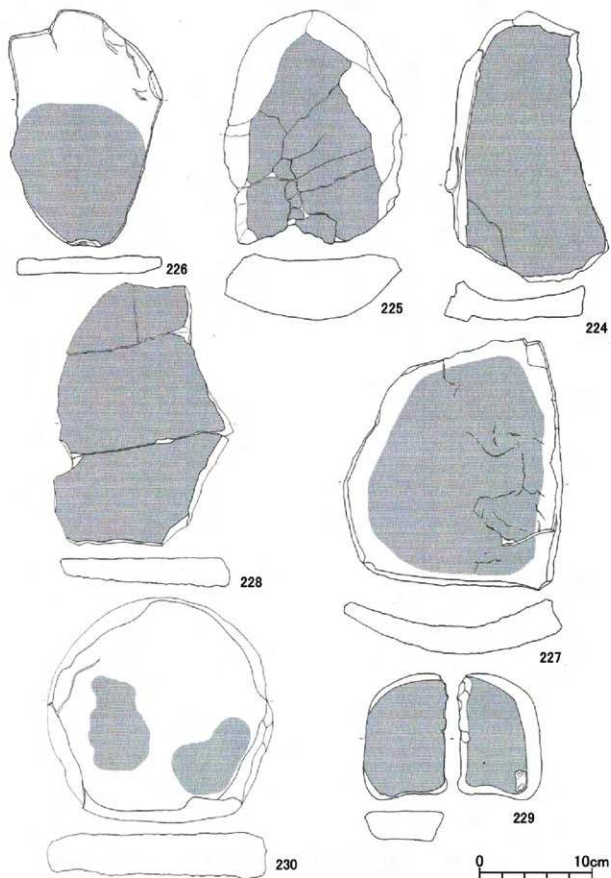
第66图 出土石器(14)



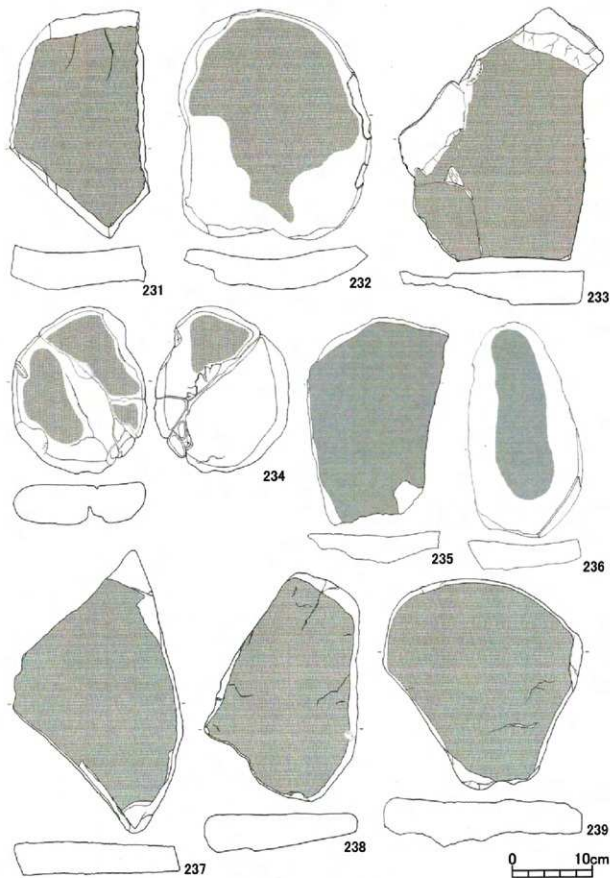
第67图 出土石器(15)



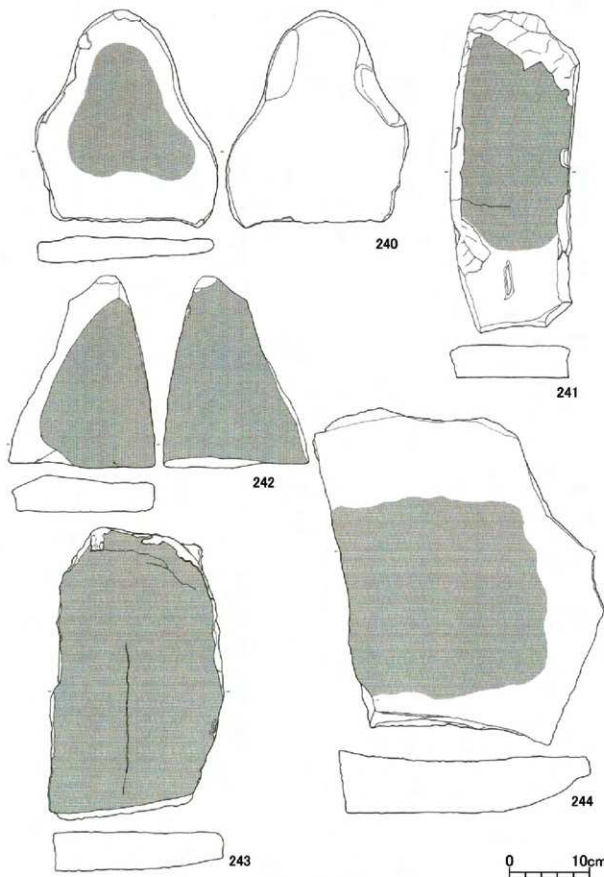
第68図 出土石器(16)



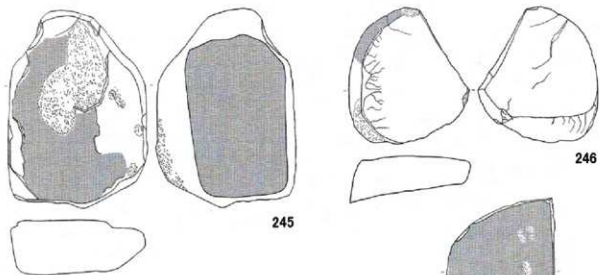
第69図 出土石器(17)



第70圖 出土石器(18)

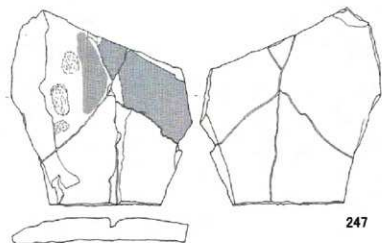


第71図 出土石器(19)



245

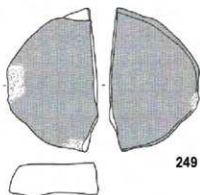
246



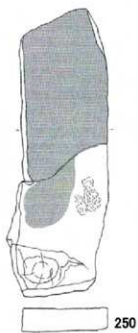
247



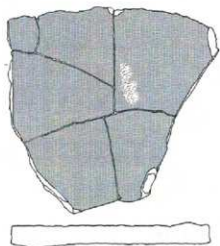
248



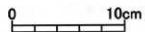
249



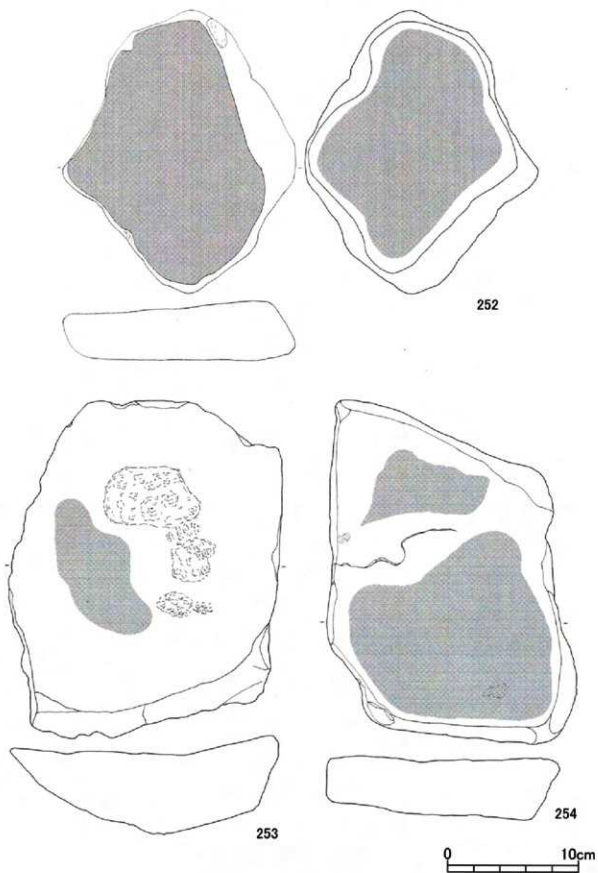
250



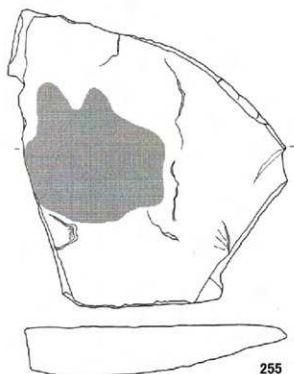
251



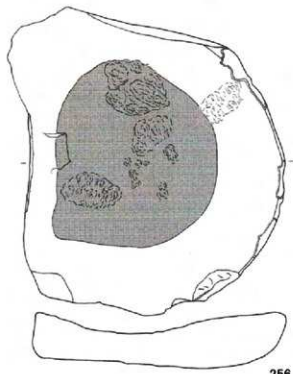
第72図 出土石器(20)



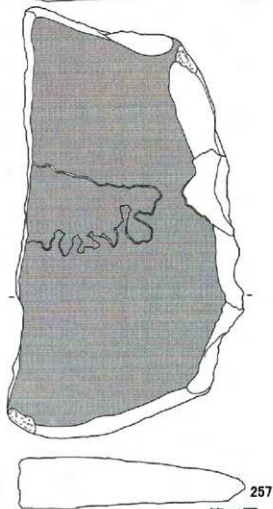
第73図 出土石器(21)



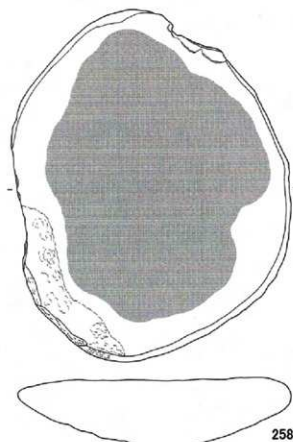
255



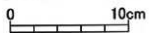
256



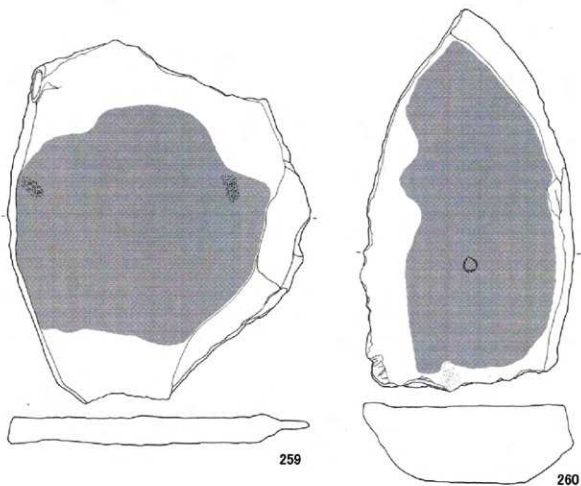
257



258

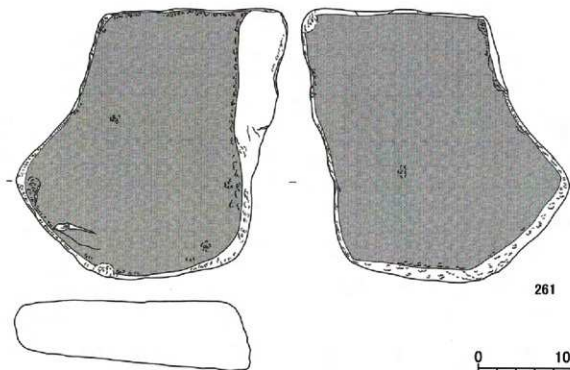


第74図 出土石器(22)



259

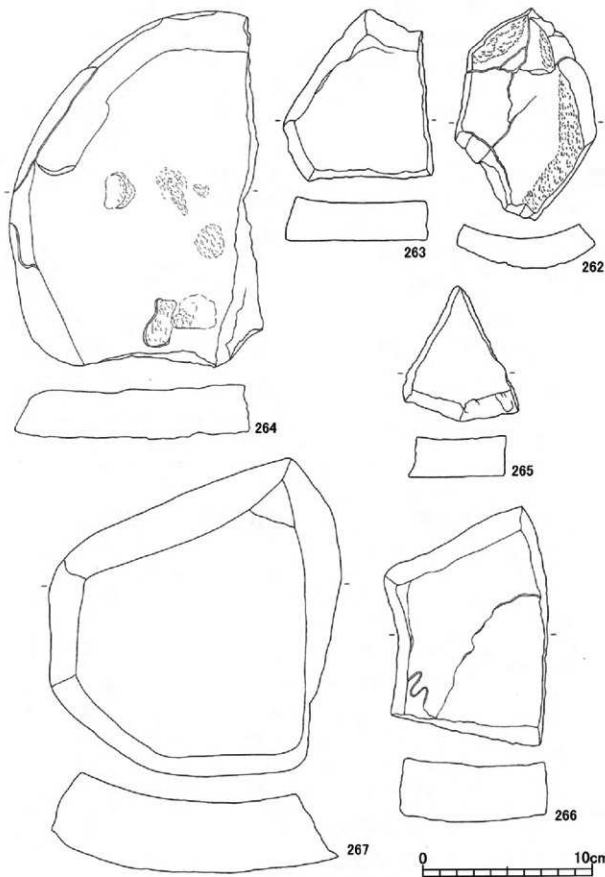
260



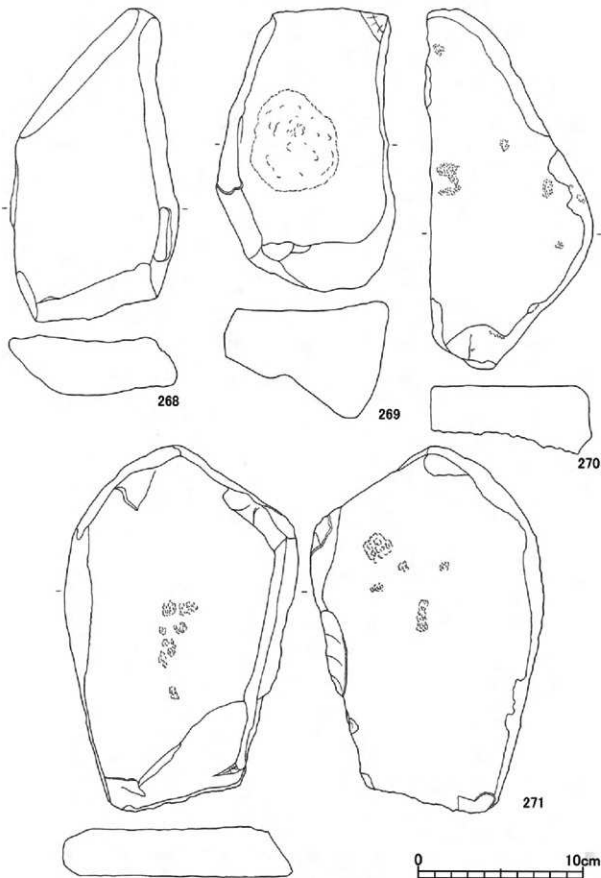
261

0 10cm

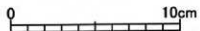
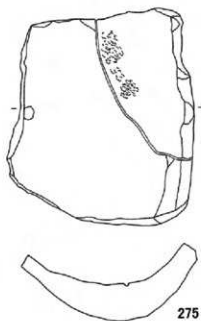
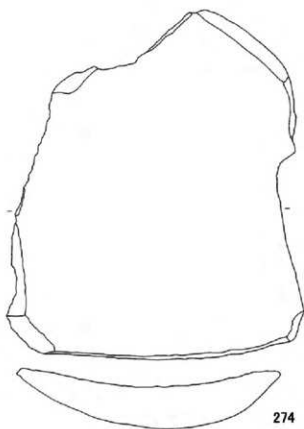
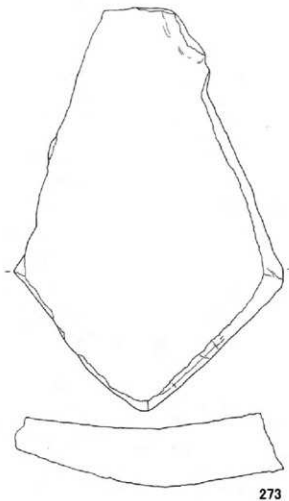
第75図 出土石器(23)



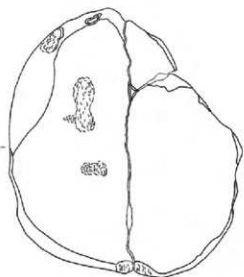
第76図 出土石器(24)



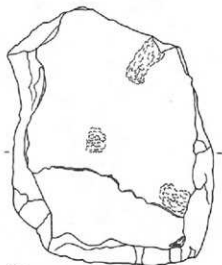
第77図 出土石器(25)



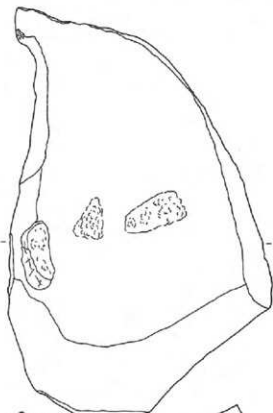
第78圖 出土石器(26)



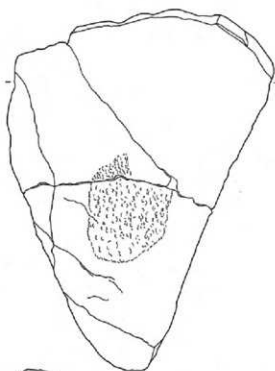
276



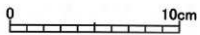
277



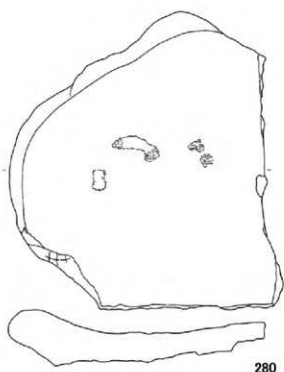
278



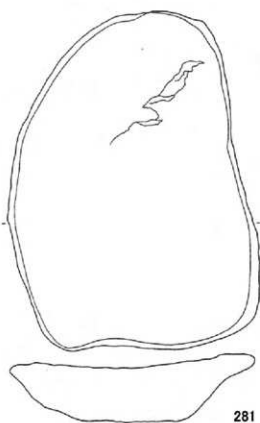
279



第79圖 出土石器(27)



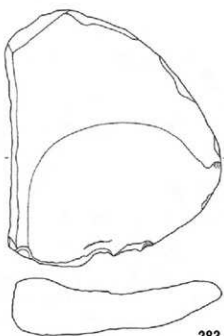
280



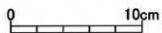
281



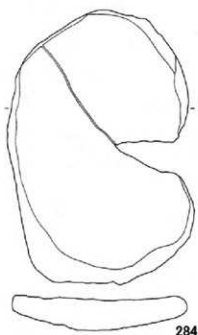
282



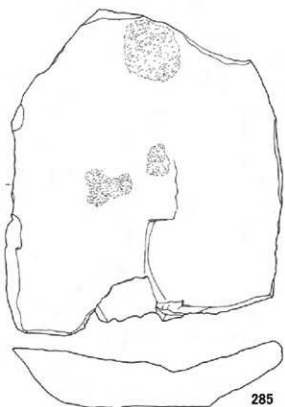
283



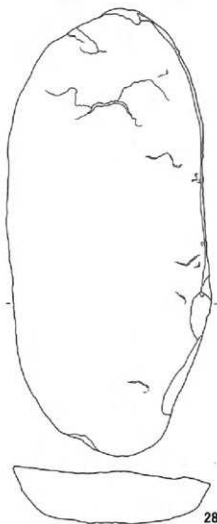
第80図 出土石器(28)



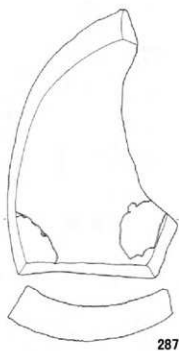
284



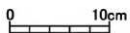
285



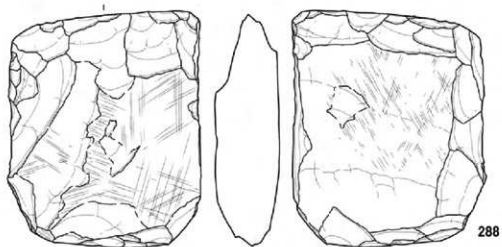
286



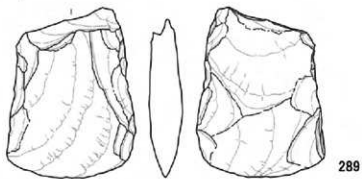
287



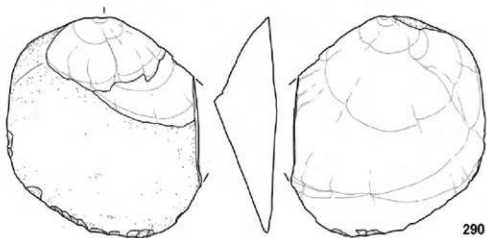
第81図 出土石器(29)



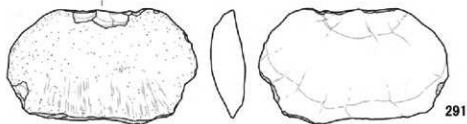
288



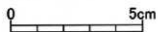
289



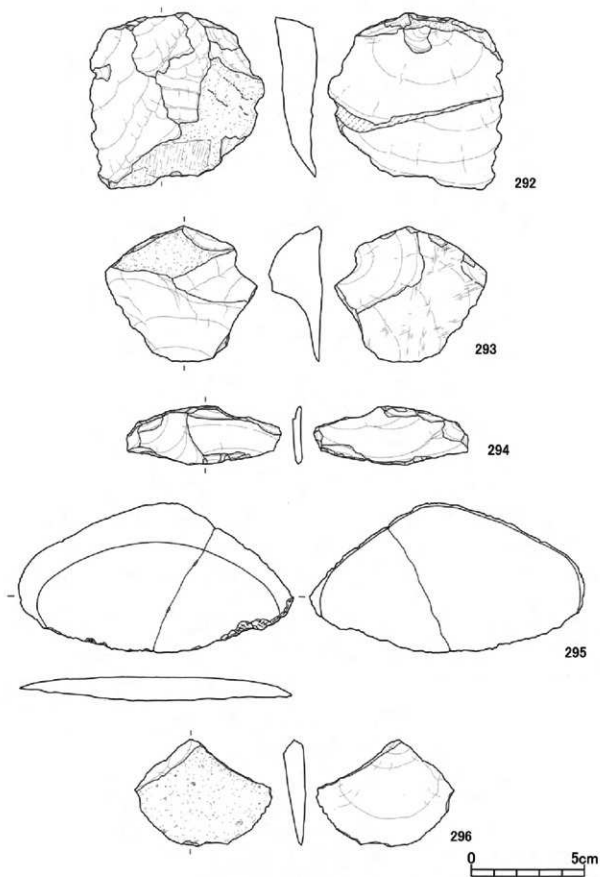
290



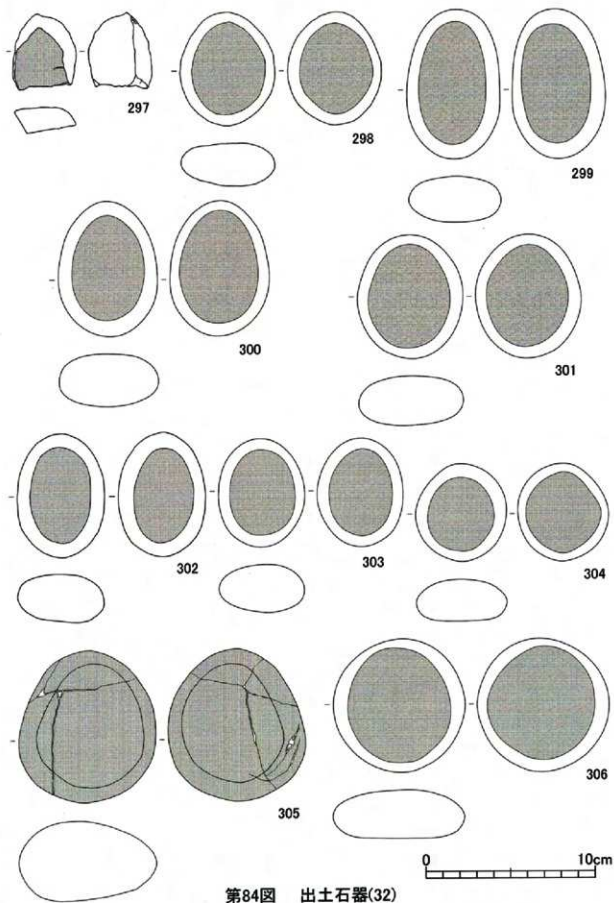
291



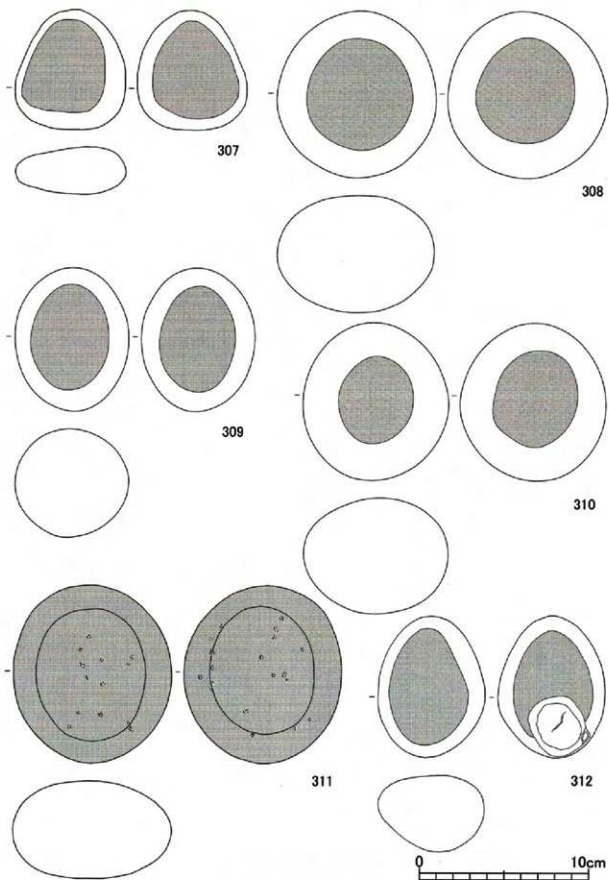
第82図 出土石器(30)



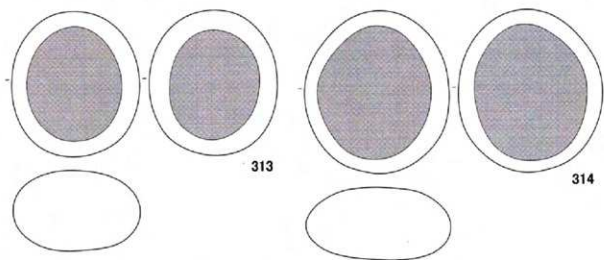
第83図 出土石器(31)



第84図 出土石器(32)

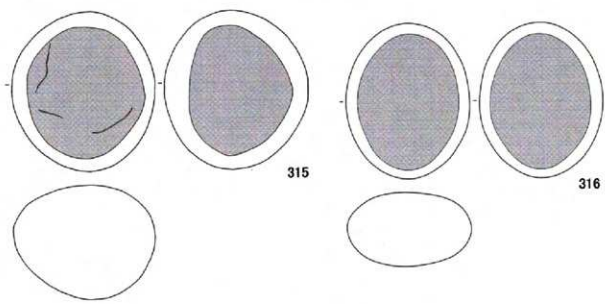


第85図 出土石器(33)



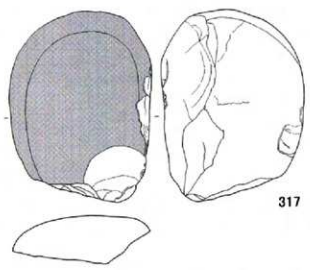
313

314

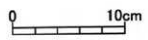


315

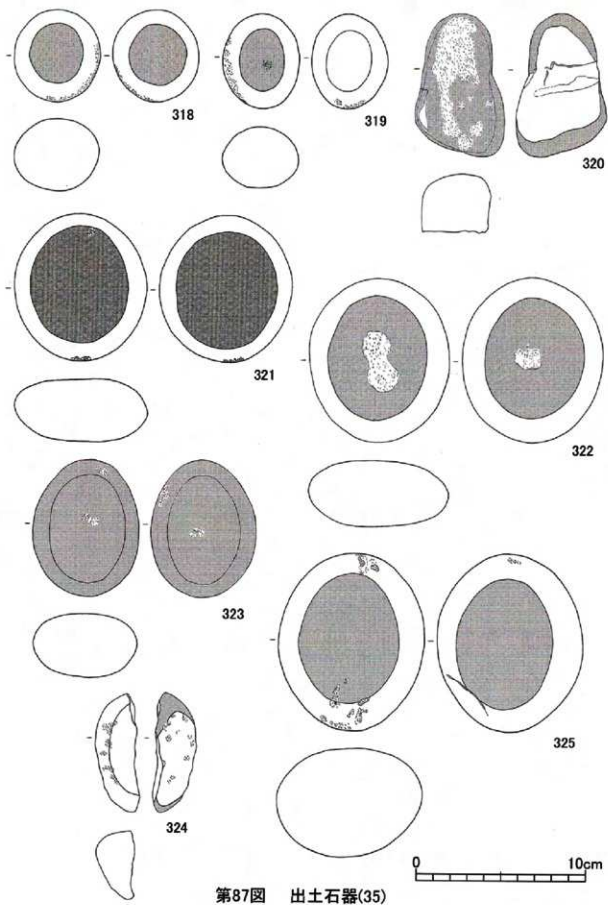
316



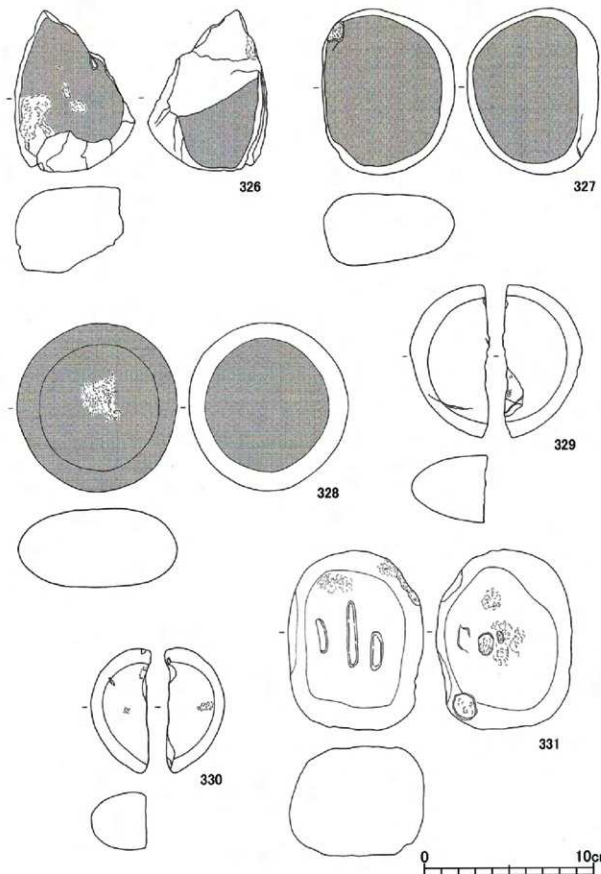
317



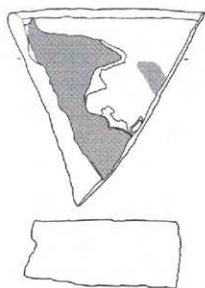
第86図 出土石器(34)



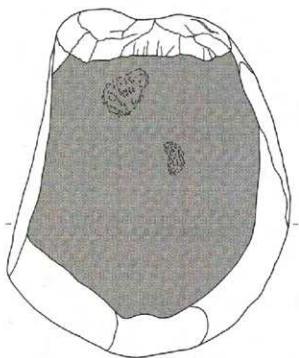
第87図 出土石器(35)



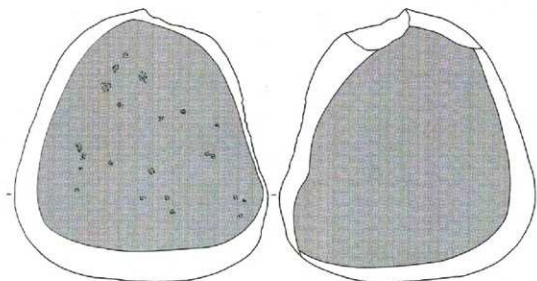
第88図 出土石器(36)



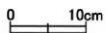
332



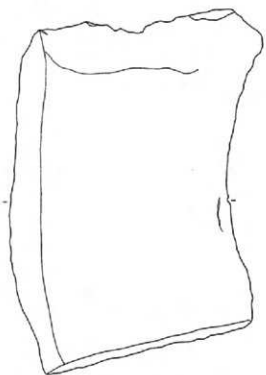
333



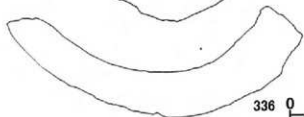
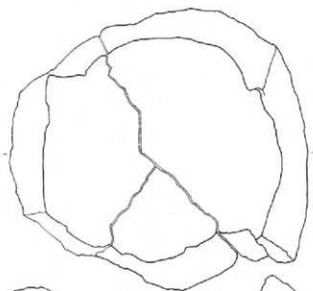
334



第89圖 出土石器(37)



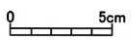
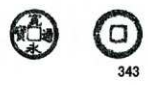
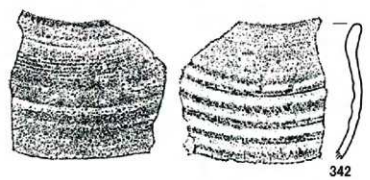
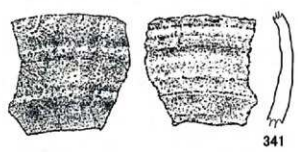
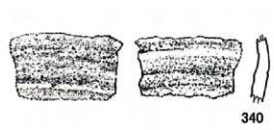
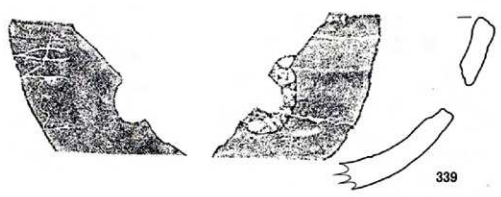
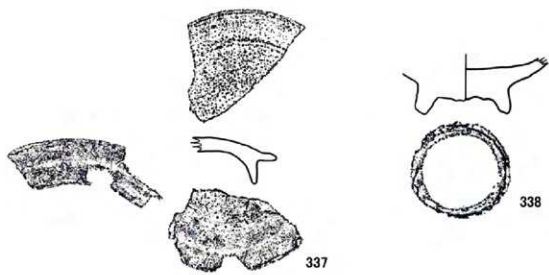
335



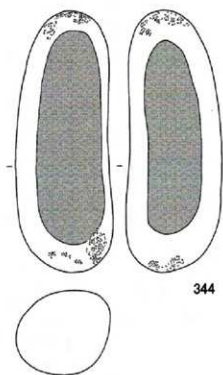
336

0 10cm

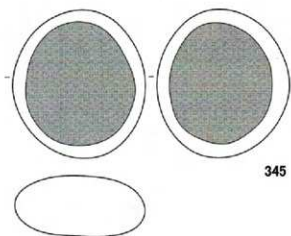
第90圖 出土石器(38)



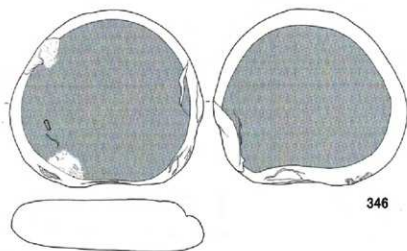
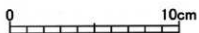
第91圖 柱穴内出土遺物(1)



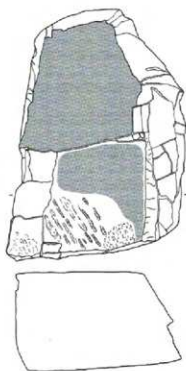
344



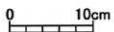
345



346



347



第92図 柱穴内出土遺物(2)

第4表 土器観察表(1)

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
35	1	342 388 545 547 548 718 378 418 478 480 509 548 552 一括	III	S	口縁部	暗赤褐	暗褐
	2	558	III	S	口縁部	褐	褐
36	3	567	III	S	口縁部	暗褐	暗赤褐
	4	466	III	S	口縁部	暗赤褐	褐
37	5	289	III	S	口縁部	褐	黒褐
	6	97	III	S	口縁部	暗褐	褐
	7	800	III	S	口縁部	赤褐	赤褐
	8	468	III	S	口縁部	明赤褐	褐
	9	253	III	S	口縁部	褐	赤褐
	10	738	3号配石内	3号配石	口縁部	にぶい褐	暗褐
	11	720	III	S	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
38	12	589	III	S	口縁部	暗褐	赤褐
	13	398	III	S	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	14	558	III	S	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	15	393	III	S	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	16	557 558	III	S	口縁部	暗褐	赤褐
	17	291	III	S	口縁部	褐	褐
	18	586	III	S	口縁部	褐	赤褐
	19	286	III	S	口縁部	暗褐	褐
	20	716	III	S	口縁部	暗褐	暗赤褐
	21	483	III	S	口縁部	にぶい赤褐	褐
39	22	496	III	S	口縁部	褐	暗赤褐
	23	978	III	S	口縁部	にぶい褐	赤褐
	24	512	III	S	口縁部	にぶい褐	にぶい褐
	25	349	III	S	口縁部	暗赤褐	暗赤褐
	26	285	III	S	口縁部	明褐	明褐
	27	374 568	III	S	口縁部	赤褐	赤褐
40	28	405	III	S	口縁部	にぶい褐	暗赤褐
	29	513	III	S	口縁部	暗褐	褐
	30	418 445	III	S	口縁部	暗褐	暗褐
	31	401	III	S	口縁部	赤褐	にぶい赤褐
	32	432	III	S	口縁部	褐	にぶい赤褐
	33	251	III	S	口縁部	明赤褐	明赤褐
	34	106	III	S	口縁部	赤褐	暗褐
	35	594	III	S	口縁部	にぶい赤褐	赤褐
	36	340	III	S	口縁部	暗褐	赤褐
	37	508	III	S	口縁部	赤褐	暗赤褐
	38	435	III	S	口縁部	暗赤褐	赤褐
	39	813	III	S-a	口縁部	暗褐	褐
41	40	317	III	S	口縁部	褐	褐
	41	414	III	S	口縁部	暗褐	褐
	42	748	6号配石内	6号配石	口縁部	褐	褐
	43	776	遺物出土状 況実測図内	遺物出土 状況実測図	口縁部	暗赤褐	暗褐
	44	446	III	S	口縁部	赤褐	暗褐
	45	746	4号配石内	4号配石	口縁部	暗褐	暗褐
	46	473	III	S	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
42	47	735	3号配石内	3号配石	胴部	褐	褐
	48	740	3号配石内	3号配石	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	49	584	III	S	胴部	暗褐	褐

第5表 土器観察表(2)

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
42	50	588	Ⅲ	S	胴部	明赤褐	明赤褐
	51	970	Ⅲ	S-a	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	52	277	Ⅲ	S	胴部	赤褐	褐
	53	391	Ⅲ	S	胴部	にぶい赤褐	赤褐
	54	558 562 770	Ⅲ	S	胴部	暗赤褐	暗赤褐
43	55	275	Ⅲ	S	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐
	56	514	Ⅲ	S	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	57	978	Ⅲ	S	胴部	にぶい赤褐	褐
	58	510	Ⅲ	S	胴部	赤褐	にぶい赤褐
	59	488	Ⅲ	S	胴部	赤褐	褐
	60	485	Ⅲ	S	胴部	褐	褐
	61	包一括	Ⅲ	S	胴部	赤褐	褐
	62	347	Ⅲ	S	胴部	明赤褐	褐
	63	814	Ⅲ	S-a	胴部	明赤褐	褐
	64	979	Ⅲ	S	胴部	赤褐	赤褐
44	65	424	Ⅲ	S	胴部	明赤褐	明赤褐
	66	49	Ⅲ	S	胴部	褐	黄褐
	67	表採 951	I	S-b	胴部	にぶい橙	褐
	68	444 449 452 481 582 715 716 717 719 799	Ⅲ	S	底部	明赤褐	明赤褐
	69	576	Ⅲ	S	胴部	赤褐	明褐
	70	58 913	Ⅲ	S S-b	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
45	71	表採カクラン 953	I	S-b	口縁部	にぶい橙	にぶい褐
	72	911	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	73	55	Ⅲ	S	胴部	暗褐	褐
46	74	63	Ⅲ	S	胴部	にぶい褐	にぶい橙
	75	462	Ⅲ	S	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐
	76	933	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	77	936	Ⅲ	S-b	胴部	褐	にぶい橙
	78	49	Ⅲ	S	胴部	にぶい橙	にぶい橙
47	79	21 22	Ⅲ	N	口縁部	にぶい橙	にぶい橙
	80	6	Ⅲ	N	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙
	81	19	Ⅲ	N	口縁部	黄橙	にぶい黄橙
	82	19	Ⅲ	N	口縁部	にぶい褐	にぶい黄橙
48	83	908 920	Ⅲ	S-b	口縁部	褐	褐
	84	290	Ⅲ	S	口縁部	橙	褐
	85	14	Ⅲ	N	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙
	86	19	Ⅲ	N	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	87	34	Ⅲ	N	胴部	明赤褐	にぶい黄橙
	88	16	Ⅲ	N	胴部	褐	にぶい黄橙
	89	78	Ⅲ	S	胴部	橙	暗褐
49	90	10	Ⅲ	N	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	91	935 947	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	92	64 65	Ⅲ	S	胴部	橙	暗褐
50	93	62 67	Ⅲ	S	胴部	明褐	暗褐
	94	945	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい橙	にぶい褐
	95	962	Ⅲ	S-b	胴部	橙	にぶい橙
	96	914	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	97	956	Ⅲ	S-b	胴部	橙	褐
	98	909	Ⅲ	S-b	胴部	橙	褐

第6表 土器観察表(3)

押図 番号	遺物 番号	取上番号	出土層	出土区	部位	色調外面	色調内面
51	99	931	Ⅲ	S-b	胴部	橙	にぶい橙
	100	937	Ⅲ	S-b	胴部	橙	暗褐
	101	932	Ⅲ	S-b	胴部	橙	にぶい橙
	102	930	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい橙	にぶい褐
	103	921	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい橙	褐
	104	916 包一括	Ⅲ	S-b	胴部	橙	褐
	105	72	Ⅲ	S	胴部	橙	褐
	106	965	Ⅲ	S-b	胴部	橙	にぶい褐
52	107	934	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	108	928	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい褐	にぶい褐
	109	73 922	Ⅲ	S S-b	底部	橙	橙
	110	906 919 924 925 963 一括	Ⅲ	S-b	底部	にぶい橙	にぶい橙
	111	939	Ⅲ	S	底部	橙	橙
	112	311	Ⅲ	S	胴部	にぶい橙	にぶい橙
	113	包一括	Ⅲ	S-b	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐
	114	82	I ~ II	S	胴部	灰黄褐	灰黄褐

第7表 石器観察表(1)

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
53	115	石鏃	S	377	Ⅲ	3.2	1.92	0.38	2.06	チャート
	116	石鏃	S	100	Ⅲ	4.98	2.53	0.48	4.72	貫岩
	117	石鏃	S	682	Ⅲ	1.12	1.42	0.28	0.47	貫岩
	118	剥片石器	S	457	Ⅲ	5.07	6.34	2.0	66.03	砂岩
	119	剥片石器	S	92	Ⅲ	8.32	3.72	1.2	40.13	粘板岩
	120	石斧	S	153	Ⅲ	9.85	5.16	2.28	211.03	砂岩
54	121	磨石敲石	S	148	Ⅲ	7.3	3.9	2.8	120	砂岩
	122	磨石敲石	S	185	Ⅲ	5.3	4.0	4.2	100	砂岩
	123	磨石敲石	S	134	Ⅲ	7.9	6.4	3.0	200	砂岩
	124	磨石敲石	S	392	Ⅲ	7.7	6.5	2.5	200	砂岩
	125	磨石敲石	S	809	Ⅲ	8.0	7.6	2.7	220	砂岩
	126	磨石敲石	S	139	Ⅲ	8.1	7.0	3.5	260	砂岩
	127	磨石敲石	S	520	Ⅲ	7.9	7.3	3.0	240	砂岩
	128	磨石敲石	S	209	Ⅲ	8.9	8.5	2.6	300	砂岩
	129	磨石敲石	1号配石	168	1号配石内	8.5	6.4	3.4	340	砂岩
55	130	磨石敲石	S	442	Ⅲ	11.3	8.2	1.2	150	砂岩
	131	磨石敲石	S	660	Ⅲ	7.1	6.1	5.3	385	砂岩
	132	磨石敲石	2号配石	174	2号配石内	9.4	7.2	5.7	640	砂岩
	133	磨石敲石	S	145	Ⅲ	11.5	7.6	4.9	560	砂岩
	134	磨石敲石	S	396	Ⅲ	11.7	6.6	4.5	430	砂岩
	135	磨石敲石	3号配石	198	3号配石内	10.9	9.0	6.3	735	砂岩
56	136	磨石敲石	S	142	Ⅲ	9.8	8.8	5.5	600	砂岩
	137	磨石敲石	S	147	Ⅲ	14.2	13.4	4.2	880	砂岩
	138	磨石敲石	S	101	Ⅲ	12.8	11.0	6.5	1,200	砂岩
57	139	磨石敲石	S-a	815	Ⅲ	6.9	5.0	3.4	180	砂岩
	140	磨石敲石	S	182	Ⅲ	5.7	4.9	2.4	100	砂岩
	141	磨石敲石	S	201	Ⅲ	6.7	4.2	2.6	110	砂岩
	142	磨石敲石	S	385	Ⅲ	6.7	4.7	5.4	250	砂岩
	143	磨石敲石	S	798	Ⅲ	5.8	6.4	3.1	160	砂岩
	144	磨石敲石	4号配石	211	4号配石内	7.6	6.6	2.9	170	砂岩
	145	磨石敲石	S	152	Ⅲ	8.7	8.2	4.1	420	砂岩
	146	磨石敲石	S	175	Ⅲ	7.6	5.8	2.4	150	砂岩
58	147	磨石敲石	S	216	Ⅲ	9.5	8.1	4.4	450	砂岩
	148	磨石敲石	S	518	Ⅲ	8.3	6.8	2.6	200	砂岩
	149	磨石敲石	1号集石隣接	204	1号集石隣接内	8.5	7.6	3.9	350	砂岩
	150	磨石敲石	S	681	Ⅲ	7.1	7.6	3.0	270	砂岩
	151	磨石敲石	N	25	Ⅲ	8.2	7.3	6.8	630	砂岩
	152	磨石敲石	S	463	Ⅲ	8.8	8.0	2.8	320	砂岩
	153	磨石敲石	遺物出土 状況実測図	774	遺物出土状況 実測図内	8.8	8.0	3.6	360	砂岩
	154	磨石敲石	1号集石隣接	203	1号集石隣接内	9.7	7.4	3.8	300	砂岩
59	155	磨石敲石	S	206	Ⅲ	8.9	7.7	4.0	350	砂岩
	156	磨石敲石	S	129	Ⅲ	10.5	7.9	3.0	390	砂岩
	157	磨石敲石	S	795	Ⅲ	7.6	7.3	3.8	300	砂岩
	158	磨石敲石	4号配石	211	4号配石内	9.6	8.2	3.8	460	砂岩
	159	磨石敲石	S	529	Ⅲ	7.5	6.4	3.3	250	砂岩
	160	磨石敲石	S	456	Ⅲ	8.4	5.0	1.7	120	砂岩
	161	磨石敲石	7号配石	753	7号配石内	9.9	10.0	7.8	1,070	砂岩
60	162	磨石敲石	S	155	Ⅲ	7.4	6.6	2.9	200	砂岩
	163	磨石敲石	S	219	Ⅲ	11.8	9.4	3.2	590	砂岩
	164	磨石敲石	S	186	Ⅲ	6.8	6.5	2.1	110	砂岩

第8表 石器観察表(2)

挿入 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
60	165	磨石敲石	S	149	Ⅲ	7.1	6.7	4.1	250	砂岩
	166	磨石敲石	S	136	Ⅲ	10.0	8.9	4.5	580	砂岩
	167	磨石敲石	S	420	Ⅲ	9.2	5.5	3.0	210	砂岩
	168	磨石敲石	S	181	Ⅲ	11.0	10.4	3.4	600	砂岩
61	169	磨石敲石	S	188	Ⅲ	8.5	7.3	3.3	255	砂岩
	170	磨石敲石	S	133	Ⅲ	9.0	8.1	4.2	450	砂岩
	171	磨石敲石	S	539	Ⅲ	9.8	7.5	4.8	450	砂岩
	172	磨石敲石	S	689	Ⅲ	9.4	8.3	6.7	650	砂岩
	173	磨石敲石	S	382	Ⅲ	11.7	10.4	5.0	850	砂岩
	174	磨石敲石	S	179	Ⅲ	10.4	5.1	3.2	210	砂岩
	175	磨石敲石	S	614	Ⅲ	11.2	9.0	5.0	750	砂岩
62	176	磨石敲石	S	654	Ⅲ	10.7	7.7	5.4	590	砂岩
	177	磨石敲石	S	383	Ⅲ	10.8	8.4	3.6	460	砂岩
	178	磨石敲石	S	674	Ⅲ	10.4	8.9	3.8	330	砂岩
	179	磨石敲石	S	676	Ⅲ	9.8	8.6	3.3	310	砂岩
	180	磨石敲石	S	112	Ⅲ	8.8	8.4	5.8	510	砂岩
	181	磨石敲石	S	687	Ⅲ	10.5	7.8	3.9	260	砂岩
	182	磨石敲石	S	671	Ⅲ	10.6	8.6	4.7	600	砂岩
	183	磨石敲石	S-a	821	Ⅲ	9.5	8.4	4.3	310	砂岩
	184	磨石敲石	S	618	Ⅲ	11.8	9.6	4.0	600	砂岩
	185	磨石敲石	S	217	Ⅲ	11.1	8.9	4.1	600	砂岩
63	186	磨石敲石	S-a	811	Ⅲ	12.1	7.7	3.7	580	砂岩
	187	磨石敲石	S	647	Ⅲ	11.2	8.1	3.4	470	砂岩
	188	磨石敲石	S	630	Ⅲ	10.0	8.2	4.3	500	砂岩
	189	磨石敲石	S	201	Ⅲ	13.3	10.3	5.4	970	砂岩
	190	磨石敲石	S	632	Ⅲ	11.5	9.2	3.2	430	砂岩
	191	磨石敲石	S	522	Ⅲ	8.8	7.0	6.7	570	砂岩
64	192	磨石敲石	S	184	Ⅲ	10.6	6.2	4.9	430	砂岩
	193	磨石敲石	S	140	Ⅲ	12.1	9.8	5.0	900	砂岩
	194	磨石敲石	2号配石	173	2号配石内	10.9	9.3	7.5	1,070	砂岩
	195	磨石敲石	S-a	823	Ⅲ	9.5	7.9	5.2	470	砂岩
	196	磨石敲石	S	524	Ⅲ	13.5	12.1	5.7	1,350	砂岩
	197	磨石敲石	S	683	Ⅲ	7.3	10.3	4.5	510	砂岩
65	198	磨石敲石	S	696	Ⅲ	5.6	4.2	2.2	70	砂岩
	199	磨石敲石	S	113	Ⅲ	10.5	5.2	4.4	300	砂岩
	200	磨石敲石	S	527	Ⅲ	11.5	7.9	2.8	390	砂岩
	201	磨石敲石	S	658	Ⅲ	8.4	6.9	3.3	250	砂岩
	202	磨石敲石	S	651	Ⅲ	9.8	6.4	5.6	550	砂岩
66	203	磨石敲石	S	621	Ⅲ	8.8	7.2	3.1	270	砂岩
	204	磨石敲石	6号配石	119	6号配石内	9.4	8.3	3.3	400	砂岩
	205	磨石敲石	S	519	Ⅲ	9.1	7.9	4.6	470	砂岩
	206	磨石敲石	N	12	Ⅲ	7.1	6.6	2.5	200	砂岩
	207	磨石敲石	7号配石	757	7号配石内	11.5	8.4	4.5	650	砂岩
	208	磨石敲石	1号集石隣接	205	1号集石隣接内	10.0	5.9	6.4	430	砂岩
67	209	磨石敲石	S	208	Ⅲ	12.0	7.2	5.3	650	砂岩
	210	磨石敲石	S	180	Ⅲ	9.6	8.3	5.2	500	砂岩
	211	磨石敲石	S	154	Ⅲ	9.9	8.0	3.3	390	砂岩
	212	磨石敲石	S	379	Ⅲ	10.5	7.9	3.5	420	砂岩
	213	磨石敲石	S	528	Ⅲ	12.0	9.4	4.5	680	砂岩

第9表 石器観察表(3)

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
68	214	台石石皿	S	635	Ⅲ	10.9	7.7	2.7	340	砂岩
	215	台石石皿	7号配石	751	7号配石内	11.6	11.3	2.9	590	砂岩
	216	台石石皿	S	523	Ⅲ	17.0	13.4	9.0	365	砂岩
	217	台石石皿	S	166	Ⅲ	11.8	6.8	2.0	310	砂岩
	218	台石石皿	S	535	Ⅲ	12.5	9.4	1.9	340	砂岩
	219	台石石皿	S	608	Ⅲ	20.3	12.3	3.0	920	砂岩
	220	台石石皿	S	89	Ⅲ	16.8	15.7	6.0	2,100	砂岩
	221	台石石皿	S	124	Ⅲ	28.7	17.0	4.8	3,700	砂岩
	222	台石石皿	S	160	Ⅲ	21.7	19.1	3.7	3,400	砂岩
	223	台石石皿	3号配石	765	3号配石内	18.6	9.3	2.3	710	砂岩
	224	台石石皿	7号配石	752	7号配石内	23.6	12.4	3.0	1,150	砂岩
69	225	台石石皿	S	125	Ⅲ	20.0	15.5	5.2	2,350	砂岩
	226	台石石皿	6号配石	118	6号配石内	20.6	12.8	1.4	670	砂岩
	227	台石石皿	S	218	Ⅲ	21.7	19.4	3.2	1,750	砂岩
	228	台石石皿	7号配石	754	7号配石内	22.6	15.0	2.6	1,150	砂岩
	229	台石石皿	S	458	Ⅲ	10.5	7.2	2.5	400	砂岩
	230	台石石皿	4号配石	212	4号配石内	19.6	19.5	3.5	2,400	砂岩
	231	台石石皿	1号配石	169	1号配石内	27.8	17.0	4.6	3,400	砂岩
	232	台石石皿	S	165	Ⅲ	27.0	23.0	3.7	4,300	砂岩
70	233	台石石皿	S	200	Ⅲ	31.2	23.0	4.1	3,800	砂岩
	234	台石石皿	5号配石	220	5号配石内	20.5	16.5	4.9	2,500	砂岩
	235	台石石皿	2号配石	172	2号配石内	24.5	16.6	3.3	1,900	砂岩
	236	台石石皿	S	620	Ⅲ	26.5	14.2	3.4	2,000	砂岩
	237	台石石皿	6号配石	123	6号配石内	35.2	20.9	3.8	3,000	砂岩
	238	台石石皿	3号配石	190	3号配石内	28.4	19.1	4.4	3,200	砂岩
	239	台石石皿	4号配石	213	4号配石内	26.1	25.0	4.3	4,500	砂岩
	240	台石石皿	S	131	Ⅲ	26.2	22.0	3.2	2,600	砂岩
	241	台石石皿	S	612	Ⅲ	39.2	14.9	4.0	4,300	砂岩
71	242	台石石皿	6号配石	117	6号配石内	23.9	17.7	4.5	2,450	砂岩
	243	台石石皿	2号配石	171	2号配石内	37.0	21.1	4.7	6,400	砂岩
	244	台石石皿	3号配石	195	3号配石内	39.8	31.0	7.0	140,000	砂岩
	72	245	台石石皿	S	648	Ⅲ	16.8	11.9	4.8	1,500
246		台石石皿	S	664	Ⅲ	11.2	10.6	3.4	540	砂岩
247		台石石皿	S	137	Ⅲ	16.1	15.5	2.0	850	砂岩
248		台石石皿	S	685	Ⅲ	12.6	9.5	2.9	600	砂岩
249		台石石皿	S	605	Ⅲ	12.2	7.8	2.8	420	砂岩
250		台石石皿	S	641	Ⅲ	24.6	8.3	1.9	900	砂岩
251		台石石皿	S	703	Ⅲ	17.5	17.6	1.9	790	砂岩
252		台石石皿	S	656	Ⅲ	21.1	17.6	4.4	1,900	砂岩
73	253	台石石皿	1号配石	170	1号配石内	24.8	20.2	6.0	4,500	砂岩
	254	台石石皿	S	177	Ⅲ	23.0	17.8	4.3	3,550	砂岩
	255	台石石皿	S	158	Ⅲ	23.4	22.0	4.2	3,050	砂岩
74	256	台石石皿	S	183	Ⅲ	23.7	21.0	4.0	3,350	砂岩
	257	台石石皿	S	162	Ⅲ	34.5	18.7	4.2	4,400	砂岩
	258	台石石皿	S	701	Ⅲ	29.0	23.0	10.8	4,700	砂岩
75	259	台石石皿	S	670	Ⅲ	36.5	31.5	3.0	5,400	砂岩
	260	台石石皿	S	686	Ⅲ	39.2	22.1	8.0	10,500	砂岩
	261	台石石皿	S	631	Ⅲ	27.7	24.8	7.0	8,000	砂岩
76	262	台石石皿	S	679	Ⅲ	12.4	8.1	1.8	240	砂岩
	263	台石石皿	S	794	Ⅲ	9.7	8.4	2.6	310	砂岩

第10表 石器観察表(4)

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
76	264	台石石皿	S	151	Ⅲ	20.3	14.0	2.8	1,500	砂岩
	265	台石石皿	S	673	Ⅲ	7.9	5.8	2.2	145	砂岩
	266	台石石皿	5号配石	789	5号配石内	13.8	8.8	3.4	750	砂岩
	267	台石石皿	S	543	Ⅲ	18.1	17.1	4.0	2,000	砂岩
77	268	台石石皿	N	13	Ⅲ	17.5	10.2	3.2	890	砂岩
	269	台石石皿	5号配石	793	5号配石内	16.7	10.0	6.7	1,600	砂岩
	270	台石石皿	S	386	Ⅲ	20.4	9.8	4.0	900	砂岩
	271	台石石皿	S	215	Ⅲ	21.3	14.0	2.9	1,400	砂岩
78	272	台石石皿	S	693	Ⅲ	14.6	13.9	6.2	1,060	砂岩
	273	台石石皿	S	803	Ⅲ	23.5	15.8	3.9	1,350	砂岩
	274	台石石皿	S	93	Ⅲ	20.3	15.6	2.5	1,250	砂岩
	275	台石石皿	S	107	Ⅲ	11.8	10.3	2.2	530	砂岩
79	276	台石石皿	S	533	Ⅲ	15.2	13.7	3.1	860	砂岩
	277	台石石皿	S	158	Ⅲ	14.8	11.8	4.5	1,000	砂岩
	278	台石石皿	S	553	Ⅲ	22.6	14.9	3.4	2,000	砂岩
	279	台石石皿	S	447	Ⅲ	20.7	15.1	3.4	1,100	砂岩
80	280	台石石皿	S	164	Ⅲ	22.2	19.3	3.7	1,750	砂岩
	281	台石石皿	3号配石	197	3号配石内	25.3	18.6	4.0	2,950	砂岩
	282	台石石皿	S	135	Ⅲ	20.7	23.8	3.7	2,000	砂岩
	283	台石石皿	S	114	Ⅲ	19.3	15.8	4.2	1,500	砂岩
81	284	台石石皿	S	159	Ⅲ	26.7	17.4	3.0	2,400	砂岩
	285	台石石皿	3号配石	191	3号配石内	30.0	26.7	4.5	4,900	砂岩
	286	台石石皿	S	532	Ⅲ	44.0	19.5	5.6	7,000	砂岩
	287	台石石皿	5号配石	786	5号配石内	26.3	16.6	4.2	2,450	砂岩
82	288	石斧	S-b	881	Ⅲ	8.9	7.32	2.43	226	砂岩
	289	石斧	S	60	Ⅲ	6.4	4.88	1.26	42.88	貫岩
	290	石斧	S-b	952	Ⅲ	8.29	7.37	2.36	127.89	砂岩
	291	剥片石器	S	47+A	Ⅲ	4.33	7.18	1.38	44.59	砂岩
83	292	剥片石器	S-b	949	Ⅲ	7.7	7.7	1.8	87.78	砂岩
	293	スクレイパー	S	81	Ⅲ	5.95	6.7	2.5	56.69	砂岩
	294	剥片石器	S	71	Ⅲ	2.6	6.8	0.4	7.92	貫岩
	295	剥片石器	S	50	Ⅲ	6.5	12.0	1.0	95	砂岩
	296	剥片石器	S	61	Ⅲ	4.67	6.04	0.97	20.22	砂岩
84	297	磨石敲石	S-b	898	Ⅲ	4.2	3.6	1.4	30	砂岩
	298	磨石敲石	S-b	901	Ⅲ	6.6	5.6	2.5	50	砂岩
	299	磨石敲石	S-b	891	Ⅲ	8.7	5.4	2.7	180	砂岩
	300	磨石敲石	S-b	848	Ⅲ	7.9	5.8	3.1	220	砂岩
	301	磨石敲石	S	79	Ⅲ	7.3	6.3	2.9	190	砂岩
	302	磨石敲石	S-b	892	Ⅲ	7.3	5.2	2.2	150	砂岩
	303	磨石敲石	S-b	946	Ⅲ	6.4	5.0	2.8	110	砂岩
	304	磨石敲石	S-b	893	Ⅲ	5.8	5.3	2.5	100	砂岩
	305	磨石敲石	S-b	844	Ⅲ	9.0	8.1	4.6	450	砂岩
	306	磨石敲石	S-b	872	Ⅲ	7.8	7.8	2.8	240	砂岩
85	307	磨石敲石	S-b	835	Ⅲ	7.0	6.5	2.7	150	砂岩
	308	磨石敲石	S-b	850	Ⅲ	9.7	9.3	6.9	850	砂岩
	309	磨石敲石	S-b	887	Ⅲ	8.4	6.7	6.3	490	砂岩
	310	磨石敲石	S-b	836	Ⅲ	9.3	8.5	6.8	700	砂岩
	311	磨石敲石	S-b	871	Ⅲ	10.5	9.3	5.6	750	砂岩
	312	磨石敲石	S-b	896	Ⅲ	8.3	6.3	4.5	290	砂岩

第11表 石器観察表(5)

挿図 番号	遺物 番号	器種	出土区	取上 番号	出土層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量g	石材
86	313	磨石敲石	S-b	837	Ⅲ	11.0	9.8	6.0	900	砂岩
	314	磨石敲石	S-b	903	Ⅲ	12.3	11.0	5.0	1,050	砂岩
	315	磨石敲石	S	59	Ⅲ	12.0	10.9	8.6	1,500	砂岩
	316	磨石敲石	S-b	870	Ⅲ	11.7	9.4	5.5	820	砂岩
	317	磨石敲石	S-b	832	Ⅲ	14.0	10.5	3.6	770	砂岩
87	318	磨石敲石	S-b	867	Ⅲ	5.4	5.1	4.3	150	砂岩
	319	磨石敲石	S-b	853	Ⅲ	5.5	4.5	3.6	100	砂岩
	320	磨石敲石	S-b	839	Ⅲ	8.1	4.1	3.3	220	砂岩
	321	磨石敲石	S-b	904	Ⅲ	8.7	7.9	3.7	350	砂岩
	322	磨石敲石	S-b	888	Ⅲ	9.6	8.2	3.8	400	砂岩
	323	磨石敲石	S-b	863	Ⅲ	8.0	6.2	3.7	250	砂岩
	324	磨石敲石	S-b	905	Ⅲ	6.9	2.3	3.9	80	砂岩
	325	磨石敲石	S-b	954	Ⅲ	10.4	8.7	6.3	750	砂岩
88	326	磨石敲石	S-b	907	Ⅲ	9.1	6.2	4.9	370	砂岩
	327	磨石敲石	S-b	880	Ⅲ	9.7	7.8	4.1	450	砂岩
	328	磨石敲石	S-b	866	Ⅲ	9.8	9.4	4.6	600	砂岩
	329	磨石敲石	S-b	857	Ⅲ	9.0	4.5	3.9	190	砂岩
	330	磨石敲石	S-b	889	Ⅲ	7.3	3.3	3.4	105	砂岩
	331	磨石敲石	S-b	958	Ⅲ	10.5	8.0	6.4	790	砂岩
89	332	台石石皿	S-b	847	Ⅲ	14.8	14.7	5.0	1,200	砂岩
	333	台石石皿	S-b	900	Ⅲ	25.0	20.6	6.4	5,200	砂岩
	334	台石石皿	S-b	846	Ⅲ	34.9	33.5	10.8	20,000	砂岩
90	335	台石石皿	S-b	856	Ⅲ	22.6	15.2	5.3	3,000	砂岩
	336	台石石皿	S-b	843	Ⅲ	17.8	19.7	2.8	1,900	砂岩

第12表 柱穴内出土遺物

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	柱穴NO	部位	色調外面	色調内面
91	337	柱穴55-1	柱穴41	フタ	暗褐	明赤褐
	338	柱穴20-1	柱穴10	底部	灰オリーブ	灰オリーブ
	339	柱穴26-1	柱穴1	口縁部	灰褐	褐灰
	340	柱穴67-10	柱穴47	胴部	暗褐	褐灰
	341	柱穴67-11	柱穴47	胴部	にぶい赤褐	褐灰
	342	柱穴67-9	柱穴47	口縁部	灰褐	褐灰
	343	古銭	柱穴35			

挿図 番号	遺物 番号	器種	取上番号	柱穴NO	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	石材
92	344	磨石叢石	9-2-1	柱穴28	15.2	5.5	4.9	700	砂岩
	345	磨石叢石	70-1	柱穴55	8.7	7.8	3.5	300	砂岩
	346	台石石皿	60-4	柱穴54	20.2	22.6	6.0	4,650	砂岩
	347	砥石	67-5	柱穴47	27.9	19.4	11.4	9,000	砂岩

第四章 調査のまとめ

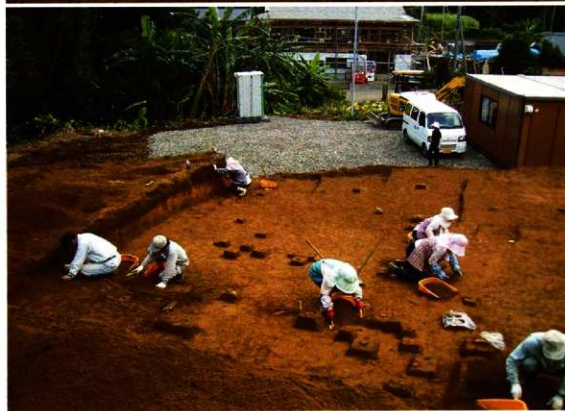
第1節 調査結果

調査を実施した中園A・B遺跡は、縄文時代早期前葉・中葉及び近世の複合遺跡であることが明らかとなった。詳細に言えば、A遺跡は縄文時代早期中葉の遺跡、B遺跡は縄文時代早期前葉・中葉、近世の遺跡であった。種子島では縄文時代草創期・早期前葉の遺跡の発掘調査が相次ぎ、良好な資料の報告例が相次いでいるが、今回の調査でさらに縄文時代早期の充実した資料が出土したことから、種子島の縄文時代研究に貴重な情報を与えてくれたといえる。さらに、種子島では報告例が極めて少ない、近世の掘立柱建物跡や関連する柱穴が発見されたことが注目される。島内での類例が少ないため、明確なことは判断できなかったが、今後の種子島の近世の歴史を調査研究するうえで、貴重な資料となった。

第2節 調査のまとめ

本遺跡の出土土器の主体は、縄文時代早期前葉の水迫式土器、縄文時代早期中葉の壺ノ神式土器であった。確認調査では、水迫式土器が出土していなかったため、想定外であった。水迫式土器は指宿方面で出土報告例があるが、出土例が少なく、不明な点が多い土器である。当然種子島でまとめて出土した例は本遺跡が初見であり、今後の研究を進めていく上で貴重な資料となった。縄文時代早期中葉の壺ノ神式土器については、これまで島内での報告例も多いが、文様の形態が貝殻施文である事や器形が屈曲せず、胴部から口縁部までそのまま円筒形を呈する形態のものが出土したことは、資料を補強する上でも貴重な発見となった。石器類では特に縄文時代早期前葉のすり石・敲石、台石・石皿類が大量に出土した事が注目される。島内では同じ立山地区内にある奥ノ仁田遺跡からも、同様に大量の石器類の出土報告例がある。奥ノ仁田遺跡は、中園A・B遺跡よりも古い縄文時代草創期（約13,000年前）の遺跡であるが、当時は国内でもいち早く温暖化が進み、豊かな照葉樹林が島内に繁茂し、その植物資源を食料としたため、植物食料を加工するためにすり石・敲石、台石・石皿類が他地域よりいち早く大量に使用されたものと考えられている。本遺跡から出土した、大量のすり石・敲石、台石・石皿類についても同様に植物性食料を加工するために、製作されたものであり、その個数の多さから、植物性食料にかなりの割合で依存していた生活を送っていたことが推測される。いずれにしても、種子島の縄文時代のはじまりから早期にかけては、照葉樹林の恩恵を受け、利用していたことを再認識させる遺跡であった。遺構では、近世の掘立柱建物跡が4棟と関連する柱穴が、75基も検出されたことが特筆される。時期区分は柱穴内の遺物から近世としたが、検出面が攪乱層の部分もあり、断定しがたい面もある。ただし、近世相当の柱穴が75基も発見されたのは島内で初めてのことであり、今後の種子島の歴史を調査研究する上で、貴重な資料となった。建物4棟の性格等は现阶段では類例がないため不明であるが、立山地区は島主である種子島家の狩場であり、そのための仮屋がおかれていたという記録がある。種子島家に関連する建物である可能性もあり、類例が増加することによって、今後の再検証が必要と考える。

写真図版



写真図版1 発掘調査状況(中園A遺跡)



写真図版2 発掘調査状況(中園A遺跡土層断面)



写真図版3 遺物出土状況(中國A遺跡)



写真図版4 発掘調査状況(中園B遺跡)



写真図版5 発掘調査状況(中園B遺跡)



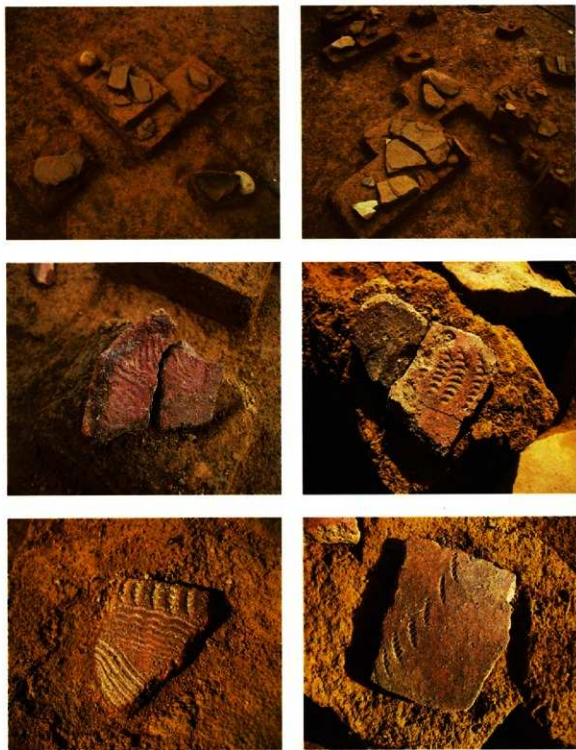
写真図版6 発掘調査状況(中園B遺跡)



写真図版7 発掘調査状況(中園B遺跡)



写真図版8 集石・配石遺構(中園B遺跡)



写真図版9 配石遺構及び遺構内出土遺物(中國B遺跡)



写真図版10 遺物出土状況(中園B遺跡)



写真図版11 遺物出土状況(中國B遺跡)



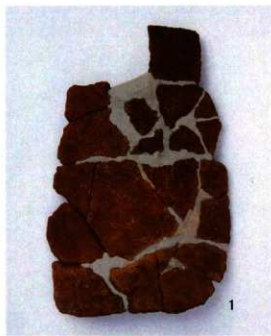
写真図版12 遺物出土状況(中園B遺跡)



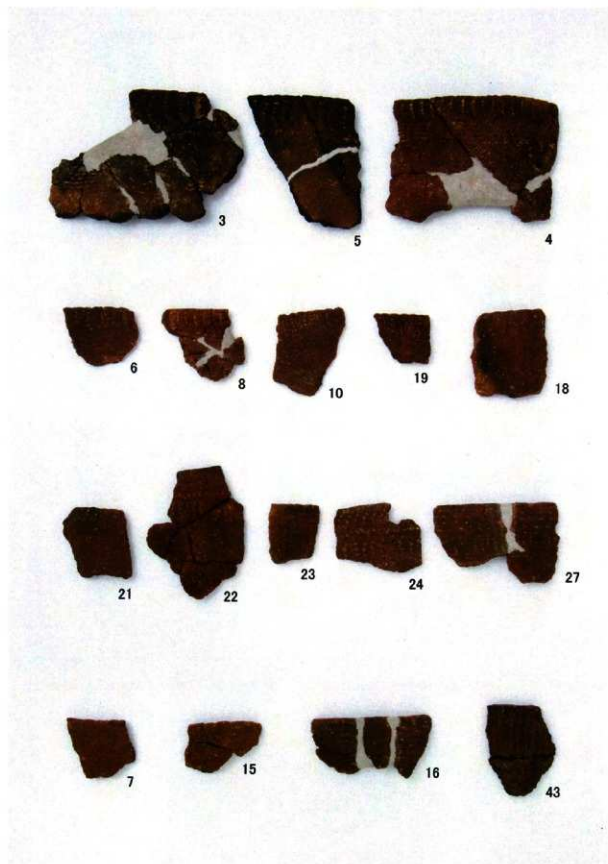
写真図版13 柱穴「掘立柱建物跡」検出状況(中園B遺跡)



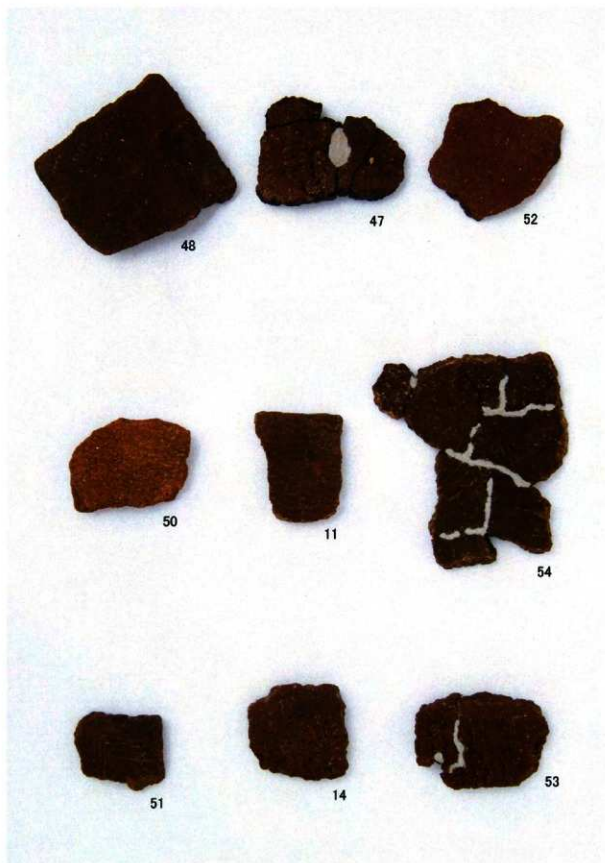
写真図版14 柱穴検出状況(中園B遺跡)



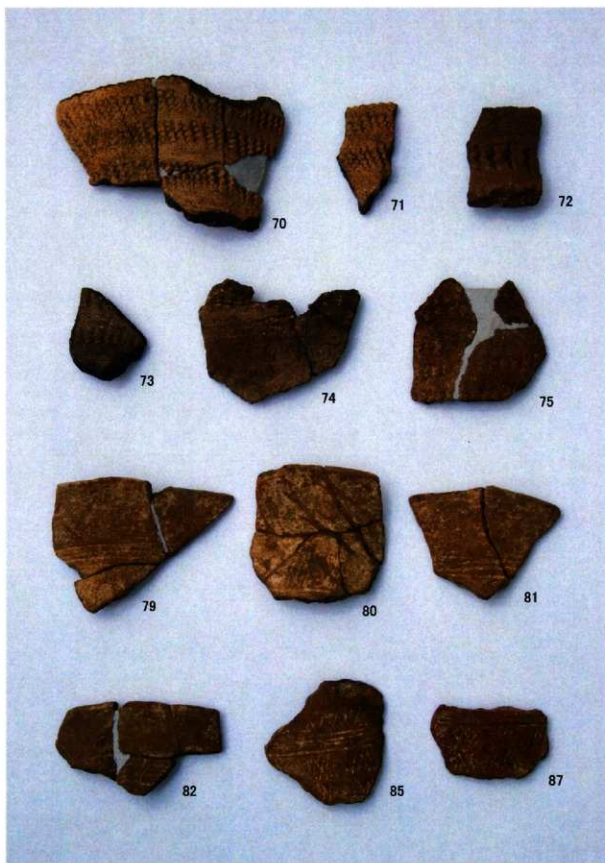
写真図版15 出土土器



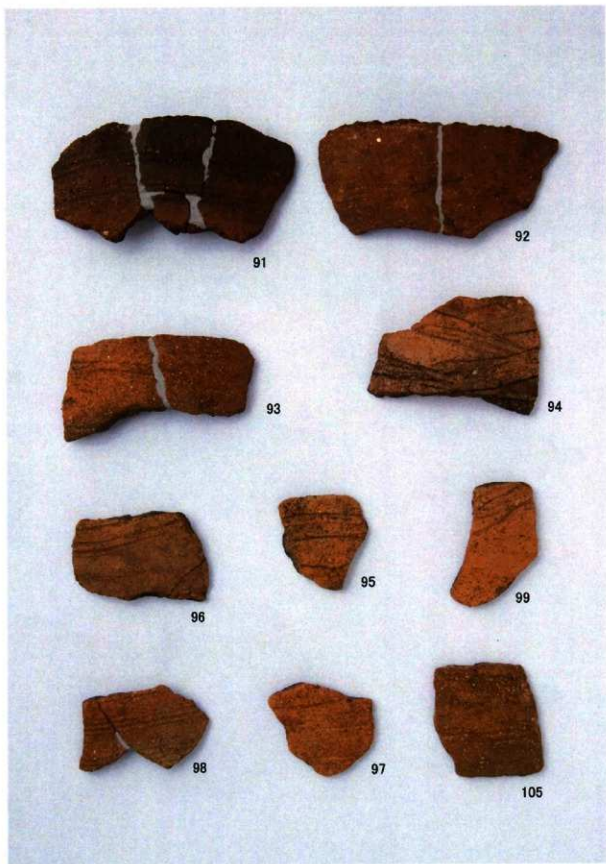
写真図版16 出土土器



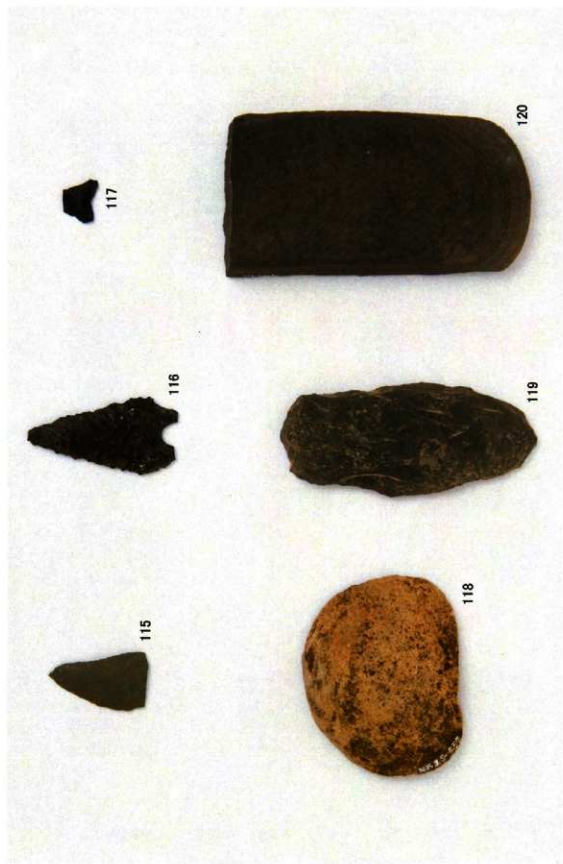
写真図版17 出土土器



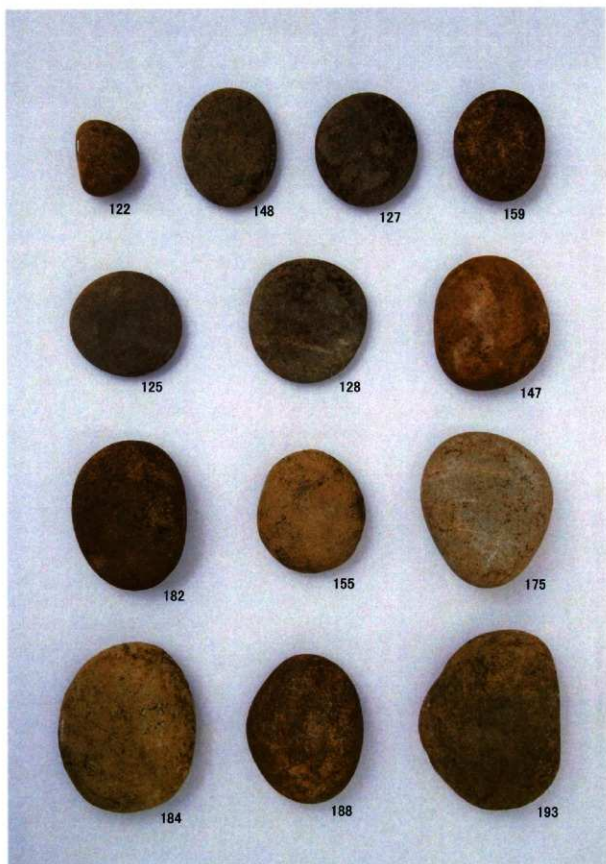
写真图版18 出土土器



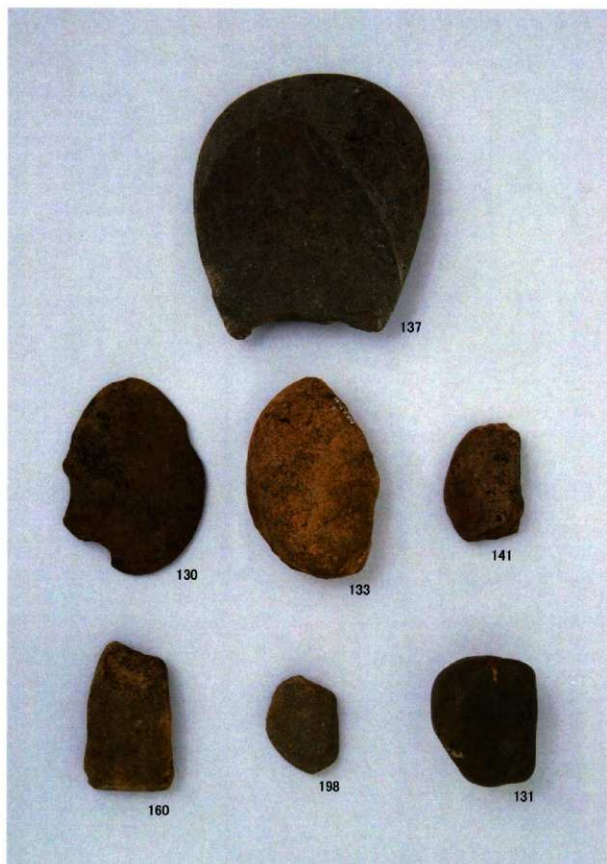
写真図版19 出土土器



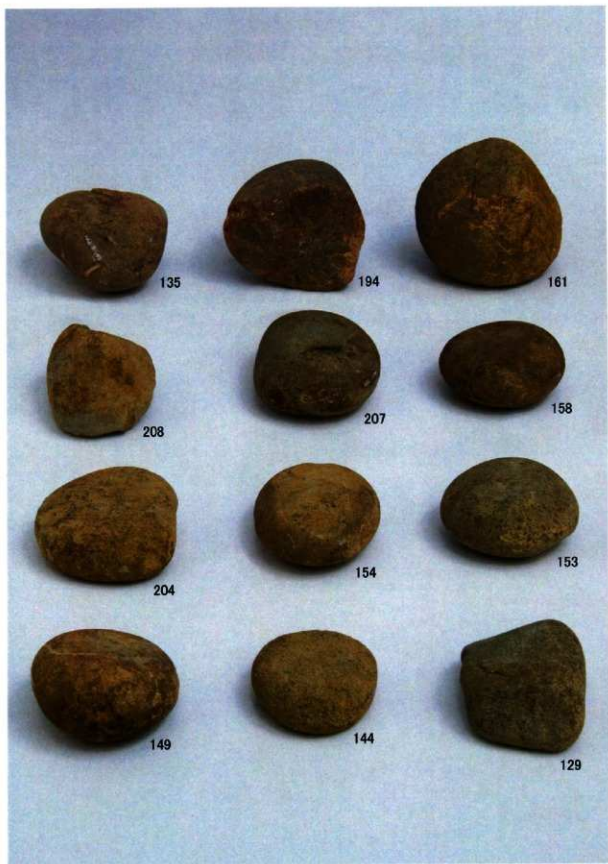
写真图版20 出土石器



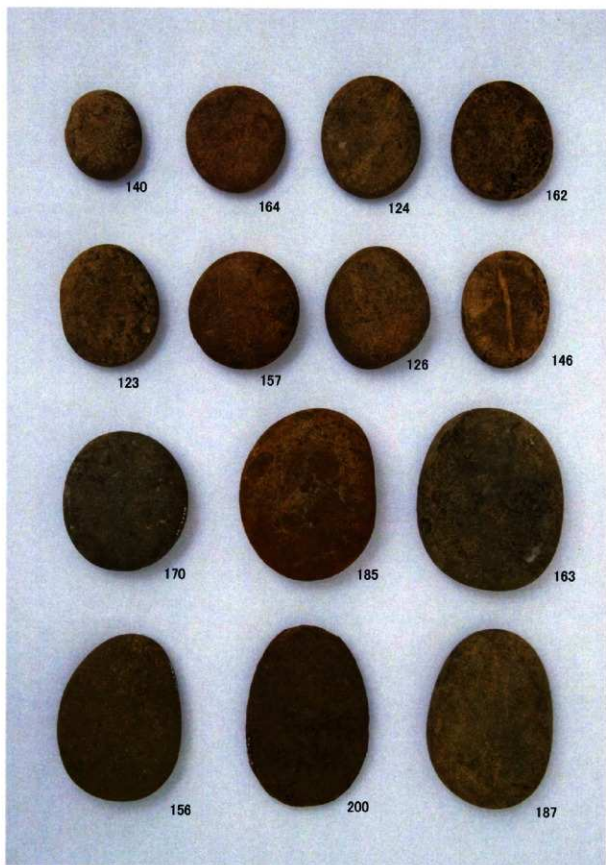
写真图版21 出土石器



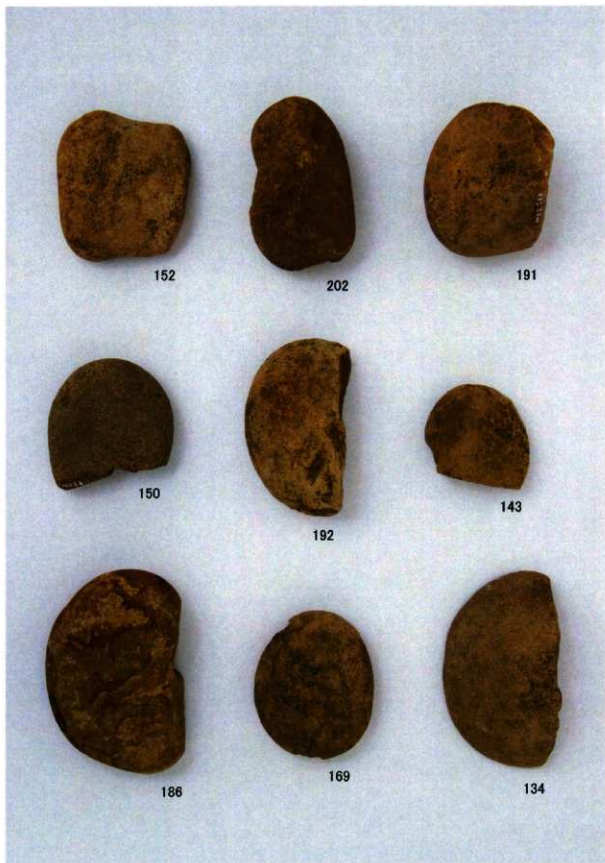
写真图版22 出土石器



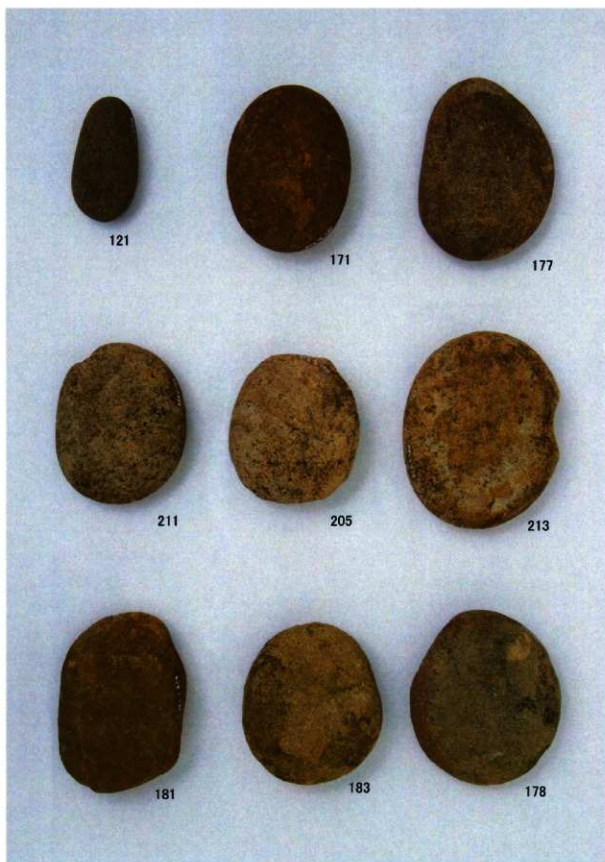
写真图版23 出土石器



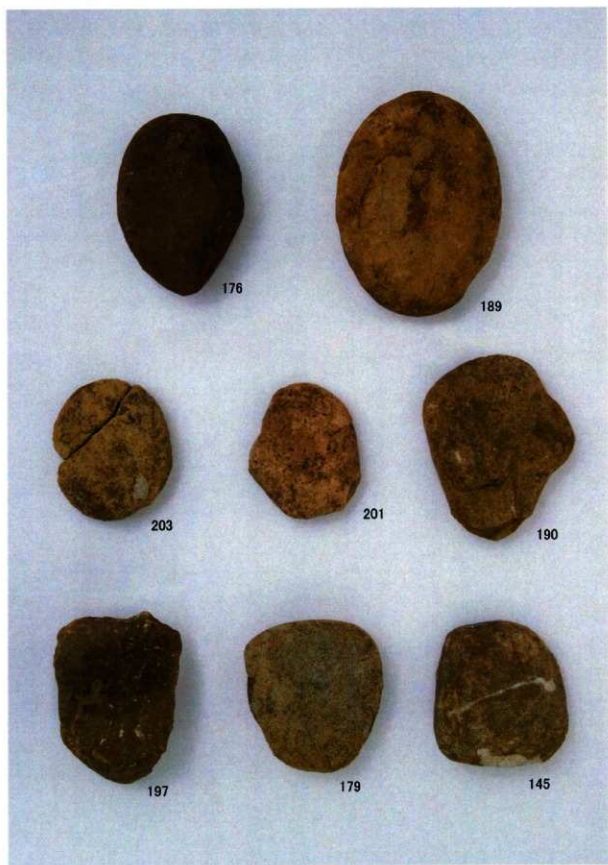
写真图版24 出土石器



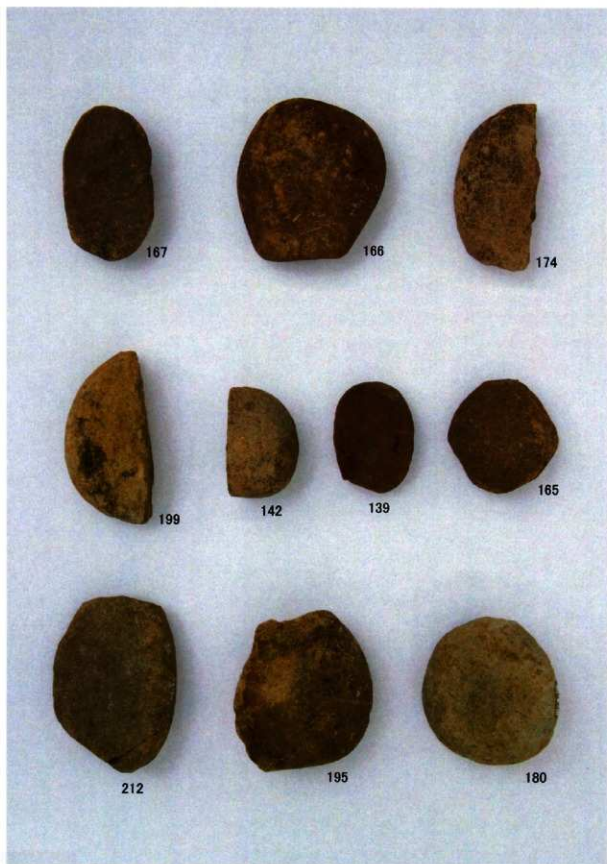
写真図版25 出土石器



写真図版26 出土石器



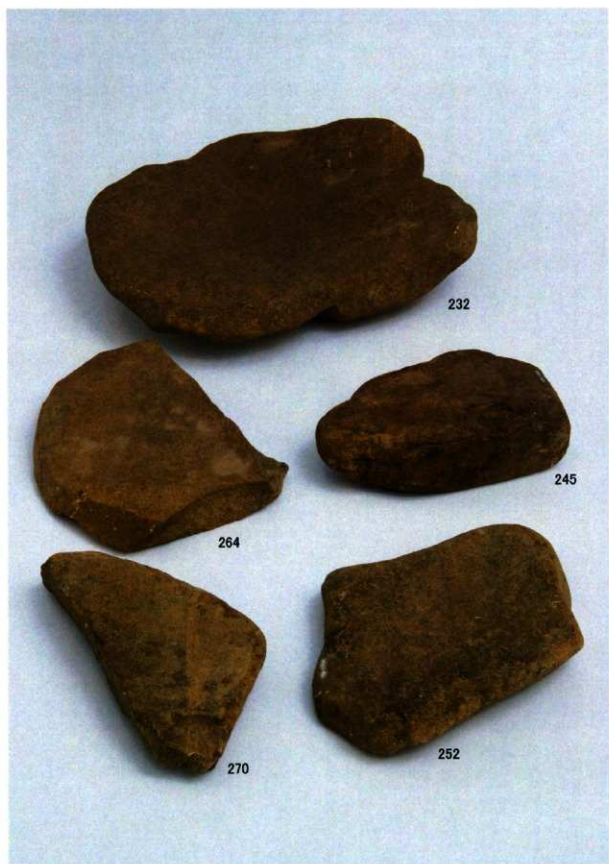
写真図版27 出土石器



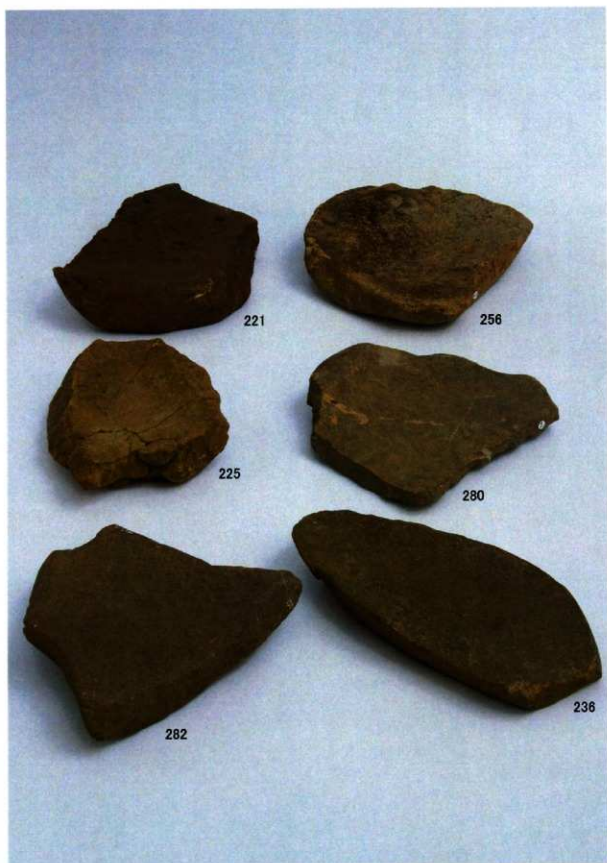
写真図版28 出土石器



写真図版29 出土石器



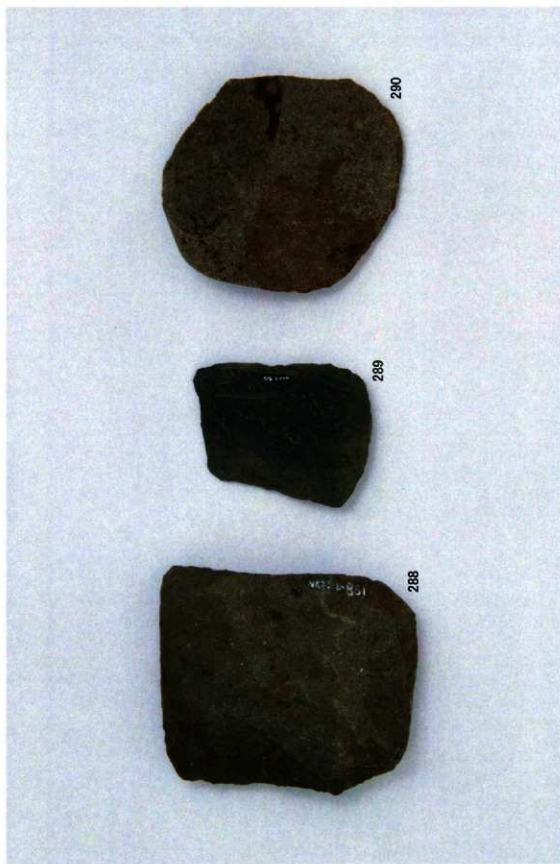
写真図版30 出土石器



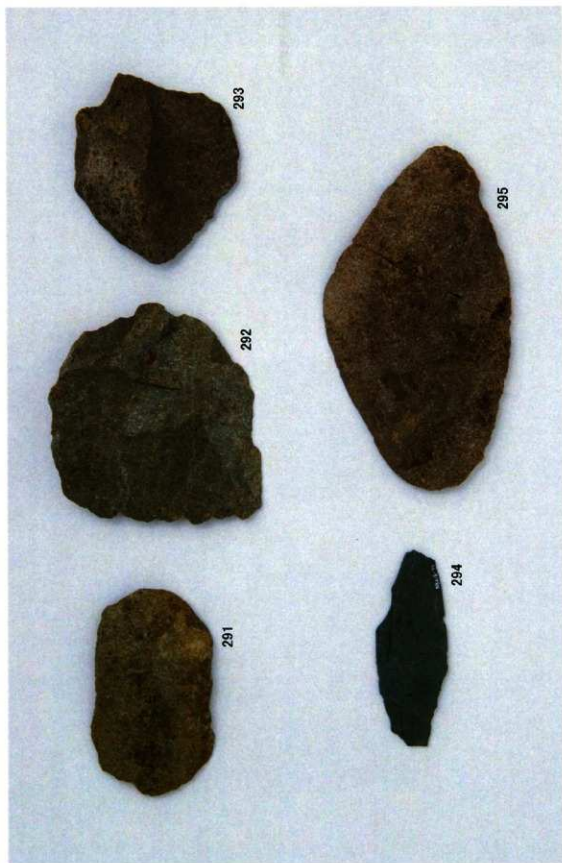
写真图版31 出土石器



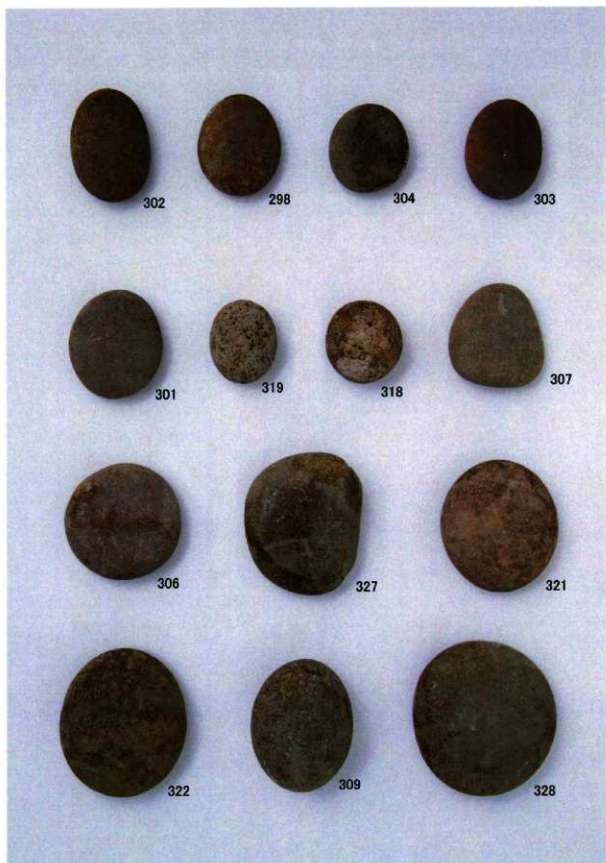
写真図版32 出土石器



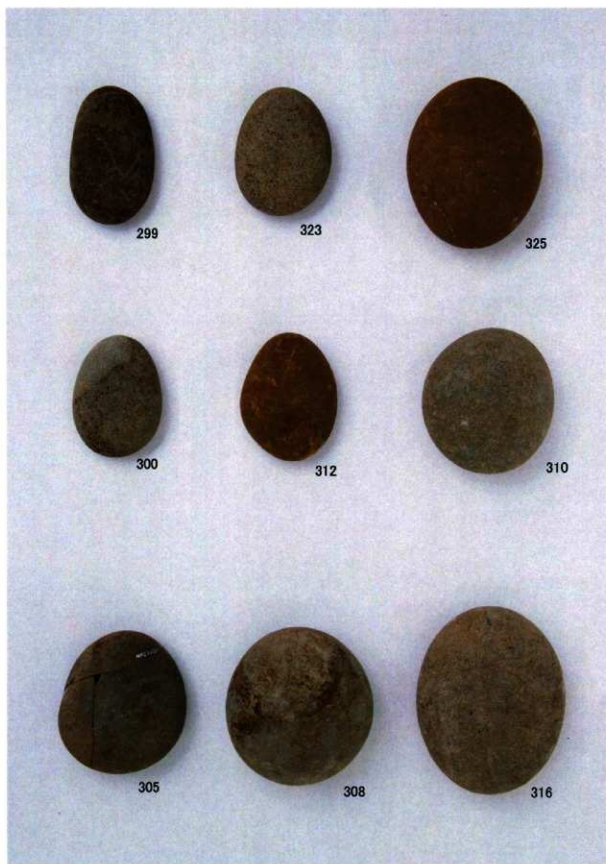
写真図版33 出土石器



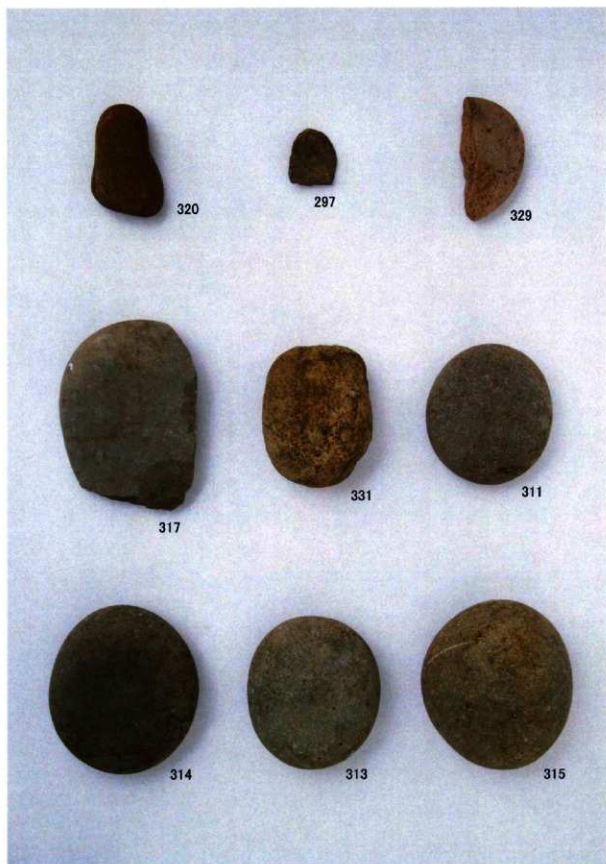
写真図版34 出土石器



写真图版35 出土石器



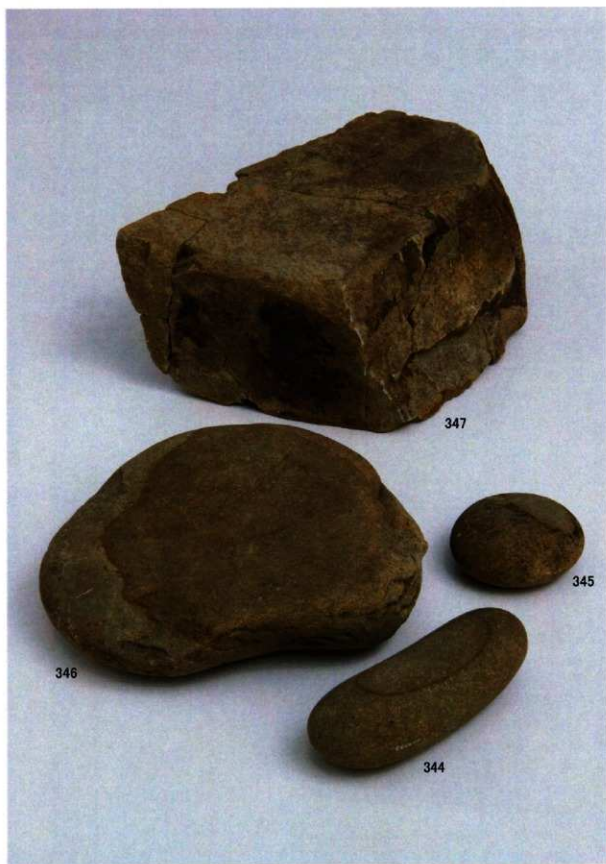
写真図版36 出土石器



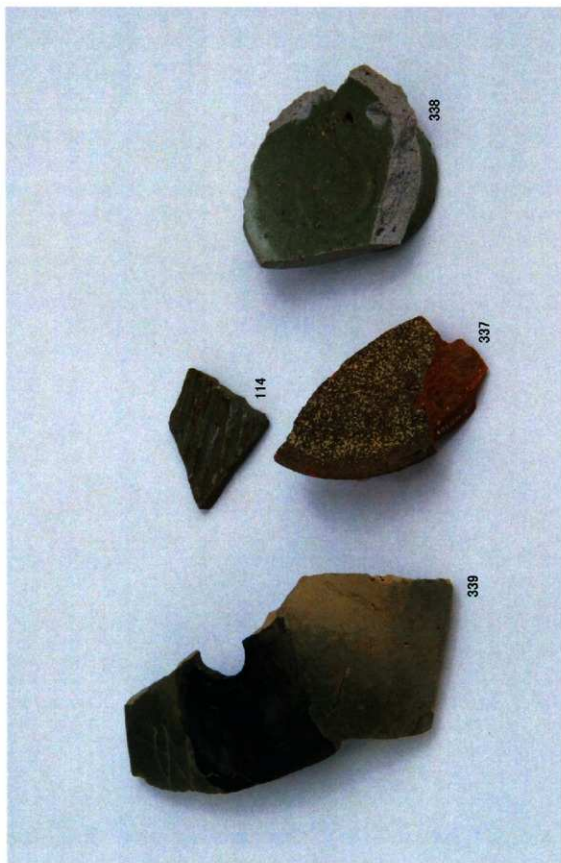
写真図版37 出土石器



写真図版38 出土石器



写真图版39 出土石器



写真図版40 柱穴内出土遺物



写真図版41 発掘調査作業員

西之表市埋藏文化財発掘調査報告書(27)

中園A・B遺跡

発行日 平成28年3月
編集・発行 西之表市教育委員会
〒891-3193
鹿児島県西之表市西之表7612番地
TEL 0997-22-1111
印刷 有限会社 種子島新生社印刷
〒891-3101
西之表市西之表16736-1
TEL 0997-22-0476